

14. 21-908



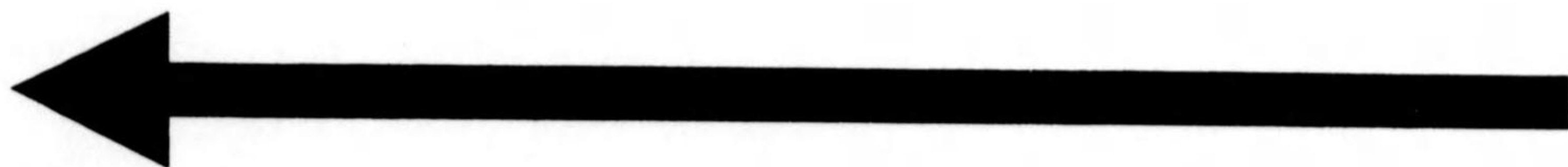
1200501163955

21

708



始





14.2  
908

和十三年度

日本中央蠶絲會事績報告

第七號

(代謄寫)

日本中央蠶絲會





本書は昭和十三年度(自昭和十三年四月至同十四年三月)に於ける本會實施の業務成績並其他會務一般に關する事項の梗概を収録したるものにして所定の報告書たらしむると同時に關係者の參考に供せんとするものなり。

昭和十四年十二月

同會 寄贈本



日本中央蠶絲會



昭和十三年度日本中央蠶絲會事績報告

目次

( 1 )

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 第一章 會 議                          | 一頁 |
| 第一 總會                            | 一  |
| 一 第十一回臨時總會(昭和十三年八月十六日)           | 一  |
| 二 第十二回通常總會(同十四年一月十九、二十日)         | 九  |
| 第二 評議員會                          | 三  |
| 一 第一回評議員會(昭和十三年四月一日)             | 三  |
| 二 第二回評議員會(同 年八月十五日)              | 三  |
| 三 第三回評議員會(同 十四年一月十六日)            | 六  |
| 四 第四回評議員會(同 年二月二十四日)             | 三  |
| 五 評議員書面決議                        | 三  |
| 第三 各種委員會其他                       | 五  |
| 一 蠶絲研究會(生絲格付方法改善に關する事項の調査研究附託)   | 四〇 |
| 二 繭檢定並格付方法に關する政府諮問事項調査委員會        | 四一 |
| 三 時局對策委員會(内外蠶絲對策に關する事項調査附託)      | 四二 |
| 四 蠶絲業作興に關する委員會                   | 四四 |
| 五 蠶絲研究會第一分科會(普通蠶種國家管理に關する事項調査附託) | 四七 |



六 同 第三分科會(絹の缺點防止に關する研究調査附託)..... 四

七 同 第四分科會(生絲の利用擴大に關する研究調査附託)..... 四

八 生絲消費増進宣傳事業、米國萬國博覽會參加出品繼續事業合同委員會..... 五

九 生絲消費増進宣傳事業特別委員會..... 五

十 米國萬國博覽會參加出品事業委員會..... 五

十一 生絲輸出増進施設委員會其他..... 六

十二 蠶絲會館委員會..... 六

十三 組織團體長及主事會議..... 七

十四 其他集會..... 七

一 蠶絲業に關する懇談會..... 七

二 支那蠶絲業對策に關する官民懇談會..... 七

三 各種審査會開催..... 七

第二章 業..... 七

第一 施設事項..... 七

一 組織團體統制施設承認に關する事項(生絲輸出同業會)..... 七

二 組織團體統制施設變更に關する事項(全國產業組合製絲組合助成施設變更)..... 七

三 建議陳情其他..... 七

一 蠶絲業作興に關する事項..... 七

(一) 蠶絲業作興方策に付建議..... 七

(二) 蠶絲業作興に關する施設實施方陳情..... 九

(三) 委員會運用に關する意見陳述..... 九

二 支那蠶絲業對策に付建議..... 一〇〇

三 原蠶種管理法實施に關する建議..... 一〇二

四 生絲取引改善に關する事項..... 一〇六

(一) 生絲格付方法改正に關する建議及處置..... 一〇六

(二) 國用生絲の改善に關する建議..... 一〇八

五 絲價の動向並蠶絲類統制に關する事項..... 一一三

(一) 絲價の動向再檢討に關し稟請..... 一一三

(二) 生絲消費制限並絹織物價格に關し陳情及具申..... 一一三

(三) 絹紡絲原料價格に關する具申..... 一一五

(四) 亞弗利加近東市場向輸出統制に關する稟申..... 一二七

六 特殊繭の大量増産計畫に關する陳情..... 一二九

七 農業保險法施行に關し稟請..... 一三三

八 災害對策に關する事項..... 一三四

(一) 凍霜其他被害救援方に付稟請..... 一三四

(二) 出水其他に因る被害桑園復舊施設助成に關し稟申..... 一三六

(三) 養蠶地方に於ける葉煙草栽培區劃制限に關し稟請..... 一三六

九 生繭輸送用ガソリン配給方に付稟請..... 一三三

四 養蠶對策に關する施設..... 一三三

一 時局下に於ける養蠶對策に關する事項..... 一三三

二 產繭確保獎勵施設方委囑其他..... 一三五

五 支那蠶絲業對策に關する事項..... 一四二



- 一 中支蠶絲組合の設立並事業支援に關する事項.....一四二
- (一) 中支蠶絲組合設立の經過.....一四二
- 二 華中蠶絲株式會社の設立及株式引受幹旋.....一四三
- (一) 華中蠶絲株式會社の成立.....一四三
- (二) 華中蠶絲株式會社定款及事業目論見書.....一四三
- (三) 華中蠶絲株式會社株式引受幹旋.....一四三
- (四) 華中蠶絲株式會社株式の分配.....一四三
- 三 支那蠶絲業狀況視察.....一四三
- (一) 岡本副會長現地視察.....一四三
- (二) 支那蠶絲業事情視察員派遣.....一四三
- 六 蠶絲祭式典舉行.....一四三
- 七 陸海軍將兵に對する感謝表明其他.....一四三
- 一 陸海軍に對する感謝表明.....一四三
- 二 戰死病歿將兵に對する敬弔.....一四三
- 三 傷痍軍人優遇措置に關する事項.....一四三
- 八 國民精神作興運動に關する事項.....一四三
- 九 ラヂオ産業ニエースの提供.....一四三
- 第二 特別調査施設.....一四三
- 一 蠶絲業作興に關する事項の調査研究.....一四三
- 二 生絲格付方法改善に關する調査.....一四三
- 三 繭檢定方法並格付に關する政府諮問事項の調査.....一四三

- 四 普通蠶種國家管理に關する調査(蠶絲研究會第一分科會附託).....一四三
- 五 中央繭標準掛目協定委員會設置に關する調査(同 第二分科會附託).....一四三
- 六 絹の缺點防止に關する研究調査(同 第三分科會附託).....一四三
- 七 生絲の利用擴大に關する研究調査(同 第四分科會附託).....一四三
- 第三 一般蠶絲業調査事項.....一四三
- 一 調査項目.....一四三
- 二 調査實施成績.....一四三
- 三 昭和十三年度蠶絲業に關する調査事業經費.....一四三
- 〔附〕 絹帽子使用試驗調査成績概要.....一四三
- 第四 生絲消費増進宣傳に關する事項.....一四三
- 一 内地宣傳に關する事項.....一四三
- 一 第六回絹新製品競技展覽會.....一四三
- 二 國產絹の講演と映畫の會開催.....一四三
- 三 宣傳標語及ポスター圖案懸賞募集.....一四三
- (一) 宣傳標語の懸賞募集.....一四三
- (二) 時局と蠶絲愛護に關する宣傳ポスター圖案の懸賞募集.....一四三
- 四 標本映畫貸出其他供使用.....一四三
- (一) 絹新製品標本の貸出.....一四三
- (二) 宣傳映畫の貸出.....一四三
- (三) 映畫「シルク、オーム」複製承認.....一四三
- 五 印刷物の配布.....一四三



- (一) 絹物愛用宣傳ポスター印刷配布..... 三〇〇
- (二) 第五回絹新製品競技展覽會入賞品見本帖の作製配布..... 三〇一
- (三) 絹物讀本の印刷配布..... 三〇一
- (四) 絹新製品座談會記錄印刷配布..... 三〇一
- 六 廣告記事掲載..... 三〇一
- 二 海外宣傳に關する事項..... 三〇一
  - 一 外國宣傳費交付に關する事項..... 三〇一
    - (一) 米國生絲消費増進宣傳費交付に關する事項..... 三〇三
    - (二) 歐洲生絲消費増進宣傳費交付に關する事項..... 三〇四
  - 二 標本資料其他海外への寄贈..... 三〇五
    - (一) 蠶絲標本の寄贈..... 三〇五
    - (二) 蠶絲映畫の寄贈..... 三〇五
    - (三) 絹製米國旗の配付..... 三〇六
- 三 蠶絲標本製作の受諾處理..... 三〇七
- 四 海外蠶絲絹業關係來朝者接待に關する事項..... 三〇九
- 三 特殊宣傳に關する事項..... 三〇〇
  - 一 地方團體主催絹新製品展覽會の後援並特別出陳..... 三〇〇
  - 二 銘仙婦人子供座談會後援..... 三〇二
  - 三 絹物消費増進宣傳施設助成..... 三〇二
- 四 絹新製品實物宣傳事業に關する事項..... 三〇三
  - 一 昭和十三年度絹新製品頒布實績..... 三〇三

- 二 絹新製品實物宣傳事業總括(通計)..... 三〇六
- 三 絹新製品實物宣傳事業に關する資産..... 三〇九
- 五 生絲消費増進宣傳事業費收入に關する事項..... 三〇〇
  - 一 昭和十三年度宣傳費收入狀況..... 三〇〇
  - 二 第一次生絲消費増進宣傳事業費割當金未納に關する事項..... 三〇一
- 第五 米國萬國博覽會參加出品繼續事業に關する事項..... 三〇二
  - 一 米國萬國博覽會參加出品概要..... 三〇二
  - 二 諸設備及出品物其他の製作並輸送..... 三〇五
  - 一 桑港萬國博覽會に關する事項..... 三〇五
  - 二 紐育萬國博覽會に關する事項..... 三〇九
  - 三 印刷物追送..... 三〇四
  - 三 職員及製絲實演工手派遣..... 三〇四
  - 四 博覽會開場及實施事項..... 三〇六
    - 一 桑港萬國博覽會開場..... 三〇六
    - 二 現地に於ける實施事項..... 三〇七
  - 第六 生絲輸出振興施設に關する事項..... 三〇八
    - 一 生絲輸出振興施設計畫概要..... 三〇八
    - 二 生絲輸出振興施設委員會..... 三〇〇
    - 三 生絲輸出振興に關する懇談會開催..... 三〇一
    - 四 生絲輸出振興施設實施成績概況..... 三〇五
  - 第七 蠶絲會館の運營管理及増築に關する事項..... 三〇七



- 一 蠶絲會館(本館)の運營管理…………… 三六七
- 二 蠶絲會館増築工事に關する事項…………… 三六一
- 一 經費豫算の更正及流用…………… 三六二
- 二 蠶絲會館増築工事竣工期日の延長…………… 三六七
- 三 蠶絲會館(別館)工事竣工…………… 三六八
- (一) 蠶絲會館(別館)建築工事概要…………… 三六九
- (二) 蠶絲會館(別館)建築物平面略圖…………… 四〇二
- (三) 蠶絲會館(別館)増築施工一覽…………… 四〇五
- 四 蠶絲會館(別館)使用に關する事項…………… 四〇七
- 第八 印刷物其他の刊行配布…………… 四二一
- 一 事業報告に關する印刷物…………… 四二二
- 二 蠶絲業統計及資料に關する印刷物…………… 四二二
- 三 蠶絲業の改良發達並生絲消費増進其他に關する普及宣傳用印刷物…………… 四二三
- 第九 各種要望の接受及處理…………… 四三三
- 第三章 會則變更並諸規程の制定及改廢…………… 四三九
- 第一 會則變更及總會議事規程改正…………… 四三九
- 第二 諸規程の制定及改廢…………… 四四二
- 一 俸給、旅費支給規程中改正…………… 四四二
- 二 生絲輸出振興助成に關する事項…………… 四四三
- 三 產繭確保獎勵施設要綱…………… 四四四
- 四 蠶絲研究會調査研究事項改正…………… 四四四

- 五 生絲消費増進宣傳事業に關する事項…………… 四四五
- 六 米國萬國博覽會參加出品に關する事項…………… 四四五
- 七 蠶絲會館設備利用に關する事項…………… 四五〇
- 第四章 補助金又は寄附金品の受納並交付…………… 四五二
- 第一 國庫助成金の受納…………… 四五三
- 第二 寄附物件の受納…………… 四五三
- 第三 金品の交付又は寄贈…………… 四五三
- 第五章 役員及特別議員議員委員其他に關する事項…………… 四五六
- 第一 役員異動…………… 四五六
- 第二 議員異動…………… 四五六
- 第三 各種委員異動…………… 四五六
- 第四 役員身分に關する事項…………… 四五九
- 第五 組織團體長異動…………… 四四四
- 第六 現在役員特別議員議員及委員氏名…………… 四四五
- 一 役員…………… 四四五
- 二 特別議員及議員…………… 四四六
- 三 各種委員…………… 四四八
- 一 蠶絲研究會に關する委員…………… 四四八
- (一) 蠶絲研究會委員(其一)…………… 四四八
- (二) 蠶絲研究會專門(委員第一乃至第三委員)…………… 四四九
- (三) 蠶絲研究會委員(其二)…………… 四五〇



|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 蠶絲研究會第一分科會委員                    | 四四 |
| 蠶絲研究會第二分科會委員                    | 四四 |
| 蠶絲研究會第三分科會委員                    | 四五 |
| 蠶絲研究會第四分科會委員                    | 四五 |
| 蠶絲研究會幹事                         | 四五 |
| (八)時局對策委員會委員                    | 四五 |
| (七)生絲消費增進宣傳事業に關する委員             | 四五 |
| (六)生絲消費增進宣傳事業(第一次)委員            | 四五 |
| (五)國際生絲委員會委員                    | 四五 |
| (四)米國萬國博覽會參加出品事業委員              | 四五 |
| (三)蠶絲會館委員                       | 四五 |
| (二)生絲輸出增進施設委員                   | 四五 |
| 蠶絲業作興に關する研究委員會委員                | 四五 |
| 繭檢定方法及格付に關する政府諮問事項調查委員及專門委員     | 四五 |
| 繭織物振興委員會委員                      | 四五 |
| 昭和十三年度諸經費決算並財產目錄                | 四六 |
| 第六章 經常部經費                       | 四六 |
| 一 昭和十三年度經常部日本中央蠶絲會經費收支決算        | 四六 |
| 二 昭和十三年度經常部特別會計日本中央蠶絲會蠶絲會館費收支決算 | 四六 |
| 臨時部經費                           | 四七 |
| 一 昭和十三年度臨時部特別會計生絲消費增進宣傳事業費收支決算  | 四七 |

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 二 昭和十三年度臨時部特別會計米國萬國博覽會參加出品事業費收支決算     | 四八 |
| 三 昭和十三年度臨時部特別會計生絲輸出增進施設費收支決算          | 四九 |
| 四 昭和十三年度臨時部特別會計日本中央蠶絲會蠶絲會館增築工事繼續費收支決算 | 四九 |
| [附] 蠶絲會館增築(別館)工事費決算通計表                | 五〇 |
| (一) 蠶絲會館增築(別館)——特別基本金物件代換——關係資產表      | 五〇 |
| (二) 蠶絲會館增築(別館)——特別基本金所屬資產受拂決算         | 五〇 |
| 第三 昭和十三年度特別基本金所屬資產受拂決算                | 五〇 |
| 第四 昭和十三年度諸積立金其他資產受拂表                  | 五〇 |
| 第五 財產目錄                               | 五〇 |
| 第一表 一般資產表                             | 五〇 |
| [附] 一般資產增減明細書                         | 五二 |
| 第二表 絹新製品實物宣傳事業關係資產                    | 五二 |



# 昭和十三年年度日本中央蠶絲會事績報告

## 第一章 會 議

### 第一 總 會

#### 一 第十一回臨時總會

昭和十三年八月十六日蠶絲會館に於て第十一回臨時總會を開會し左の日程に依り各種案件を審議決定したり。

#### 一、日 程

昭和十三年八月十六日午前十時開會

- (一) 會長開會挨拶
- (二) 議事録署名入指名
- (三) 諸般ノ報告
- (四) 農林大臣告辭
- (五) 議 事
- 議案第一號 總會議事規程改正ノ件

( 1 )



- 議案第二號 昭和十三年度經常部日本中央蠶絲會經費收支追加更正豫算ノ件
- 議案第三號 昭和十三年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費收支追加更正豫算ノ件
- 議案第四號 昭和十三年度臨時部特別會計日本中央蠶絲會蠶絲會館増築工事繼續費收支更正豫算ノ件
- 議案第五號 蠶絲會館増築資金借款ニ關スル件變更
- 議案第六號 生絲格付方法改善ニ關スル調査研究事項ノ處理委任ノ件
- 議案第七號 組織團體統制施設承認ニ關スル件

其 他

議案第八號昭和十三年度臨時部特別會計生絲輸出増進施設費收支豫算(其他ヲ含ム追加案)  
右の外議員提出左記建議案ヲ採擇審議の上可決したり。

- 一、政府ニ於ケル羊毛代用特殊繭ノ大增産計畫並獎勵方針ニ對スル慎重考慮方建議ノ件(小口一善重一議員提出外五名賛成)

二、農林大臣告辭

告 辭 (吉田蠶絲局長代讀)

本日茲ニ日本中央蠶絲會第十一回臨時總會ノ開催セララルニ當リマシテ所懐ノ一端ヲ申述ベタイト存ジマス。  
支那事變勃發以來既ニ一ヶ年餘ノ歲月ヲ經過致シマシタガ、其ノ間戰線ニ於ケル皇軍將士ノ勞苦ヲ想起シ其ノ奮闘ニ對シテハ、只管感謝ノ意ヲ捧ゲマス同時ニ銑後ニ在ル國民ト致シマシテモ亦一段ト緊張シ以テ今次聖戰ノ終

局目的遂行ノ爲ニ國ノ總力ヲ發揮致サネバナラヌコトハ申ス迄モアリマセン。

蠶絲業ニ關係スル各位ニ於カレテモ、此ノ重大時局ニ處シ愈々蠶絲報國ノ信念ヲ以テ銑後ノ護リニ遺憾ナキヲ期セラレタイトデアリマス。

現下ノ戰時經濟ニ於テ最モ緊要ナル問題ハ輸出ノ振興ヲ圖ルコトニ依リ軍需其ノ他必要缺クベカラザル物資輸入力ノ増大ニ努ムルニアリマスコトハ、御承知ノ通りデアリマス。生絲ハ申迄モナク輸出ノ大宗トシテ之ガ貿易ノ消長ハ直ニ以テ事變下經濟政策ノ遂行上ニ重要ナル關係ガアルニ鑑ミマシテ、政府ニ於キマシテハ種々輸出振興ノ方策ニ付考究ヲ重ネ具體案ヲ得ルニ從ツテ實施ヲ致スツモリヲ以テ、今年度相當ノ豫算ヲ計上致シテ居リマスガ、今回ハ絹撚絲及下級生絲ニ付施設ヲ講ズルコトト致シマシタ。又他面ニ於キマシテ國內ニ於テハ棉花・羊毛等輸入纖維ノ統制ニ伴ヒ纖維資源ハ著シク不足ヲ來シ今後纖維資源ノ自給化ニ努ムルコト頗ル急ヲ要スルノ事情ニ稽ヘマシテ、我國唯一ノ國産纖維タル繭絲纖維ハ從來ト異ツタ分野ニ於ケル需要ニモ應ズルコトトシ以テ不足資源ノ補填ニ資シマスコトハ斯業ノ新ナル使命トシテ奮起ヲ要スル所デアルト思ヒマス。政府ニ於キマシテハ本年不取敢試驗的ノ意味ヲ以テ羊毛代用特殊繭ノ生産ヲ獎勵致シテ居リマスガ、明年度以降ニ於キマシテハ、特ニ此ノ方面ニ力ヲ注ギタイトデアリマス。

以上二ツノ事柄ヲ果シマス爲ニハ其ノ基礎條件トシテ繭生産ノ維持擴充ヲ圖ルコトガ第一デアルコトハ申ス迄モアリマセン。今春蠶期ニ於テハ各種ノ已ムヲ得ザル原因ニ因ルコトデハアリマスガ、尠カラザル減産ヲ見ルニ至リマシタコトハ甚ダ遺憾トスル所デアリマシテ、今後ハ可及的ニ種々ノ施設ヲ講ジ極力之ガ生産ノ維持擴充ニ努ムル



コトが必要デアリマス。斯界ノ指導的地位ニ在ル各位ハ此ノ點ニ十分ノ力ヲ致サレンコトヲ望ミマス。  
 次ニ支那蠶絲業ニ關シテハ官民一致協力シテ早クヨリ種々ノ應急對策ヲ講ジタノデアリマスガ今回華中蠶絲株式  
 會社ガ設立セラレテ日支蠶絲業調整ノ指導方針ニ基キ一元的統制ノ下ニ彼ノ地蠶絲業ノ經營ニ當ルベキ恒久的組織  
 ガ確立サレマシタコトハ、日支双方ノ蠶絲業ニトリ誠ニ幸ナコトデアリマス。本會社ノ運營ニ當ツテハ、今後トモ  
 官民相協力シテ所期ノ目的ヲ達成シマスヤウ遺憾ナキヲ期シタイト考ヘマス。  
 惟ヒマスルニ事變ノ徹底的解決マデニハ尙前途遼遠ナルモノガアルノデアリマス。各位ニ於カレマシテハ不動ノ  
 決意ヲ以テ緊張事ニ當リ事變下蠶絲業ノ使命達成ニ一層努力セラレンコトヲ望ンデ止マヌ次第デアリマス。  
 簡單乍ラ一言所懐ヲ述べ告辭ト致シマス。

昭和十三年八月十六日

農林大臣 有 馬 頼 寧

三、議定事項及處理

日程掲出の各案は一部修正の上原案可決(議事録参照)せられたるに依り經費豫算に關する事項は所定に依り農林大  
 臣の認可を経て之を施行し、其他の事項は夫々次の如く處置したり。

(一) 官廳の認可又は承認を経て實施したる事項

- 1 昭和十三年度經常部日本中央蠶絲會經費收支追加更正豫算ノ件 —— 決議第二號原案可決 ——  
 (昭和十三年九月六日農林省指令一三蠶第七一一二號農林大臣認可)
- 2 昭和十三年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費收支追加更正豫算ノ件 —— 決議第三號原案可決 ——

3 昭和十三年九月十日農林省指令一三蠶第七一一三號農林大臣認可)

3 昭和十三年度臨時部特別會計日本中央蠶絲會蠶絲會館増築工事繼續費收支更正豫算ノ件 —— 決議第四號原案可決 ——

4 蠶絲會館増築資金借款變更ニ關スル件 —— 決議第五號原案可決 ——

(同) 年同月同日農林省指令一三蠶第七一一五號 同 認可)

5 昭和十三年度臨時部特別會計生絲輸出増進施設費收支豫算ノ件 —— 決議第八號原案可決 ——  
 (同) 年九月二十一日農林省指令一三蠶第七五五號農林大臣認可)

昭和十三年度臨時部特別會計生絲輸出増進施設費收支豫算

(本豫算は議事録不登載に付茲に掲ぐ)

|     |                     |             |
|-----|---------------------|-------------|
| 收 入 | 金 壹 百 萬 七 千 壹 百 圓 也 | 收 入 豫 算 總 額 |
| 支 出 | 金 壹 百 萬 七 千 壹 百 圓 也 | 支 出 豫 算 總 額 |
| 差 引 |                     |             |

ナ シ



昭和十三年度臨時部特別會計生絲輸出增進施設費收支豫算表

| 款       | 項       | 豫算           |              | 種目      | 豫算說明   | 備考 |
|---------|---------|--------------|--------------|---------|--------|----|
|         |         | 額            | 目            |         |        |    |
| 一、國庫交付金 | 一、國庫交付金 | 1,000,000.00 | 1,000,000.00 | 一、國庫交付金 |        |    |
|         |         |              |              |         |        |    |
| 二、雜收入   | 一、雜收入   | 100.00       | 100.00       | 一、雜收入   | 預金利子其他 |    |
|         |         |              |              |         |        |    |
| 計       |         | 1,000,100.00 | 1,000,100.00 |         |        |    |

支出

| 款       | 項       | 豫算           |              | 種目         | 豫算說明                   | 備考 |
|---------|---------|--------------|--------------|------------|------------------------|----|
|         |         | 額            | 目            |            |                        |    |
| 一、給與費   | 一、給與費   | 3,500.00     | 3,500.00     | 一、俸給及雜給    | 職員一人月百圓七ヶ月分、七〇〇圓(八〇〇圓) |    |
|         |         |              |              |            |                        |    |
| 二、需要費   | 二、需要費   | 1,500.00     | 1,500.00     | 二、報酬手當     | 職員一人月百圓七ヶ月分、七〇〇圓(八〇〇圓) |    |
|         |         |              |              |            |                        |    |
| 三、執務補助費 | 三、執務補助費 | 2,000.00     | 2,000.00     | 三、旅費       | 委員會委員出席其他旅費            |    |
|         |         |              |              |            |                        |    |
| 二、事業費   | 一、獎勵費   | 1,000,000.00 | 1,000,000.00 | 一、備用品及消耗品費 | 什器及筆墨紙其他               |    |
|         |         |              |              |            |                        |    |
|         | 二、印刷費   | 600.00       | 600.00       | 二、印刷費      |                        |    |
|         | 三、通信運搬費 | 300.00       | 300.00       | 三、通信運搬費    | 郵便、電信、電話及荷造運搬料         |    |
|         | 四、雜費    | 200.00       | 200.00       | 四、雜費       |                        |    |
|         | 一、執務補助費 | 2,000.00     | 2,000.00     | 一、執務補助費    | 所屬團體事務費補助、二團體分一團體平均千圓  |    |



|           |       |           |
|-----------|-------|-----------|
| 計         | 三、豫備費 | 一、獎勵費     |
|           | 一、豫備費 | 一、豫備費     |
| 1,000,000 | 1,000 | 1,000,000 |
| 1,000,000 | 1,000 | 1,000     |
| 1,000,000 | 1,000 | 1,000     |
| 1,000,000 | 1,000 | 1,000     |

説明

本施設ハ時局下ニ於ケル國際收支ノ均衡ニ資スル爲横神生絲輸出増進施設ト相俟テ下級特太生絲並絹撚絲ノ輸出ヲ獎勵シ以テ生絲貿易ノ振興ヲ圖ラントスルモノニシテ、經費全額ハ國庫交付金ヲ財源トシテ之ヲ實施セントスルモノナリ

附帶事項

本經費豫算事項中官廳ノ指示ニ依リ變更ヲ要スルトキ又ハ本案實施方法ハ會長ニ於テ適當ニ處置スルモノトス各種施設に關する事項

- 1 生絲格付方法改善ニ關スル調査研究事項ノ處理委任ノ件——決議第六號原案可決——  
(八月十五日評議員會決議ニ依リ之ヲ蠶絲研究會へ調査附託ノ結果其成案ヲ得タルニ依リ昭和十四年一月

- 2 組織團體統制施設承認ニ關スル件決議——第七號修正可決——  
(八月十七日附横濱、神戸生絲輸出業者組合ニ對シ總會決議ニ依リ承認ノ旨ヲ通知シ、農林大臣ニ對シ輸出生絲取引法施行規則第十七條ノ二ニ依リ統制命令發布ノ上同施設ノ實効確保ニ付援助方ヲ稟請シタリ——別項掲出——)
- 3 政府ニ於ケル羊毛代用特殊繭ノ大增産計畫並獎勵方針ニ對スル慎重考慮方建議ノ件——議員提出——  
(昭和十三年八月二十九日農林大臣宛建議——別項掲出——)

(三) 其他の事項

- 1 總會議事規程改正ノ件——決議第一號一部修正可決——  
即日施行

二 第十二回通常總會

昭和十四年一月十九、二十の兩日に互り蠶絲會館に於て第十二回通常總會を開會し、左の日程に依り各種案件を審議決定したり。

一、日程

昭和十四年一月十九日、二十日午前十時



- 宮城遙拜
- (一) 會長挨拶
- (二) 議事録署名人指名
- (三) 諸般ノ報告
- (四) 農林大臣告辭
- (五) 議事

- 議案號外ノ一 陸海軍ニ對スル感謝表明ノ件
- 議案號外ノ二 戰死病歿將兵ニ對スル敬弔ノ件
- 議案第一號 昭和十二年度日本中央蠶絲會事業報告承認ノ件
- 議案第二號 昭和十二年度經常部日本中央蠶絲會經費收支決算承認ノ件
- 議案第三號 昭和十二年度經常部日本中央蠶絲會蠶絲會館費收支決算承認ノ件
- 議案第四號 昭和十二年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費收支決算承認ノ件
- 議案第五號 昭和十二年度臨時部特別會計蠶絲會館増築工事繼續費收支決算承認ノ件
- 議案第六號 昭和十二年度臨時部特別會計緊急施設費收支決算承認ノ件
- 議案第七號 特別基本金所屬資産受拂決算承認ノ件
- 議案第八號 昭和十二年度諸積立金其他資産受拂承認ノ件

- 議案第九號 財産目錄(附資産明細書)承認ノ件
- 議案第十號 昭和十四年度經常部日本中央蠶絲會經費收支豫算ノ件
- 議案第十一號 昭和十四年度經常部日本中央蠶絲會經費分賦收入方法ノ件
- 議案第十二號 昭和十四年度經常部特別會計日本中央蠶絲會蠶絲會館費收支豫算ノ件
- 議案第十三號 昭和十四年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費收支豫算ノ件
- 議案第十三號ノ二 絹新製品實物宣傳事業打切ニ關スル件
- 議案第十四號 昭和十四年度臨時部特別會計米國萬國博覽會參加出品繼續事業費收支豫算ノ件
- 議案第十五號 昭和十四年度臨時部特別會計時局施設費收支豫算ノ件
- 議案第十六號 昭和十四年度臨時部特別會計生絲輸出振興施設繼續費收支豫算ノ件
- 議案第十七號 昭和十四年度諸經費運用資金借入ニ關スル件
- 議案第十八號 昭和十三年度臨時部特別會計蠶絲會館増築工事繼續費實施並整理ニ關スル件
- 議案第十九號 日本中央蠶絲會々則中改正ノ件
- 議案第十九號ノ二 俸給旅費支給規程中改正ノ件
- 議案第二十號 繭檢定方法及格付ニ關スル政府諮問處置ノ件
- 議案第二十一號 原蠶種管理法實施延期ニ關スル建議處置ノ件
- 議案第二十二號 蠶絲業作興ニ關スル件



議案第二十三號 蠶絲業作興方策ニ付建議ノ件

以上の外議員提出左の建議案を採擇、審議の上委員會へ附託調査研究のことに決定したり。

1 蠶絲業統制ニ關スル建議ノ件（加藤議員外四名提出）

2 蠶絲業根本對策ノ研究並應急對策ノ實現ニ關スル件（今井議員外四名提案都木議員外二名賛成）

二、農林大臣告辭

一月十九日櫻内農林大臣臨席の上左の告辭を述べられたり。

告辭要旨

本日茲に日本中央蠶絲會第十二回通常總會を開催せらるゝに當りまして、所懐の一端を申上げる機會を得ましたことは私の洵に欣幸と致す所でございます。

國家非常の時局に際しまして不肖圖らずも今回農林大臣の重任を拜命致し、時局下に於て最も重要な農林行政に參與致すことになつたのでありますが、固より不敏非才其の職務の重きことに對して、自ら顧みて深く力の足らざるを惧るゝ次第であります。幸に各位の絶大なる御協力を得まして、此の大任を果すが爲に全力を傾倒致す考へであります。何卒切に各位の御援助を御願ひ申し上げます。

事變勃發以來既に一年有半の歳月を閲し、對支武力工作が著々所期の目的を收めて居るに伴ひまして、文化經濟工作も亦次第に歩を進めて参りまして、今や日滿支を一體とする東亞新秩序の建設に向つて邁進せんとする段階に入つたのでありますが、此の大目的を達成する爲には、今後相當長期に亘り一層物心兩面の強化を要することは御承

知の通りであります。従ひまして今後必要なる資材確保の爲に、生産力を維持擴充致しますと共に、一面輸出を振興し國際收支の調整を図ることは最も緊要の事柄となつて來たのであります。

更に銃後に於ける國民生活を安定向上せしむることは、長期建設の爲には缺くべからざる條件であります。斯の如き状態に於きましては、我が蠶絲業の地位は益々其の重要性を加へ來つたものと言はなければ相成りませぬ。即ち申上げるまでもなく、蠶絲業の消長は直に農村の經濟力及び國際收支に關係致し、延いては今次聖戰の目的遂行に影響する所も尠くないのでありますから、此の際之が生産を維持擴充して少しでも多くの生絲を輸出し、出来るだけ多額の外資を確保することに努めますると同時に、銃後の農村經濟力の強化に寄與することは寔に刻下の急務であります。

然るに最近に於ける繭絲生産の實情を見ますと、年々減少の傾向にありまして、昨昭和十三年度に於きましては、其の産額は七千五百萬貫餘でありまして、一昨年に較べますと實に一割三分の減少を示して居るのであります。斯の如く減産を見ましたことに付きましては、天候其の他人爲を以て如何とも爲し難き原因もありませうが、現下の時局に照らしまして寔に寒心すべき傾向であると申さねばなりません。政府に於きましては之が對策の樹立に付て種々研究を重ねて居る次第であります。事の性質に鑑みまして斯業に關與せらるゝ各位の御協力なくしては、到底有效適切なる施設の實施は困難であると考へられます。

時局は愈々重大を加へて参りまして、今後は従前にも増して、各方面に於て種々重要な問題の發生することを豫想されるのであります。此の難局を切抜けるには國民擧げて協力一致堅忍不拔の精神を發揮し、物心兩方面を總動



員して對處する覺悟が必要です。蠶絲業に於ける指導的地位を占めらるゝ各位に於かせられましては、十分是等の點を御認識せられ、時局に對應して遺憾なきやう萬全を期せられんことを切に希望する次第であります。甚だ簡單であります、一言所懐を述べて御挨拶に代へる次第であります。

三、議定事項及處理

提案事項中事業報告及經費決算豫算に關する事項は何れも原案通承認又は決議其他案件中一部修正の上全案可決せられ次の如く處置したり。

(一) 陸海軍に對する感謝其他

1 陸海軍ニ對スル感謝表明ノ件——決議號外ノ一原案可決——

(昭和十四年一月二十四日附陸海軍大臣及現地派遣軍部隊長並各艦隊司令長官宛感謝狀を發送せり)

2 戰死病歿將兵ニ對スル敬弔ノ件——決議號外ノ二、前 同——

(同 日靖國神社ニ敬弔文及玉串料を奉獻せり)——以上二件別項掲出——

(二) 事業報告及諸經費決算其他に關する事項

1 昭和十二年度日本中央蠶絲會事業報告承認ノ件——決議第一號原案承認可決——

2 昭和十二年度諸經費決算承認ノ件——決議第二號乃至第六號前 同——

3 基本金及諸積立金受拂並財産目錄承認ノ件——決議第七號乃至第九號前 同——

(以上九件昭和十四年一月二十三日農林大臣報告)

(三) 諸經費豫算其他に關する事項

1 昭和十四年度經常部日本中央蠶絲會經費收支豫算ノ件及同經費分賦收入方法ノ件——決議第十號及第十一號

原案可決——

(昭和十四年三月一日農林省指令十四蠶第九六四號認可)

2 昭和十四年度經常部日本中央蠶絲會蠶絲會館費收支豫算ノ件——決議第十二號前 同——

(昭和十四年三月一日農林省指令十四蠶第九六六號認可)

3 昭和十四年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費收支豫算ノ件——決議第十三號前 同——

(同 年三月一日農林省指令十四蠶第九六七號認可)

4 昭和十四年度臨時部特別會計米國萬國博覽會參加出品繼續事業費收支豫算ノ件——決議第十四號前 同——

(同 年三月一日農林省指令十四蠶第九六八號認可)

5 昭和十四年度臨時部特別會計時局施設費收支豫算ノ件——決議第十五號前 同——

(同 年三月一日農林省指令十四蠶第九六九號認可)

6 昭和十四年度臨時部特別會計生絲輸出振興施設繼續費收支豫算ノ件——決議第十六號前 同——

(同 年三月二十九日農林省指令十四蠶第一九二三號認可)

昭和十四年度臨時部特別會計生絲輸出振興施設繼續費收支豫算

(本豫算は議事録不登載に付茲に掲ぐ)











| 計            | 三、豫備費  | 二、事業費        | (四) 議情會費協 | (三) 情報費  | 4 雜費   | 3 通信運搬費        | 2 印刷費  | 1 備用品及消耗品費 | (二) 需要費 | 3 旅費     | 2 報酬手當      |
|--------------|--------|--------------|-----------|----------|--------|----------------|--------|------------|---------|----------|-------------|
| 1,010,100.00 | 100.00 | 1,000,000.00 | 2,000.00  | 2,500.00 | 150.00 | 100.00         | 200.00 | 250.00     | 200.00  | 2,100.00 | 1,000.00    |
| 1,010,100.00 | 100.00 | 1,000,000.00 | 2,000.00  | 2,500.00 | 150.00 | 100.00         | 200.00 | 250.00     | 200.00  | 2,100.00 | 1,000.00    |
| 2,010,200.00 | 100.00 | 2,000,000.00 | 4,000.00  | 5,000.00 | 300.00 | 400.00         | 400.00 | 500.00     | 400.00  | 4,200.00 | 2,000.00    |
|              |        |              |           |          |        | 郵便、電信、電話及荷造運搬料 |        | 什器、筆墨紙其他   |         |          | 委員及職員其他報酬手當 |

- 7 昭和十四年度諸經費運用資金借入ニ關スル件——決議第十七號原案可決——  
(同年三月一日農林省指令十四蠶第九七一號認可)
  - 8 絹新製品實物宣傳事業打切ニ關スル件——決議第十三號ノ二前 同——
  - 9 昭和十三年度臨時部特別會計蠶絲會館增築工事繼續費實施並整理ニ關スル件——決議第十八號前 同——  
(以上二件昭和十四年度に於て處理——別項掲出——)
- (四) 會則其他改正に關する事項
- 1 日本中央蠶絲會會則中改正ノ件——決議第十九號原案可決——  
(昭和十四年二月十五日農林省指令十四蠶第四七六號認可)
  - 2 俸給旅費支給規程中改正ノ件——決議第十九號ノ二原案可決——  
(前同日施行)
- (五) 各種施設に關する事項
- 1 繭檢定方法及格付ニ關スル政府諮問處置ノ件——決議第二十號原案可決——  
(本件調査委員會設置の上調査附託、成案處置評議員會委任)
  - 2 原蠶種管理法實施延期ニ關スル建議處置ノ件——決議第二十一號前 同——  
(昭和十四年一月二十三日附農林大臣宛建議)
  - 3 蠶絲業作興ニ關スル件——決議第二十二號前 同——



(蠶絲關係者)周知、竝次案に一括政府——内閣總理及各省大臣宛——提出)

4 蠶絲業作興方策ニ付建議ノ件——決議第二十三號前 同——

(昭和十四年二月二十三日政府——内閣總理及各省大臣宛——建議)

5 蠶絲業統制ニ關スル建議ノ件(加藤議員外四名提案)——委員會に附託調査のことに決定——

(蠶絲業作興に關する委員會を設置し之に調査研究を附託)

6 蠶絲業ノ根本對策ノ研究竝應急對策ノ實現ニ關スル件(今井議員外四名提案都木議員外二名賛成)——前同——

(前案と一括して前同附託)

(以上六件別項掲出)

## 第二 評 議 員 會

### 一 第一回評議員會

昭和十三年四月一日蠶絲會館に於て評議員會を開會左の事項を審議したり。

#### 一、報告事項

#### 二、議 事

(一) 國用生絲ノ改善ニ關スル建議ノ件

(二) 支那蠶絲業對策ニ關スル件

#### 三、諮 問

(一) 參事任用竝解任ニ關スル件

(二) 參事任用ニ關スル件

[決定事項]

#### 議 案

(一) 國用生絲ノ改善ニ關スル建議ノ件

蠶絲研究會ニ附託シタル國用生絲取引改善方法ニ關スル事項ハ其ノ調査研究ノ結果成案ヲ得テ委員長ヨリ報告アリタルニ依リ同案ニ基キ評議員會決議ヲ以テ農林大臣宛左ノ建議ヲ爲スモノトス

國用生絲ノ改善ニ關スル建議(案)——農林大臣宛——

(別項掲出)

(二) 支那蠶絲業對策ニ付建議ニ關スル件

時局對策委員會ニ於テ支那蠶絲業對策ニ付慎重審議ノ結果成案ヲ得タルニ依リ同案ニ基キ評議員會決議ヲ以テ左記ノ通政府當局へ建議スルモノトス

支那蠶絲業ニ付建議(案)——内閣總理大臣、各省大臣及企畫院總裁宛各別——

(別項掲出)



(附) 時局對策委員會に於て審議決定に係る左の對策案を採擇し本建議内容として政府に提出のことに決定せり。

支那蠶絲業對策(案)(時局對策委員會決議)

支那蠶絲業ハ我國蠶絲業ニ重大ナル影響アルニ依リ日支兩國斯業將來ノ爲左記要綱ニ依リ政府ニ於テ速ニ適切ナル方策ヲ樹テラレントヲ緊要ナリト認ム

一、省 略

二、右ノ方針ニ基キ日支蠶絲業ノ協調ヲ圖ル爲メ日支合辦ニ依ル機關ヲ設クルコト

三、右機關ハ左記事業ヲ行フコト

イ、蠶種ノ製造及配給

ロ、産繭ノ處理

ハ、製絲ノ經營(器械製絲)

ニ、蠶種、繭、生絲ノ検査

ホ、生絲ノ賣買

四、右機關ノ資金ハ新設セラルヘキ中支振興會社(假稱)ヲシテ之ニ當ラシムルコト

五、新政權ニ於テ蠶種、繭、生絲ノ賣買ニ對シ適當ナル課稅ヲ爲スコト

諮 問

(一) 參事任用並解任ニ關スル件

1 任 用

參事足立草逸郎病氣ノ爲退職ニ付其ノ後任トシテ左記適任ト認ムルヲ以テ會則第二十條ニ依リ頭書ノ通參事ニ任用スルモノトス

記

日本中央蠶絲會參事ニ任ス

俸給ハ豫算ノ範圍ニ於テ適當支給ノコト

履 歴 概 要

愛知縣平民

大 岩

明治三十四年七月二十日生

大正十二年三月 第八高等學校卒業

同 十三年四月 東京帝國大學文學部英文科入學 昭和二年三月同學科卒業

昭和二年四月四日 東京高等蠶絲學校講師囑託(繼續今日ニ至ル)

同 三年四月 東京帝國大學經濟學部經濟學科へ入學 同六年三月同學科卒業

2 解 任

參事 足 立 草 逸 郎

病氣ノ爲退職願出ニ付解任



(二) 参事任用ニ關スル件

左記囑託員昭和十一年十一月採用後相當期間ヲ經過シ事務熟達ニ付待遇ノ必要上頭書ノ通参事ニ任用スルモノトス

記

日本中央蠶絲會参事ニ任ス

(現囑託員)

小林邦作

俸給ハ豫算ノ範圍ニ於テ適當支給ノコト

履歴概要

群馬縣平民

小林邦作

明治三十二年十一月廿六日生

大正十二年三月 東京高等蠶絲學校養蠶學科卒業

同 七年十一月 蠶種製造業ニ從事

昭和七年十二月 同十一年十一月迄雜誌「蠶絲公論」經營

同期間群馬縣蠶絲業協會並群馬縣蠶種業組合佐波支部ニ於ケル蠶絲業改良發達ニ關スル事務ヲ囑託セララル

昭和十一年十一月三十日日本中央蠶絲會生絲消費増進宣傳ニ關スル事務ヲ囑託月手當百三十圓支給

二 第二回評議員會

昭和十三年八月十五日蠶絲會館に於て評議員會を開會、左記事項を審議したり。

一、報告事項

二、審議事項

(一) 蠶絲研究會調査研究事項改正ニ關スル件

(二) 生絲検査方法調査研究ニ關スル件

三、諮問

(一) 第十一回臨時總會提出事項ノ件

(二) 参事解職追認ニ關スル件

〔決定事項〕

諮問

(一) 第十一回臨時總會提出事項ノ件

第十一回臨時總會ニ別冊事項ヲ提出セントス

(二) 参事解職ニ付追認ノ件

左記職員一身上ノ都合ニ依リ退職願出ニ付昭和十三年七月五日解職シタリ仍テ之ガ追認ヲ求ムルモノトス

記

依願解職

日本中央蠶絲會参事 小林邦作



(昭和十三年七月五日)

議案

(一) 蠶絲研究會調查研究事項改正ニ關スル件

昭和十年六月二十五日評議員會決議ニ依ル蠶絲研究會調查研究事項ノ件左記事項第一ノ次ニ左ノ項目ヲ加フ

一ノ二 生絲格付方法改善ニ關スル事項

(二) 生絲格付方法改善ニ關スル調査研究ノ件

生絲格付方法改善ニ關シ調査研究ノ必要ヲ認ムルニ依リ蠶絲研究會ニ附託シテ之ヲ實施スルモノトス、但シ本事項實施ノ委員會ハ蠶絲研究會調査研究事項第一、生絲ノ品質ト需給ニ關スル調査研究ノ例ニ準ジ會長ノ指名ニ依リ當該關係委員ノミヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得

理由

内外生絲取引ノ狀況ニ鑑ミ現行生絲検査格付ニ關シ調査研究ヲ要スルモノトス

尙本調査研究實施ノ都合ニ依リ當該關係委員ノミヲ限定シ其ノ盡力ヲ煩サントスルモノナリ

三 第三回評議員會

昭和十四年一月十六日蠶絲會館に於て開會左の事項を審議決定したり。

一、報告事項

二、審議事項

議案第一號 生絲格付方法改正ニ關スル調査研究事項處理ノ件

諸問第一號 第十二回通常總會提出事項ノ件

第二號 原蠶種管理法實施延期ニ關スル建議處置ノ件

第三號 經費豫算項間流用ニ關スル件

第四號 職員任用ニ關スル件

議案

(一) 生絲格付方法改正ニ關スル調査研究事項處理ノ件

曩ニ評議員會決議ニ依リ蠶絲研究會附託ニ係ル生絲格付方法改正ニ關スル事項ハ其ノ調査研究ノ結果成案ヲ得同委員長ヨリ別紙ノ通報告アリタルニ依リ之ヲ採擇シ第十一回臨時總會委任ニ基キ本評議員會決議ヲ以テ左案ノ通之ガ實施方ニ付農林大臣宛建議ヲ爲シ、其他適當處置スルモノトス

1 生絲格付方法改正ニ關スル建議(案)——農林大臣宛——

(附) 蠶絲研究會に於ける本事項に關する研究經過を承認の上其成案としての「再繰検査格付改正」案を採擇し本建議内容として添付提出のことに決定。

2 再繰検査格付改正案ニ依ル取引實施方依頼(案)

——横濱、神戸取引所理事長宛——



諸 問

(一) 第十二回通常總會提出事項ニ關スル件  
報告事項及各種案件別冊ノ通第十二回通常總會ニ提出セントス  
(別冊省略——同會議事録参照のこと——)

(二) 原蠶種管理法實施延期ニ關スル建議處置ノ件  
全國蠶種業組合聯合會第八回總會決議ニ依リ原蠶種管理法實施延期ニ關シ別紙ノ通建議ノ提出アリタリ  
右ニ對スル處置如何

本案審議の結果之を採擇の上同事項の農林大臣宛建議案を第十二回通常總會へ提案のことに決定。  
別 紙

原蠶種管理實施延期ニ關スル建議書、全國蠶種業組合聯合會提出——別項掲出——  
(三) 經費豫算項間流用ニ關スル件

昭和十三年度經常部特別會計蠶絲會館費支出豫算費目中時局ノ影響ニ依リ勞務費及必需品價格等騰貴ノ爲豫算金額  
ニ不足ヲ生ジタルニ因リ左記流用調書ノ通り過剩見込費目ヨリ彼是項間(款内)ニ於テ流用經理ヲ爲セントス

——原 案 可 決——

昭和十三年度經常部特別會計

日本中央蠶絲會館費豫算流用調書

| 費 目       | 豫 算 額  | 本 年 度<br>所 要 額 | 對 比   |       | 備 考                                                                                     |
|-----------|--------|----------------|-------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
|           |        |                | 過     | 不 足   |                                                                                         |
| 一、本館費     | 三九,九〇〇 | 三〇,八〇〇         | 九,一〇〇 | 八,一〇〇 |                                                                                         |
| 一、事務費     | 五,四〇〇  | 三,八九〇          | 一,四一〇 |       | 實際支給額ノ少キニ因リ減額ノ内金五十四圓ヲ第二目報酬手當へ、金九百九十圓ヲ第二目需要費第一目雜給手當へ、金三百二十九圓ヲ第四項第一目諸費へ各流用                |
| 一、俸給々料    | 三,八四〇  | 二,四〇〇          | 一,三九〇 |       | 七十錢ヲ第四項第一目諸費へ各流用                                                                        |
| 二、報酬手當    | 一,〇〇〇  | 一,〇〇〇          |       | 三〇〇   | 職員其他期末手當支給ノ必要ニ因リ増、不足額ノ内金五十四圓ヲ第一目俸給々料ヨリ、金二十四圓ヲ第三目備品及消耗品費ヨリ、金八十圓ヲ第四目通信費ヨリ、金九十圓ヲ第五目雜費ヨリ各流用 |
| 三、備品及消耗品費 | 一〇〇〇   | 八〇〇            | 二〇〇   |       | 經理ノ都合ニ依リ減額ヲ第二目報酬手當へ流用                                                                   |
| 四、通信費     | 四〇〇〇   | 三〇〇〇           | 一,〇〇〇 |       | 節約ニ依リ減額ヲ第二目報酬手當へ流用                                                                      |
| 五、雜費      | 一〇〇〇   | 一〇〇            | 九〇〇   |       | 節約ニ依リ減額ヲ第二目報酬手當へ流用                                                                      |
| 二、需要費     | 一七,一五〇 | 二二,四〇〇         |       | 四,一五〇 | 臨時傭人ノ使用多カリシニ因リ増不足額ハ第一項事務費第一目俸給々料ヨリ流用                                                    |
| 一、雜給及手當   | 六,六〇〇  | 七,五〇〇          |       | 九〇〇   | 節約ニ因リ減額ヲ第三目消耗品費へ流用                                                                      |
| 二、備品費     | 一,一〇〇  | 九〇〇            | 二〇〇   |       |                                                                                         |



|        |        |        |        |                                                                                |
|--------|--------|--------|--------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 三、消耗品費 | 九,四〇〇〇 | 三,九〇〇〇 | 三,五〇〇〇 | 已ムヲ得ザル經費ノ支出多カリシニ因リ増、不足額ノ内金三百圓ヲ第二目備品費ヨリ、金三百二十圓ヲ第三目事務費第一目俸給々料ヨリ、金二千圓ヲ第五款豫備費ヨリ各流用 |
| 三、營繕費  | 五,〇〇〇〇 | 三,〇〇〇〇 | 二,〇〇〇〇 | 節約ニ依リ減額ヲ第二目需要費第三目消耗品費へ流用                                                       |
| 一、營繕費  | 五,〇〇〇〇 | 三,〇〇〇〇 | 二,〇〇〇〇 |                                                                                |
| 四、諸費   | 二,五〇〇〇 | 二,五八七〇 | 二八七〇   | 諸稅増率ニ因リ増不足額ハ第一項事務費第一目俸給々料ヨリ流用                                                  |
| 一、諸費   | 二,五〇〇〇 | 二,五八七〇 | 二八七〇   |                                                                                |
| 五、豫備費  | 一,〇〇〇〇 | 一,〇〇〇〇 |        |                                                                                |
| 一、豫備費  | 一,〇〇〇〇 | 一,〇〇〇〇 |        |                                                                                |
| 一、豫備費  | 一,〇〇〇〇 | 一,〇〇〇〇 |        | 豫算外支出ノ必要ナカリシニ因リ減額ノ内金八百七十圓七十錢ヲ第一目款本館費第二目需要費第三目消耗品費へ流用                           |

(四) 職員任用ニ關スル件

本會職員、參事一名缺員中ニ付之ガ補充ノ爲左記任用セントス——原案可決——

從六位 林 衛

日本中央蠶絲會參事ニ任ス(但シ職制改正後技師ニ任ス)

俸給ハ豫算ノ範圍ニ於テ適當支給ノコト

備考

第十二回通常總會ニ於テ會則規定ノ職制ヲ改正シ技師、技手ノ職名設置ノ豫定ニ付當分參事ニ任用シ其ノ成立後技師ニ任スルモノトス

「參照」

概 歴

從六位 林

衛

大正六年三月二十日 東京高等蠶絲學校養蠶科卒業

同 年四月

千葉縣蠶業取締吏員トナリ爾來、富山、東京、熊本、滋賀ノ各府縣ニ於テ蠶業取締吏員又ハ縣技手産業技手、農林主事補、農林技手等ヲ歴任シ、昭和四年八月地方農林技師ニ任セラレ鹿兒島、山形各縣農林技師ニ任補、現在茨城縣農林技師(高等官五等待遇九級俸)在職中、本會職員ニ任用ト同時ニ退任ノ豫定

四 第四回評議員會

昭和十四年二月二十四日午前十時開會

報告事項

審議事項

諮問案

昭和十三年度日本中央蠶絲會經費豫算流用ニ關スル件

議案

蠶絲業作興ニ關スル委員會調査研究事項處置ノ件



〔決定事項〕

諮問

昭和十三年度經常部

日本中央蠶絲會經費豫算流用ニ關スル件

昭和十三年度經常部經費豫算科目(項)中過不足ヲ生ズル見込ニ付必要ニ應ジ左記ノ範圍ニ於テ彼是項間流用ヲ爲サントス——原案可決——

昭和十三年度經常部經費豫算流用調書

| 費目              | 豫算金額   | 所要見込額  | 過不足    |        | 摘要                                                                                                  |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 |        |        | 剩餘     | 不足     |                                                                                                     |
| 三、事業費           | 円      | 円      | 円      | 円      |                                                                                                     |
| (二) 生絲貿易ニ關スル施設費 | 四、五〇〇〇 | 二、六〇〇〇 | 一、九〇〇〇 |        | 支出ノ必要少ナカリシニ因リ剩餘殘額千九百圓ヲ款内第三項一般施設費(第一目集會費)へ流用                                                         |
| (三) 一般施設費       | 一、五〇〇〇 | 四、三〇〇〇 |        | 二、八〇〇〇 | 蠶絲業作興ニ關スル委員會開催回数ノ多キニ因リ不足額ハ款内第二項生絲貿易ニ關スル施設費ヨリ千九百圓ヲ第五款豫備費ヨリ九百六十圓ヲ各流用殘額九百六十圓ヲ第三款事業費第三項一般施設費(第一目集會費)へ流用 |
| 1 集會費           | 三〇〇〇   | 三、一六〇〇 |        | 二、八六〇〇 |                                                                                                     |
| 五、豫備費           | 六〇〇〇   |        | 六〇〇〇   |        |                                                                                                     |

備考 豫算施行ノ都合ニ依リ前記項内剩餘金ヲ夫々不足費目へ流用スルモノトス

理由

第十二回通常總會決議ニ依リ蠶絲業作興ニ關スル委員會ヲ設置シ斯業ノ根本竝應急對策ニ付鋭意調査研究ヲ進メツツアリ之ガ重要且廣汎ニ亘ル爲同委員會ノ開催相當回数ニ上リタルニ特ニ所要經費豫算ヲ有セズ既定豫算ノ運用ニ依リ經理ノ爲前掲項間流用ヲ要スルモノナリ

議案

蠶絲業作興ニ關スル委員會調査研究事項處置ノ件

蠶絲業作興ニ關スル委員會ニ於テ其ノ附託セラレタル事項ニ付調査研究ノ結果左記各項實施ノ必要ヲ認メ政府ニ要望ノコトニ決定ニ付之ガ實現方ヲ政府ニ建議スルモノトス——原案可決——

記

- 一、減産防止、生産確保ノ必要上、此際國ニ於テ繭價ノ補償ヲナサレタキコト
- 二、計畫的生產方針、繭ノ標準掛目其他蠶絲業上重要事項ヲ審議スル爲政府ニ於テ廣ク關係者ヲ以テ組織シタル蠶絲業審議會ヲ設置セラレタキコト

五 評議員書面決議

- 一、昭和十三年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費豫算流用に關する書面表決





昭和十四年三月十六日附書面を以て評議員の同意を経標記左の通決定したり。

昭和十三年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費豫算(項間)流用ノ件

| 費目          | 豫算金額   | 所<br>要<br>見<br>込<br>額 | 本<br>年<br>度 |             | 備<br>考                                                           |
|-------------|--------|-----------------------|-------------|-------------|------------------------------------------------------------------|
|             |        |                       | 利<br>餘      | 過<br>不<br>足 |                                                                  |
| 第四款 實物宣傳事業費 | 円      | 円                     | 円           | 円           |                                                                  |
| 第一項 給與費     | 二,五〇〇  |                       |             |             |                                                                  |
| 二、報酬手當      | 七〇〇〇   | 一,〇八八〇〇               |             |             | 退職者手當及給與金支給ノ必要ニ因リ不足額ハ第三目旅費ヨリ百六十七圓八十二錢第二項需要費第二目通信運搬費ヨリ百七十四圓十八錢各流用 |
| 三、旅費        | 一〇〇〇〇  | 三二八                   |             |             |                                                                  |
| 第二項 需要費     | 一,五〇〇〇 |                       |             |             |                                                                  |
| 二、通信運搬費     | 四〇〇〇〇  | 三九八三                  | 一七七八        |             |                                                                  |

— 昭和十四年三月二十九日原案決定 —

二、昭和十三年度臨時部特別會計米國萬國博覽會參加出品繼續事業費豫算流用に關する書面表決

昭和十四年三月十日附書面を以て評議員の同意を求め左の事項を決定したり。

昭和十三年度臨時部特別會計

米國萬國博覽會參加出品繼續事業費豫算流用ノ件

本經費支出豫算科目中過不足ヲ生スル見込ニ付左記ノ範圍ニ於テ彼是流用ヲ爲サントス

— 昭和十四年三月二十九日原案決定 —

昭和十三年度臨時部特別會計米國萬國博覽會參加出品繼續事業費豫算流用調書

| 科<br>目        | 豫<br>算<br>額 | 所<br>要<br>見<br>込<br>額 | 利<br>餘      |             | 摘<br>要                                                            |
|---------------|-------------|-----------------------|-------------|-------------|-------------------------------------------------------------------|
|               |             |                       | 過<br>不<br>足 | 過<br>不<br>足 |                                                                   |
| 二、出<br>品<br>費 | 三八八,六〇〇     | 円                     | 円           | 円           |                                                                   |
| 一、陳<br>列<br>費 | 三九,五〇〇      |                       |             |             | 支出ノ必要少ナカリシニ因リ剩餘<br>殘額二萬百五圓六十錢第三款接待費へ流用                            |
| 一、設<br>備<br>費 | 二〇四,〇〇〇     | 一八三,八四四〇              |             |             |                                                                   |
| 三、接<br>待<br>費 | 五,〇〇〇       |                       |             |             |                                                                   |
| 一、接<br>待<br>費 | 五,〇〇〇       |                       |             |             | パンフレット製作ニ當リ配布其他ノ都合上<br>本年度分ヲ一括本年度ニ於テ製作ノ爲不足<br>額二萬百五圓六十錢第二款出品費ヨリ流用 |
| 一、接<br>待<br>費 | 五,〇〇〇       | 三二,一〇五六〇              |             |             |                                                                   |

理由

本事業ハ大體本年度ニ於テ桑港及紐育兩博覽會參加出品ノ設備、陳列及裝飾等ノ調製ヲ爲シ之ヲ現地ニ輸送ノ上組







一 蠶絲研究會 (特別構成ニ依ル委員會)

——生絲格付方法改善ニ關スル事項ノ調査研究附託——

昭和十三年八月十五日評議員會決議に依り蠶絲研究會に附託せられたる「生絲格付方法改善に關する事項」の調査研究實施の爲同年九月一日會長指名に依り左の委員を囑託したり。

一、生絲格付方法改善ニ關スル調査研究委員

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 加賀山 辰四郎 | 芳賀權四郎   | 平塚 英吉   |
| 肥後 俊彦   | 加藤 知正   | 長野 忠次   |
| 新井 高四郎  | 今井 五介   | 平野 吉左衛門 |
| 杉山 寅雄   | 上甲 信弘   | 伊藤 武男   |
| 小田 萬藏   | (以上十三名) |         |

二、委員會開催

委員會 昭和十三年九月十五日於蠶絲會館開催

(調査事項ニ付審議ノ上改善方法ノ研究ハ第一専門委員會へ委託ノコトニ決定)

同 年十一月十八日前同斷

(第一専門委員會成案ヲ審議決定シ委員長ヨリ會長ニ報告)

第一専門委員會 同 年九月二十二日於横濱生絲検査所開催

同 年十一月十三日同

(成案トシテ「再繰検査格付改正案」ヲ決定シ之ヲ蠶絲研究會委員長ニ報告)

——委員會經過及成案ハ評議員會審議事項中ニ掲出——

二 繭檢定竝格付方法ニ關スル政府諮問事項調査委員會

第十二回總會の決議に依り昭和十四年二月一日左記調査委員を囑託し政府諮問繭檢定竝格付方法に關する事項の調査を附託したり

一、調査委員

- |             |       |         |
|-------------|-------|---------|
| (委員長) 芳賀權四郎 | 平塚 英吉 | 肥後 俊彦   |
| 稻田 昌植       | 加藤 知正 | 福島 喜男   |
| 富田 勘之丞      | 長野 忠次 | 新井 高四郎  |
| 神戸 八郎       | 今井 五介 | 平野 吉左衛門 |
| 小口 善重       | 上甲 信弘 | 森田 金藏   |
| 伊藤 武男       | 小田 萬藏 |         |

尙ほ調査委員會の決議に依り檢定、格付方法調査の爲昭和十四年三月十一日左記専門委員を囑託せり。

二、専門委員



- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 山田 六郎  | 宮下 智三郎 | 池下 常五郎 |
| 後閑 徳造  | 衣川 春一郎 | 森川 抱次  |
| 坂本 榮龜  | 辻元 規矩次 | 岡田 重次  |
| 浦屋 確   | 山岸 寅雄  | 辻本 敏三  |
| 宮田 鐵五郎 | 三河内 豊  | 平塚 英吉  |
| 肥後 俊彦  |        |        |

三 委員會の開催

委員會(第一回) 昭和十四年二月十日於蠶絲會館開催

諮問案に付政府の説明を聴取し質疑應答を重ねたる上方法調査の爲別に専門委員會を設置し其の成案を待て再び委員會を開くことに決定

三 時局對策委員會

(内外蠶絲對策ニ關スル事項調査附託)

前年度繼承(評議員會決議に依り昭和十三年二月十二日會長指名に依り委員十三名委囑)

一、委員會開催

委員會 昭和十三年六月四日於蠶絲會館開催

農林省委囑ニ依り岡本副會長渡支、歸朝ニ付視察報告聴取並對支政策ニ付懇談  
同 同 年七月二十五日於蠶絲會館開催

中支蠶絲組合經過ニ付報告、次デ非常時局ニ於ケル蠶絲業對策其他ニ付審議ノ結果繭ノ減産防止ニ關シ關係者  
へ周知ノ爲左記ニ依り印刷物(ポスター及ピラ)ヲ作製配付ノコトニ決定セリ

〔決定事項〕

1 ポスター

- 一、大 サ 菊半截
- 一、紙 質 ザラ紙四十五斤
- 一、圖 案 二色刷標語ヲ配ス

「長期戦下の養蠶報國」

一葉の桑も残さず繭に!

- 一、印刷數 五萬二千枚(各府縣、府縣蠶絲業團體、養蠶實行組合ニ配付ス)
- 一、配付方法 養蠶實行組合ニハ養蠶業組合ニ依頼シテ配付シ其他ハ直接配付ス

2 文書

- 一、大 サ 美濃紙大
- 一、紙 質 ザラ紙



一、文 案 「長期戦下に於ける養蠶家の覺悟」——別項掲出——

一、印刷數 五萬二千枚(各府縣、府縣蠶絲業團體、養蠶實行組合ニ配付ス)

一、配付方法 養蠶實行組合ニハ養蠶業組合ニ依頼シテ配付シ他ハ直接配付ス

#### 四 蠶絲業作興ニ關スル委員會

第十二回通常總會の決議に依り蠶絲業作興委員會を設置し昭和十四年一月二十四日會長指名に依り左の委員を囑託したり。(○印小委員)

#### 一、委員

- |          |        |        |
|----------|--------|--------|
| ○加賀山 辰四郎 | ○稻田 昌植 | ○加藤 知正 |
| ○福島 喜男   | 山田 六郎  | 都木 重五郎 |
| 富田 勘之丞   | ○森川 抱次 | 長野 忠次  |
| ○新井 高四郎  | 伊藤 泰   | ○今井 五介 |
| ○平野 吉左衛門 | 若林 乙吉  | 小口 善重  |
| ○有馬 美利   | ○上甲 信弘 | 澁澤 義一  |
| 森田 金藏    | ○伊藤 武男 | 小田 萬藏  |

#### 二、委員會開催

(一) 第一回委員會 昭和十四年二月三日於蠶絲會館開會

蠶絲業作興に關する應急、恒久の對策樹立の要あるを認め之が成案を得る爲小委員會を設くる事に決定す

第二回委員會 昭和十四年二月二十三日於蠶絲會館開會

小委員會に於ける審議の經過を報告し、小委員會に於て決定せる繭の生産を確保する爲繭價の補償をなす

こと及蠶絲業上重要事項を審議する爲蠶絲業審議會の設置方を政府に要望する件を議決せり。

(二) 小委員會(第一回) 昭和十四年二月九日於蠶絲會館開會

産繭確保獎勵の件を決定し、鶴見祐輔氏の「アメリカの日支事變に對する最近の情勢」を聴取せり。

同 (第二回) 昭和十四年二月十四日於蠶絲會館開會

蠶絲業根本對策とし蠶絲統制會社案に付審議す。

同 (第三回) 昭和十四年二月二十二日於蠶絲會館開會

専ら繭價の補償制度、蠶絲業審議會の設置、蠶絲業統制機關の設置等に關し審議し、繭價補償實施方竝蠶

絲業審議會設置方を政府に要望する件を議決す

同 (第四回) 昭和十四年三月三日於蠶絲會館開會

各部門より提出の蠶絲業統制案に付審議す

同 (第五回) 昭和十四年三月十六日於蠶絲會館開會



絹織物統制問題及蠶絲業統制問題に付審議し前者に就てはそれれ當路に陳情することに後者に就ては養蠶、製絲兩部門に於て更に成案を得て提案することに決定す。

〔決定事項〕

(一) 産繭確保奨励施設要綱

(昭和十四年二月九日蠶絲業作興に關する委員會決議)

1 昭和十四年度ニ於テ産繭ノ確保ヲ奨励スル爲、郡市養蠶業組合區域内ニ於テ一定産繭標準數量ヲ確保シタルトキハ其ノ組合ヲ表彰シ賞金ヲ授與スルモノトス

前項ニ依リ表彰セラレタル組合ノ職員ニシテ特ニ功勞アリト認ムル者ヲ表彰スルコト

2 前項ニ依ル産繭ノ確保數量ハ昭和十二年度産繭額ヲ標準トシ其ノ産額ニ應ジ左ノ標準ニ依リ賞金ヲ按配ノコト

|          |            |       |     |
|----------|------------|-------|-----|
| 甲 産繭確保數量 | 百萬貫以上ノ組合   | 壹組合賞金 | 壹千圓 |
| 乙 同      | 五十萬貫以上ノ組合  | 同     | 七百圓 |
| 丙 同      | 十萬貫以上ノ組合   | 同     | 五百圓 |
| 丁 同      | 一萬貫以上ノ組合   | 同     | 三百圓 |
| 戊 同      | 一萬貫未滿一千貫以上 | 同     | 百圓  |

産繭標準數量ハ農林統計ニ基キ其ノ確保シタル産繭數量ハ地方長官ノ具申ニ依リ之ヲ考量スルコト

3 實施ニ關スル事項ハ時局對策委員會ノ議ヲ經テ決定ノコト

本施設ハ大日本蠶絲會ヘ一任シ、總裁殿下名ヲ以テ表彰ヲ仰グコト

(二) 繭ノ生産確保其他ノ件

(昭和十四年二月二十二日蠶絲業作興に關する小委員會決議) 全委員會ヘ報告承認) 同 二月二十二日同

- 一、減産防止、生産確保ノ必要上此際國ニ於テ繭價ノ補償ヲナサレタキコトヲ政府ニ要望スルコト
- 二、計畫的生產方針、繭ノ標準掛目其ノ他蠶絲業上重要事項ヲ審議スル爲政府ニ於テ廣ク關係者ヲ以テ組織シタル蠶絲業審議會ヲ設置セラルル様要望スルコト
- 三、統制機構ニ付テハ其ノ必要アリトスル部門ニ於テ之方對策ヲ作製シ委員會ニ提出ノコト

五 蠶絲研究會第一分科會

(普通蠶種國家管理に關する事項調査附託)

昭和十二年十二月十六日評議員會決議に依り十三年二月十二日會長指名に依り委員十三名を委嘱し(前號報告)本年度之が調査を實施したり、委員會の開催次の如し。

一、委員會開催

第一回委員會 昭和十三年五月三日於蠶絲會館開催

全國蠶種業組合聯合會提案の普通蠶種國家管理案要綱に付審議、次回迄に各聯合會に於て夫々意見を取纏メルコトトセリ



第二回委員會 昭和十三年七月二十五日於蠶絲會館開催

全國養蠶業組合聯合會等ノ意向未ダ決定スルニ至ラザルヲ以テソノ決定ニ依リ更ニ審議スルコトナレリ

### 六 蠶絲研究會第三分科會

(絹の缺點防止に關する研究調査附託)

前承(昭和十二年九月十四日評議員會決議に依り會長指名委員委囑)

#### 一、委員會開催

第三回委員會 昭和十三年四月十一日於蠶絲會館開催

第四回委員會 同 年四月廿五日同斷

小委員會 同 年六月廿五日於松本市長野縣蠶業試驗場開催

第五回委員會 同 年十月十四日於蠶絲會館開催

委員研究會 同 年十一月二十日於京都市鐘淵紡績株式會社山科工場開催

第六回委員會 昭和十四年三月二十四日午前十時於蠶絲會館開催

### 七 蠶絲研究會第四分科會

(生絲の利用擴大に關する研究調査附託)

前承(昭和十三年二月四日評議員會決議に依り會長指名委員委囑)

#### 一、委員會開催

(一) 第二回委員會 昭和十三年十二月九日蠶絲會館に於て開催

#### 〔決定事項〕

##### 1 絹混紡織見本に就て

關係業者より提出の毛又はスフと絹纖維とを混紡織したる裂地(サージ及メリヤス)見本に付批判を乞ひたる處サージ六種、メリヤス一種を選定右製品見本帳二千部(「メリヤス」は千部)を作製全國女學校、鐵道省、遞信省、百貨店、問屋其の他に配付をなすことに決定せり。

##### 2 流行の動向に就て

生絲の消費増進を圖るには服飾界の動向を知り之に順應したる生産を爲すを要す、依て流行の現状並に動向に就き各種意見の開陳ありたり。

##### 3 純絹マーク制定

純絹物を表示すれば需要増進に有効なりとの説あり之に對する意見竝實行方法に就て協議の結果暫く研究問題として次回に廻すこととなりたり。

(二) 第三回委員會 同年十二月九日蠶絲會館に於て開催

#### 〔決定事項〕

委員會調査に依り選定したる絹混用サージ及メリヤスに付左記に依り見本帳を製作配付のことに決定せり。



1 見本裂地使用原料

- (1) 絹 多絲量繭、平面繭、繭毛羽、撚絲、繰絲、生絲
- (2) 混用絲 再成羊毛、ステールファイバー

2 見本帳ノ種類及製作數量

- (1) 絹混用サージ見本帳

製作數量 二、五〇〇部

規格 縱四寸五分 横七寸

—以上内容別項掲出—

八 生絲消費増進宣傳事業 合同委員會  
米國萬國博覽會參加出品繼續事業

一、第一回合同委員會

昭和十三年十二月六日 蠶絲會館に於て開會左記事項を審議決定したり。

〔決定事項〕

(一) 生絲消費増進宣傳事業委員會(案)

絹新製品競技展覽會入賞製品見本帳製作配付ニ關スル件

第六回絹新製品競技展覽會出品物中入賞シタル優秀製品ノ紹介宣傳並關係者ノ參考ニ資スル爲左記ニ依リ之カ見本

帖ヲ製作配付セントス

記

1 第六回絹新製品競技展覽會入賞製品見本帖

製作部數 六〇〇部

型式 四六倍版、現物裂地貼付布表紙横綴

配付先豫定 當該入賞者、關係官衙、學校、地方織物關係組合、全國著名百貨店、絹織物問屋、絹織物輸出業者及海外貿易斡旋所其他

2 所要經費概算

金五千五拾圓也

内譯 金四千八百圓也 見本帳六百部材料及製本代一部金八圓

金貳百五拾圓也 雜費荷造及送料

本經費ハ昭和十三年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費第二款事業費第二項内地宣傳費第三目通信運搬費及第六目獎勵費ノ豫算範圍ヲ支辨ノコト

(二) 米國萬國博覽會參加出品事業委員會(案)

1 米國萬國博覽會參加出品ニ關スル派遣事務員ノ件

米國桑港、紐育兩萬國博覽會參加出品ニ關スル本會事務處理ノ爲左記ニ依リ職員一名、囑託一名ヲ各現地へ派遣



スルモノトス

(1) 職員派遣

職員一名ハ會長ニ於テ適當選定ノ上昭和十四年三月下旬現地派遣ノコト

(2) 囑託派遣

左記ニ對シ米國博覽會參加出品ニ關スル事務ヲ囑託シ昭和十四年一月下旬現地へ派遣ノコト

小林 榮 一

備考

事務員派遣中ハ外國旅費支給ニ關スル件ノ規定ニ依リ適當待遇ノコト

〔參照〕

小林 榮 一

自大正三年九月至同五年九月米國ハイバード大學卒業、大正十年五月以降片倉製絲紡績株式會社勤務(自昭和五年六月至同七年五月同社紐育出張所在勤)

2 米國萬國博覽會參加出品事業製絲實演工手派遣ノ件

米國桑港、紐育兩萬國博覽會製絲館ニ於ケル製絲實演ノ爲左記ニ依リ工手四名ヲ採用シ各現地へ派遣スルモノトス

記

(片倉製絲紡績株式會社推薦) 飯 田 雅 子

(同) 三 井 靜 子

(郡是製絲株式會社推薦) 桐 野 り う

(同) 奥 野 き く 枝

派遣豫定期日

桑港會場

昭和十四年一月二十五日出發

同 年十二月下旬歸朝

紐育會場

昭和十四年三月二十七日出發

同 年十二月下旬歸朝

備考

製絲實演工手ニ對シテハ定額給料ヲ支給スルノ外現地出張中ハ左記ニ依リ待遇スルモノトス

3 米國萬國博覽會製絲實演工手旅費ニ關スル件

米國萬國博覽會ニ於ケル製絲實演ノ爲現地へ出張ヲ命ゼラレタル工手ニ對シ支給スベキ旅費ハ左ノ通りトス、但シ外國旅費支給ニ關スル件第一號第一項但シ書ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給セズ旅行手當ヲ支給スルモノトス

船 賃 二等實費

鐵道賃 一等實費但シ内地ニ於ケル連絡旅行ハ內國旅費支給ノ例ニ依ル

旅行手當 日額米貨六弗ニ相當スル金額但シ水路ニ依ル旅行中ハ日額二弗五〇仙トス

外 二 仕度料一人ニ付金五百圓ヲ支給ス



二、第二回合同委員會

昭和十四年一月十六日蠶絲會館に於て開催、左記事項を審議決定したり。

審議事項

(一) 生絲消費増進宣傳事業委員會(案)

- 1 昭和十四年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費收支豫算編成ノ件
- 2 昭和十四年度臨時部特別會計時局施設費收支豫算編成ノ件
- 3 絹織維ノ利用擴大ニ關スル研究委託ノ件(蠶絲研究會第四分科會決議ニ依ル)
- 4 リヨン見本市出品ニ關スル件

(二) 米國萬國博覽會參加出品事業委員會(案)

昭和十四年度臨時部特別會計米國萬國博覽會參加出品繼續事業費收支豫算編成ノ件

〔決定事項〕

(一) 生絲消費増進宣傳事業委員會

絹織維ノ利用擴大ニ關スル研究委託ノ件

蠶絲研究會第四分科會ニ於テ絹織維ノ利用擴大ニ關スル事項ニ付審議ノ結果其ノ利用方法研究及其ノ使用試驗ヲ實施スルノ必要ヲ認め、絹織維、羊毛、スフノ混紡又ハ交織ノ各種製品ノ製作並試用品見本ノ配布ヲ爲シ需要大衆ノ反響ヲ調査スルコトニ決定セラレタルニ依リ左記計畫ノ通實施セントス

絹ノ利用擴大ニ關スル研究調査計畫書

1 目 的

各種繭織維ヲ利用シテ羊毛(再成毛ヲ含ム)「ス・フ」トノ混紡又ハ交織ヲナン洋服地(主トシテ學生服)及メリヤスシャツト爲シ其ノ成績ヲ調査研究セントス

2 研究材料及項目

(1) 使用原料

- イ、多絲量繭
- ロ、平 面 繭
- ハ、繭 毛 羽
- ニ、撚絲線絲生絲

(2) 調査研究事項

各種原料ノ繭絲織維ニ依ル製造工程上ノ歩留リ、生産費、交織歩合ニ依ル製品ノ良否、染色等ノ研究調査ヲ行フ

(3) 原料繭ノ購入

- イ、多絲量繭 國蠶イ號×國蠶は號晚秋繭一〇〇貫匁(乾繭)京都府養蠶業組合聯合會ヨリ購入
- ロ、平 面 繭 初秋蠶平面繭四〇〇ポンド永井環ヨリ購入



ハ、其ノ他適當購入ノコト

3 實施方法

(1) 試驗製品ノ選定

右各種原料ヲ以テ製作セル試驗製品見本生地ヲ當業者ヨリ提出セシメ第四分科會委員會(十二月九日開催)ニ於テ左記選定ニ付之ヲ採用セントス

| 見本番號 | 品名      | 製作者        |
|------|---------|------------|
| 三號   | サ 1     | 濱野商事株式會社   |
| 五號   | サ 1     | 濱野商事株式會社   |
| 七號   | サ 1     | 東洋紡織工業株式會社 |
| 八號   | サ 1     | 東洋紡織工業株式會社 |
| 九號   | サ 1     | 長野縣工業試驗場   |
| 十號   | サ 1     | 長野縣工業試驗場   |
| 十三號  | メリヤスシャツ | 藤本蠶業株式會社   |

(2) 試驗委託

前記採用製作者ニ對シ當該製品ニ付左記ノ通見本帳及製品ノ製作配付ヲ委託スルモノトス

(1) 見本帳ノ製作

右七種ヲ左記數量製作セントス

三號ヨリ十號迄六種各 三〇〇  
 十三號 五〇打

(2) 製品見本ノ頒布

右製品中三號——十號ハ見本帳二、〇〇〇部、メリヤスシャツハ五〇打ヲ作製全國各種學校、官廳、デパート問屋、其ノ他關係各方面ニ頒布ヲナシ、其ノ成績ヲ調査セントス

4 經費豫算

一金九千八百四拾六圓也

内譯 金八千參百四拾六圓也 裂地製作費(原料費ヲ含ム)

|     |         |      |                         |
|-----|---------|------|-------------------------|
| 三號  | 碼 三・七〇  | 三〇〇碼 | 計 一、〇一〇・〇〇 <sup>四</sup> |
| 五號  | 同 三・〇〇  | 同    | 九〇〇・〇〇                  |
| 七號  | 同 二・九〇  | 同    | 八七〇・〇〇                  |
| 八號  | 同 二・五〇  | 同    | 七五〇・〇〇                  |
| 九號  | 同 四・五八  | 同    | 一、三七八・〇〇                |
| 十號  | 同 四・一〇  | 同    | 一、二三〇・〇〇                |
| 十三號 | 一枚 三・六八 | 六〇〇枚 | 同 二、二〇八・〇〇              |

金壹千圓也 見本帳製作費 見本帳二千部 一部五〇錢

金五百圓也 見本帳配布費

本經費ハ昭和十三年度生絲消費増進宣傳事業費、二、事業費、五、研究費、4研究委託費ヨリ支出ノコト



九 生絲消費増進宣傳事業特別委員會

- 一、第一回特別委員會 昭和十三年十月二日於蠶絲會館開催

審議事項

米國生絲消費増進宣傳費送金ニ關スル件

- 二、第二回特別委員會 昭和十四年一月九日於蠶絲會館開催

審議事項

- (一) 昭和十四年度臨時部特別會計生絲消費増進宣傳事業費收支豫算編成ノ件
- (二) 昭和十四年度臨時部特別會計米國萬國博覽會參加出品繼續事業費收支豫算編成ノ件
- (三) 昭和十四年度臨時部特別會計時局施設費收支豫算編成ノ件

十 米國萬國博覽會參加出品事業委員會

前承(昭和十三年一月十三日會長指名に依り委員委嘱)第二回委員會、昭和十三年六月二十一日蠶絲會館に於て開催

〔決定事項〕

米國萬國博覽會參加出品事業實施計畫客年ノ第十回通常總會ニ於テ決議サレタル米國萬國博覽會參加出品事業ニ就テハ本年一月二十一日ノ委員會決定方針ニ基キ一面現地ノ希望又ハ意見ヲ參酌シ博覽會協會ト密接ナル聯絡ヲトリ大要左記ニ依り出品セントス

一、紐育ノ部

- (一) 會期 自昭和十四年四月三十日 至同 年十月三十一日 二百十五日間
  - (二) 場所 特設日本館内
  - (三) 面積
    - 蠶絲實演部 五八・〇一坪
    - 蠶絲展示部 四七・四〇坪
    - 計 一〇五・四一坪
  - (四) 設計及施工 株式會社三越ニ指定
  - (五) 出品陳列及裝飾
    - 1 蠶絲實演部
      - (1) 生絲ノ生産過程
- 本陳列室ハ「蠶の一生」及繭ガ生絲ニ製造セラルル経路ヲ實物、模型、寫眞ニ依リ示シ、蠶絲業ノ一縮圖ヲ示スニアリ、其ノ陳列品目次ノ通り

| 産卵中ノ蠶 | 品名 | 數量 | 備考    |
|-------|----|----|-------|
| 一點    |    |    | 模型及實物 |



|        |         |             |                                 |       |    |    |
|--------|---------|-------------|---------------------------------|-------|----|----|
| 蠶      | 生       | 繭           | 簇                               | 五     | 三  | 一  |
| 絲      | 絲       | 繭           | 中                               | 齡     | 齡  | 齡  |
| 寫      | 寫       | 真           | (黃・白)及蛹                         | 蠶     | 蠶  | 蠶  |
| 九      | 二       | 一           | 二                               | 一     | 一  | 一  |
| 葉      | 點       | 點           | 點                               | 點     | 點  | 點  |
| (7) 除沙 | (4) 四齡蠶 | (1) 母蛾ノ播潰作業 | 實物                              | 實物及模型 | 模型 | 模型 |
| (8) 上簇 | (5) 摘桑  | (2) 母蛾検査    | ケース内部壁面ヲ利用シバツク照明ニ依リ次ノ如キ蠶絲寫眞ヲ展示ス |       |    |    |
| (9) 收繭 | (6) 給桑  | (3) 蟻蠶      |                                 |       |    |    |

(2) 養蠶實況

八疊間ノ居室兼用、蠶室ノ一部ヲ作り蠶架、蠶箔其他必要ナル養蠶器具ヲ設備シ等身大人形ニ依リ給桑ノ實況ヲ示シ蠶室ノ外部ニ桑園ヲ配ス

(3) 製絲ノ實演

繰絲機械二臺、煮繭及揚返機各一臺ヲ設置シ、實演婦二名ヲシテ製絲ノ實演ヲナサシム而シテ實演場壁面ニハ左ノ寫眞ヲ展示シ製絲作業ノ理解ニ便ナラシム

- (1) 乾繭
- (2) 煮繭
- (3) 繰絲
- (4) 再繰
- (5) 捻造り
- (6) 括造り

(4) 綴錦織實演

綴錦織器一臺ヲ設置シ一名ノ職工ヲシテ綴錦織ノ實演ヲナサシメ、壁面適當ナル場面ニ製品數種ヲ展示ス

1 蠶絲展示部

- (1) シルク・ルーム

米國ニテ製造セラレザル本邦獨特ノ優秀絹製品(衣裳仕立又ハ現反)數種ヲ展示ス

(2) 陳列臺

觀覽者ヲシテ自由ニ感觸セシメ絹製品ノ眞價ヲ味ハシムル爲メ開放陳列ヲ爲ス、其品目ハ(一)同ジモノ又ハ新製品ニシテ取替品ヲ用意ス

(六) 蠶絲案内所

1 蠶絲案内所(蠶絲展示部ニ設置)ニテハ左ノ事項ヲ行フモノトス

- (イ) 蠶絲業紹介
  - (ロ) 出品物ノ説明
  - (ハ) 質問應答
  - (ニ) 其他
- 2 右施行ノ爲左記ヲ設備スルコト
- (イ) 本邦固有ノ優秀絹織物其他見本



- (ロ) 本邦蠶絲業ニ關スルパンフレット
- (ハ) 出品物説明リーフレット
- (ニ) 其他必要ナルモノ

(七) 映 畫

蠶絲業ニ關スル活動寫眞(實寫、錄音、三十五ミリ)ヲ博覽會協會ニ提供シテ同會ノ常設催場ニ於テ利用ス  
ルコト

ホ ー ル 二〇〇坪

日本館内中央ニ洋風ノ迎客用一大ホールヲ造リ天井壁ヲ始メ陳列品及調度品ハ絹及美術工藝品又ハ盆栽ヲ等  
配シ休憩者ニ日本文化ノ精華ヲ吟味セシムル趣向ナルガ之等陳列裝飾品中絹關係ノモノハ博覽會協會ト協力  
シテ出品ス

備 考

本事項ハ昭和十三年度中ニ内地ニ於テ出品物一切ノ製作ヲ整へ同年度末ニ發荷輸送シ開會期日(昭和十四年四月三十日)迄  
ニ博覽會々場ニ陳列ヲ了スルモノトス、實演ハ五月以後(昭和十四年度)ニ於テ實施スルモノトス

二、桑 港ノ部

- (一) 會 期 自昭和十四年二月十八日 至同 年十二月二日 二百八十八日間
- (二) 場 所 新設日本館内
- (三) 面 積 五二・〇〇坪 39 R x 48 R

- (四) 設計及施工 株式會社高島屋ニ指定
- (五) 出品陳列及裝飾

1 生絲ノ生産過程

紐育博出陳「生絲ノ生産過程」ト様式同ジ

2 養蠶ノ實況

紐育博「養蠶ノ實況」ト略同ジ

3 製絲ノ實演

紐育博「製絲ノ實演」ト略同ジ

4 絹ノ室

和洋折衷ノ瀟洒ナル絹ノ室ヲ作り左ノ絹製調度品ヲ配ス

- 絹製テーブル掛 一
- 絹張椅子 二
- 絹ノ屏風 一 (絹刺繡ヲ施ス)
- 絹刺繡額 一
- 絹製ランプ・シェード 二 (東洋趣味ヲ加味シタルモノ)
- 絹絨緞 一



絹ノ壁張 二 (兩壁面)  
 絹天井 一  
 人形 二 (和装若夫人型 絹洋服ヲ装ヘル男兒 一體)  
 絹ノ軸物 一  
 其他必要ナル調度品

(六) 蠶絲案内所

紐育博ト同様ナル事項ヲ行フモノトス

(七) 映 畫

紐育博ト同様ナル活動寫眞ヲ博覽會協會ニ提供シ適當ナル機會ニ之ヲ利用セシムルモノトス

備考

本事項ハ本年度中内地ニ於テ出品物一切ヲ製作シ開會期日(昭和十四年二月十八日)迄ニ會場陳列ヲ了シ一般ノ觀覽ニ備フ  
ルモノトス

十一 生絲輸出増進施設委員會其他

一、生絲輸出増進施設委員會

昭和十三年八月十六日第十一回臨時總會決議に基き生絲輸出振興施設實施に關する事項審議の爲同委員會を設置し、會長指名に依り同月十九日左の委員十二名を委嘱したり。

(一) 委員 委 嘱

|        |       |      |
|--------|-------|------|
| 岡本英太郎  | 芳賀權四郎 | 加藤知正 |
| 長野忠次   | 月田藤三郎 | 今井五介 |
| 平野吉左衛門 | 上甲信弘  | 森田金藏 |
| 伊藤武男   | 小田萬藏  | 小野藏三 |

(二) 委員會開催

第一回委員會 昭和十三年九月二日蠶絲會館に於て開會左の事項を審議決定したり。

1 生絲輸出振興施設(生絲輸出振興助成規程及昭和十三年度臨時部特別會計生絲輸出増進施設費豫算に依る) 實施ニ關スル件

2 生絲輸出振興施設實施事項ノ周知並出荷獎勵ニ關スル件

3 協議並地方懇談會開催計畫ニ關スル件

二、生絲輸出振興施設ニ關スル協議並懇談會

(一) 生絲輸出振興ニ關スル地方製絲業主任官懇談會

昭和十三年九月三十日 蠶絲會館ニ於テ開催

(二) 生絲輸出業者懇談會

昭和十三年十月三日 前同斷



(三) 生絲輸出振興(地方製絲業者及繭絲商)懇談會

- 昭和十三年十月二十日 山梨縣甲府市(山梨縣製絲業組合)ニ於テ開催
- 同 年十月二十一日 長野縣岡谷市(岡谷製絲研究會) 同
- 同 年十月二十二日 松本市(松本商工會議所) 同
- 昭和十三年十月二十四日 愛知縣豐橋市(豐橋市公會堂)ニ於テ開催
- 同 年十月二十六日 愛媛縣大洲町(大洲町公會堂) 同
- 同 年十月二十九日 群馬縣前橋市(前橋商工會議所) 同

十二 蠶絲會館委員會

前承 (昭和十一年十二月十八日會長指名委員委囑)

第一回委員會 昭和十四年一月十六日於蠶絲會館開催

〔決定事項〕

蠶絲會館増築工事竣工期日延長承認ニ關スル件  
 蠶絲會館増築工事ハ株式会社大林組東京支店ト請負契約ヲ締結シ施工中ノ處、時局ノ影響並前年中天候等ニ災セラレ工期(昭和十三年十二月末日限り)竣成困難ノ趣ヲ以テ同請負人ヨリ別紙ノ通延期願出ノ處事情已ムヲ得ザルモノト認ムルニ依リ之ヲ承認スルモノトス

(別紙省略)

第二回委員會 昭和十四年二月二十四日於蠶絲會館開催

〔決定事項〕

(一) 蠶絲會館用室使用料改正ニ關スル件  
 蠶絲會館設備中用室(講堂及附屬集會室、宿泊所、喫茶、食堂ヲ除ク)使用料左ノ通改正シ昭和十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

用室使用料金

| 種別 | 一階使用料     | 二階使用料 | 三階使用料 | 四階使用料 | 備考  |
|----|-----------|-------|-------|-------|-----|
| 本館 | 月一坪ニ付 一〇圓 | 同上    | 同上    | 同上    |     |
| 別館 | 一五圓       | 同     | 一五圓   | 同     | 一三圓 |

本會組織團體及蠶絲業ニ關スル公益團體若ハ會長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルモノ又ハ用室ノ狀況ニ依リ前表定額ヲ割引スルコトヲ得

(二) 蠶絲會館講堂使用ニ關スル要項改正ノ件

蠶絲會館講堂ニ關スル要項中講堂及附屬設備使用料金表左ノ通改正シ昭和十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 講堂及附屬設備使用料金



| 用途別           | 階數  | 位置              | 坪數                        | 摘要 |
|---------------|-----|-----------------|---------------------------|----|
| 帝國蠶絲株式會社東京出張所 | 舊一階 | 現在<br>舊集會室A(一部) | 計<br>二八・二<br>三〇・八<br>六〇・〇 |    |

(三) 蠶絲會館用室配置ニ關スル件

| 種別          | 別館講堂(A B室附屬) |   | 同集會堂 |   | 同(本館講堂控室) |
|-------------|--------------|---|------|---|-----------|
|             | A            | B | C    | A |           |
| 自午前八時至同十二時  | 三〇           | 五 | 二    | 五 | 一〇        |
| 自午後一時至同五時   | 三五           | 〇 | 一    | 五 | 三         |
| 自午後六時至同十時   | 四〇           | 一 | 二    | 七 | 一         |
| 自午後五時至同八時   | 五〇           | 一 | 五    | 八 | 一         |
| 自午後十一時至同十二時 | 五五           | 一 | 五    | 八 | 二         |
| 自午後八時至同十八時  | 六五           | 二 | 〇    | 一 | 二         |

別館講堂及附屬室使用料金

| 置床會議場 | 時間          | 料金 |
|-------|-------------|----|
| 置床會議場 | 自午前八時至同十二時  | 二〇 |
|       | 自午後一時至同五時   | 二二 |
| 置床會議場 | 自午後六時至同十時   | 二四 |
|       | 自午後五時至同八時   | 三〇 |
| 置床會議場 | 自午後十一時至同十二時 | 三五 |
|       | 自午後八時至同十八時  | 四〇 |

| 種別             | 時間          | 料金  |
|----------------|-------------|-----|
| 講堂(入場料ヲ徴スルモノ)  | 自午前八時至同十二時  | 四〇  |
|                | 自午後一時至同五時   | 四〇  |
| 講堂(入場料ヲ徴セサルモノ) | 自午後六時至同十時   | 七〇  |
|                | 自午後五時至同八時   | 七〇  |
| 講堂(休憩室附 控室別途)  | 自午後十一時至同十二時 | 七〇  |
|                | 自午後八時至同十八時  | 二〇〇 |

| 品名            | 員數 | 使用料 | 摘要               | 品名         | 員數 | 使用料 | 摘要        |
|---------------|----|-----|------------------|------------|----|-----|-----------|
| ピアノ(ベヒシタイン)   | 一臺 | 二〇  | 調律料ヲ含マズ          | ピアノ(アブライト) | 一組 | 一五  | 調律料ヲ含マズ   |
| 映寫機(シンブレ)     | 一組 | 一七  | 外映寫技師二人 手當一回ニ付八圓 | 所作舞臺       | 一組 | 一〇  | 山臺、毛氈座布圍共 |
| 同及發聲裝置(ストービス) | 一組 | 三二  | 同                | 金屏風        | 一組 | 五   |           |
| 電氣音機(廻轉盤)     | 一組 | 五   | 無聲映畫伴奏用 舞踊伴奏用    | 特別照明器具     | 一組 | 五   | 技師一人共     |
| マイク           | 一組 | 三   |                  |            |    |     |           |

外ニ下足料三圓、冬期暖房使用中ハ講堂使用料ノ一割ヲ申受ケマス

備考 使用ハ一回五時間ヲ限度トシ、五時間ヲ超ユル毎ニ定額ヲ增加シマス

講堂置床會議場使用料金

(昭和十年十一月二十一日追加)



|               |     |                          |       |
|---------------|-----|--------------------------|-------|
| 蠶絲會館豫備室       | 同一階 | 舊集會室A (二部)               | 五・三   |
| 日本絹織物工業組合聯合會  | 新一階 | A、B、C、D、E、F              | 六五・五  |
| 全國蠶業組合聯合會     | 同二階 | A、B、C                    | 三三・四  |
| 蠶絲の光發行所       | 同二階 | G                        | 九・九   |
| 華中蠶絲出張所       | 同二階 | D、E、F                    | 三七・四  |
| 日本中央蠶絲會       | 同二階 | 舊全養聯(一部)及光               | 一九・九  |
| 同豫備室          | 舊二階 |                          | 五・五   |
| 日本絹織物同業會      | 同二階 | 同                        | 二三・六  |
| 集會室A          | 同二階 | 舊中蠶                      | 二三・八  |
| 全國製絲業組合聯合會    | 同三階 | 現在<br>廊下出張<br>舊集會室B (一部) | 一一・二  |
| 集會室B          | 同三階 | 舊集會室B (一部)               | 三六・二  |
| 承價安定施設組合      | 新四階 | D、E                      | 九・二   |
| 那是製絲株式會社東京出張所 | 同四階 | C                        | 二六・五  |
|               | 舊地階 | 舊食堂                      | 一一・八  |
|               | 新地階 | 新食堂                      | 七八・六  |
| 山紫グリル         | 新地階 | 新食堂                      | 七三・七  |
| 計             |     |                          | 一五二・三 |

備考 現在用室ニ異動ナキモノハ之ヲ省略セリ

### 十三 組織團體長及主事會議

#### 一、組織團體長會議

(一) 昭和十三年十月二十日於蠶絲會館開催

(二) (華中蠶絲株式會社株式引受——分配——ニ關シ協議)

昭和十三年十一月八日 前同斷

(前同斷)

(三) 昭和十四年三月三十一日、於蠶絲會館開催

——別項掲出——



農林省蠶絲局長ヨリ政府ニ於ケル繭ノ増産計畫内容ノ説明ヲ聴取シ、同事項ニ付種々懇談ヲ遂ケタリ

二、組織團體主事會議

會務執行並各業團體間の連絡其他蠶絲業に關する懇談打合せの爲毎月例會一回、其他必要に應じ隨時に組織團體主事會の開催を繼續しつつあり、尙各業團體との連絡提携を一層緊密ならしむる爲昭和十二年二月十四日組織團體主事を各々本會囑託に委嘱（横濱生絲輸出業組合増滿主事は同組合の都合に依り之を除く）し一面本會職員として右主事會と併せて會務執行に關し懇談打合せを遂げ其の協力を煩しつつあり。

昭和十三年四月 一日 蠶絲會館に於て開催

同 五月 二日 同

昭和十三年六月 一日 同

同 六月 二十一日 同

同 七月 一日 同

同 八月 一日 同

同 九月 一日 同（生絲輸出振興に關する特別協議）

同 九月 十九日 同

同 十月 一日 同

同 十一月 二日 同

同 十二月 一日 同  
昭和十四年一月 六日 同  
同 二月 一日 同  
同 三月 一日 同

十四 其他 集 會

一、蠶絲業に關する懇談會開催

(一) 農林省に於ける地方蠶絲業主任官會議開設に方り昭和十三年四月十二日東京會館に於て懇談會を開催し同出席者其他を招待し蠶絲業一般及生絲消費増進宣傳事業に付打合せ懇談を遂げたり。

(二) 農林省蠶絲局長更迭に付昭和十三年六月四日に於て懇談會を開催し新舊兩局長を招待し其他關係者出席支那蠶絲業對策其他時局問題並生絲消費増進に關し種々打合せ懇談したり。

二、支那蠶絲業對策に關する官民懇談會開催

(一) 昭和十三年四月一日及同四日の二回に亘り蠶絲會館に於て農林省當局並本會及組織團體代表者會（組織團體正副會長出席）を開催し支那蠶絲業對策に付充分なる意見の交換を爲し種々討議を遂げたり。

(二) 同年八月二日蠶絲會館に於て日支蠶絲業調整の恒久機關として華中蠶絲株式會社の成立に關し中支蠶絲組合員及養蠶、蠶種、組合製絲各聯合會代表者の參集を求め蠶絲局長、絲政課長臨席、上海より歸朝の八木農林技師より現



地に於ける事情を聴取し、會社組織に關し協議したり。

(三) 支那蠶絲業對策に關する地方蠶絲業主任官會議

昭和十三年十月三十一日 於蠶絲會館開催

支那蠶絲業政策及華中蠶絲株式會社株式引受(分配)に關し協議したり。――別 項 掲 出――

三、各種審査會開催

(一) 第六回絹新製品競技展覽會出品物審査會

昭和十三年八月十二、十三の兩日蠶絲會館に於て開催同展覽會出品物に付慎重審査の上擬賞者を決定したり。

(二) 宣傳標語審査會

同年八月十九日蠶絲會館に於て開催

懸賞募集に係る宣傳標語に付慎重審査の上當選者を決定せり。

## 第二章 事業

### 第一 施設事項

#### 一 組織團體統制施設承認に關する事項

横濱、神戸兩生絲輸出業組合は非常時局下に於ける外貨獲得の重要性に鑑み輸出生絲取引の現状を改善し、以て絲價の維持安定及輸出振興に資する爲兩組合員一團となり生絲輸出同業會を組織して生絲輸出數量の調整に關する統制施設を議定し、之が實施に付所定に依り其の承認方を申出たるに因り昭和十三年八月十六日臨時總會を開き慎重審議の上之を承認したり、承認事項及處置次の如し。

(一) 承認請求及統制施設の概要

1 承認申請

(其ノ一)

横輸一三發第九四號

昭和十三年八月三日

横濱生絲輸出業組合

組合長 伊藤武男

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽殿





拜啓陳者昭和十三年七月二十七日當組合臨時總會ニ於テ時局下生絲貿易増進ニ關スル件ニ付決議ノ上速ニ實施ノコトニ相成申候間御承認相成度此段及申請候也

(其ノ二)

昭和十三年八月三日

神戸生絲輸出業組合

組 合 長 小 田 萬 藏

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松 平 頼 壽殿

生絲輸出同業會設立承認申請ノ件

拜啓益々御隆昌奉賀候陳者今般現下ノ非常時局ニ際シ横濱神戸生絲輸出業者ハ一定ノ自治的統制ノ下ニ協力一致相率ヒテ生絲輸出増進ニ一段ノ努力ヲ盡シ度生絲輸出同業會ノ設立ノ必要ヲ感ジ本組合ニ於テハ七月二十八日午後ヨリ農林省蠶絲局長御臨席ノ下ニ臨時總會ヲ開催シ種々協議ノ結果滿場一致ヲ以テ生絲輸出同業會設立ヲ決議仕リ候就テハ貴會ニ於カレテモ我々生絲輸出業者ノ趣旨ヲ御賢察ノ上右生絲輸出同業會設立ニ御賛意下サル様別紙右同業會設立趣意書相添ヘ此段及申請候也

2 生絲輸出同業會設立趣意書(實施事由)——以下兩組合同斷——

現下ノ非常時局ニ際シ生絲貿易ノ増進ヲ圖ルコト特ニ緊要ナルハ敢ヘテ多言ヲ要セザル所ナリ然ルニ其ノ輸出ノ狀況ハ近時頗ル不振ノ裡ニ低迷シ前途亦容易ニ樂觀ヲ許サズ而シテ之ガ原因ヲ顧ミルニ主トシテ海外ノ不況ト競争織

維ノ壓迫ニ職由シ其ノ因ツテ來ル所ノ深キニ鑑ミ今遽ニ之カ回復ヲ期スルノ至難ナルハ蓋シ已ムヲ得ザル所ナリト雖モ一面ニ於テ從來ノ輸出取引ノ實狀ヲ看ルニ其ノ錯雜ヲ改善統制スルコトニ依リ絲價ノ維持安定並ニ輸出數量ノ増加ヲ期シ得ベキ餘地ノ多々存スルハ亦明ナル所トス即チ生絲輸出ニ對シ一定ノ伸縮性アル調整ヲ加ヘ不當ノ競争ヲ抑制シテ以テ生絲相場ノ安定ニ資シ海外實需ニ生絲買付上ノ安心ヲ與ヘテ其ノ消費量ノ増加ヲ圖ルコトハ輸出ノ振興ヲ期スル上ニ於テ特ニ急務スベキノ對策トス  
仍テ茲ニ生絲輸出業者ハ一定ノ自治的統制ノ下ニ協力一致相率ヒテ生絲輸出ノ増進ニ更ニ一段ノ努力ヲ竭サンコトヲ期セリ

3 統制施設の概要

(1) 決 議(横濱、神戸兩生絲輸出業組合總會決議)

一、生絲價格ノ安定並ニ輸出數量ノ増進ヲ圖ル爲横濱及神戸生絲輸出業組合ノ組合員ハ別紙規約ニ依リ生絲輸出同業會ヲ組織シ市場地域別ニ會員間ノ生絲輸出數量ノ調整ヲ行フモノトス  
二、横濱及神戸生絲輸出業組合ノ組合員ハ總テ生絲輸出同業會ノ會員ト爲リ其ノ統制施設ニ從フモノトス

(2) 生絲輸出同業會規約(前同斷)

第一條 本會ハ生絲ノ公正ナル取引ヲ助長シ生絲ノ輸出増進ヲ期スルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ生絲輸出同業會ト稱シ事務所ヲ横濱市及神戸市ニ置ク

第三條 本會ハ横濱及神戸生絲輸出業組合ノ組合員ヲ以テ組織シ市場地域ニ從ヒ左ノ部門ニ分ツ



第一部 北米合衆國及加奈陀

第二部 英國及歐洲大陸諸國

第三部 濠洲及ニュージーランド

第四部 其他ノ諸國

前項ノ地域ハ役員會ノ議ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 前條各部ノ市場ニ對シ會員間ニ毎年輸出比率ノ割當ヲ行フ但シ第四部ノ市場ニ付テハ之ヲ行ハザルコトヲ得

前項ノ比率割當算定ノ基礎及方法等ハ別ニ之ヲ定ム

第一項ノ毎年ノ比率割當期間ハ七月一日ヨリ始マリ翌年六月三十日ニ終ルモノトス

第五條 會員ハ別ニ定ムル所ニヨリ輸出依數ニ應ジ釀出金ヲ本會ニ納入スルモノトス

前項ノ釀出金ハ毎年度末ニ於テ別ニ定ムル所ニヨリ會員ノ割當比率ニ應ジ之ヲ配分スルモノトス

第六條 會員ハ左ノ場合ニ於テ前條釀出金ノ外別ニ定ムル所ニヨリ特別釀出金ヲ本會ニ納入スルモノトス

一、會員ノ輸出依數ガ其割當比率ニ比シ過不足ヲ生ジタルトキ

二、會員ニシテ割當比率ヲ有セザル市場ニ輸出シタルトキ

三、新規加入シタル會員ガ輸出シタルトキ

前項ノ特別釀出金ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ處分スルモノトス

第七條 會員ハ別ニ定ムル所ニヨリ信認金ヲ本會ニ納入スルモノトス但シ信認金ニハ利息ヲ附セズ

第八條 會員ハ海外市場及内地市場ニ於ケル生絲取引規約及商慣習並ニ會員ノ申合ヲ嚴守スルモノトス

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ總會ニ於テ之ヲ選任ス

理事長 一人

副理事長 二人

理事 若干名

監事 若干名

理事長及副理事長ハ本會ヲ代表ス

第十條 各部ニ部會ヲ置キ當該部ノ地域ニ生絲ヲ輸出スル者ヲ以テ組織ス

部會ニ於テ議決シタル事項ハ役員會ノ承認ヲ得テ之ヲ決定スルモノトス

第十一條 總會ハ毎年七月ニ之ヲ開催シ必要アルトキハ臨時ニ開催スルモノトス

第十二條 本規約ニ違反ノ事實アリタル會員ニ對シテハ役員會ノ議ヲ經テ第七條ノ信認金ヲ沒收スルコトアルベシ

前項規約違反ノ認定ハ部會ニ於テ所屬會員四分ノ三以上ノ同意ニヨル決議ヲ以テス

第十三條 政府所有生絲、絹撚絲、玉絲及野蠶絲ニハ本規約ヲ適用セズ

第十四條 本規約ノ有効期間ハ每三年ヲ以テ一期トシ期間滿了ノ六箇月以前ニ於テ豫メ廢止ノ決議ヲナシタル場合

ヲ除クノ外順次更新スルモノトス但シ第一期ノ有効期間ハ昭和十六年六月三十日迄トス



第十五條 會員ノ本會經費ノ負擔ハ別ニ之ヲ定ムルモノトス

附則

本規約ハ昭和十三年 月 日ヨリ實施スルモノトス但シ第三條乃至第六條ノ規定ハ昭和十三年七月一日ヨリ適用スルモノトス

本規約ノ效力發生シタル場合ニハ横濱及神戸生絲輸出業組合ノ組合長ハ共同シテ遲滞ナク第一回ノ總會ヲ招集スルコトヲ要スルモノトス

(3) 生絲輸出同業會規約細則

第一條 規約第四條ノ輸出割當比率(以下單ニ比率ト稱ス)ハ初年度ニ於テハ左記生絲輸出總依數ニ對スル各會員輸出依數ノ割合ヲ以テス

第一部 昭和十三年六月三十日ニ終ル過去五年間

第二部 同 同 三年間

第三部 同 同 二年間

第二年度以降ノ比率ハ前年度比率ヲ四倍シ之レニ前年度輸出實績比率ヲ加算シ五分シタルモノヲ以テス比率ハ萬分ノ一ヲ單位トシ以下四捨五入スルモノトス

第二條 新ニ加入シタル會員並比率ヲ有セザル市場ニ輸出シタル會員ニ對シテハ該年度中ノ輸出依數ヲ翌年度比率算定ノ基本依數トス、翌々年度以降ハ前條ニ準ジ比率ヲ算定スルモノトス

第三條 會員ハソノ比率ノ全部又ハ一部ヲ他ノ會員ニ讓渡スル事ヲ得ズ但シ營業繼承ノ場合ニ限り役員會ノ議ヲ經テ之レヲ承認スル事ヲ得

第四條 會員ハ左ノ場合遲滞ナク本會ニ通告スル事ヲ要ス

一、仕向地ニ港以上ノオブションヲ以テ輸出シタル荷物ノ揚地決定ノ場合

二、積出後ノ荷物揚地變更ノ場合

三、仕向地ガ消費市場ニ非ザル時最終ノ揚地決定ノ場合

第五條 規約第五條ニ基キ各部會員(第四部會員ヲ除ク)ハ輸出ノ都度生絲一俵ニ付金〇圓ヲ釀出スル事ヲ要ス

前項ノ釀出金ハ毎年度末ニ於テ各部別ニ全額精算ノ上會員比率ニ應シ配分スルモノトス、但シ輸出依數ガ比率ノ

四分ノ一ニ達セザル會員並比率ヲ有セザル會員ニハ配分ヲナサズ

第六條 前條第二項ノ配分金ニ就テハ毎月釀出金ノ八割ヲ限度トシテ前渡スルコトヲ得

第七條 規約第六條第一號ノ特別釀出金ハ左ノ通りトス

第一部

一割以上二割未満ノ超過依數ニ對シ一俵ニ付金〇圓

二割以上三割未満ノ同 同 金〇〇圓

三割以上ノ 同 同 金〇〇圓

一割以上二割未満ノ不足依數ニ對シ一俵ニ付金〇圓



二割以上ノ 同 金〇圓

第二部

二割以上三割未滿ノ超過俵數ニ對シ一俵ニ付金〇圓

三割以上ノ 同 金〇〇圓

二割以上三割未滿ノ不足俵數ニ對シ一俵ニ付金〇圓

三割以上ノ不足俵數ニ對シ 一俵ニ付金〇圓

第三部

三割以上四割未滿ノ超過俵數ニ對シ一俵ニ付金〇圓

四割以上ノ 同 金〇圓

二割以上三割未滿ノ不足俵數ニ對シ一俵ニ付金〇圓

三割以上ノ 同 金〇圓

但シ第一部市場基本俵數二千俵以上一萬二千俵未滿ノ會員ニハ第二部市場ノ標準率ヲ、二千俵未滿ノ會員ニハ第

三部市場ノ標準率ヲ、又第二部市場基本俵數一千俵未滿ノ會員ニハ第三部市場ノ標準率ヲ夫々適用ス

第八條 規約第六條第二號及第三號ノ特別釀出金ハ夫々一俵ニ付金〇〇圓及金〇〇圓トシ該年度中輸出ノ都度納入

スルモノトス、但シ第三號ノ特別釀出金ハ第四部市場ニ對シテモ之ヲ適用ス

第九條 規約第七條ノ信認金ハ左ノ通りトス

一、第一、第二及第三部市場通算壹萬俵以上ノ基本俵數ヲ有スル會員 金〇〇圓

二、同 貳千俵以上 同 金〇〇圓

三、同 貳千俵未滿 同 金〇〇圓

但シ第四部會員ノ信認金ハ當分ノヲ徴收セズ

第十條 規約第六條ノ特別釀出金ハ輸出獎勵施設ニ充ツル目的ヲ以テ之ヲ積立ツルモノトス

前項積立金ノ處分ニ就テハ總會ノ決議ヲ經テ主務省ノ承認ヲ受クルモノトス

(二) 本會ノ承認及處置

1 總會 決議

組織團體統制施設承認ニ關スル件(昭和十三年八月第十一回臨時總會決議)

横濱、神戸兩生絲輸出業組合ノ現下非常時局ニ於ケル國際收支均衡保持ノ重要性ニ鑑ミ錯雜ナル生絲輸出取引ノ現  
狀ヲ改善シ自主的統制ニ依リ絲價ノ維持安定ヲ圖リ以テ生絲貿易ノ増進ニ寄與センガ爲メ兩組合ハ各臨時總會ヲ開  
キ慎重審議ノ上兩組合所屬組合員ハ一團トナリ生絲輸出同業會ヲ組織シ其ノ統制施設(横濱、神戸各生絲輸出業組  
合統制施設)ニ從フベキ旨ノ決議ヲ爲シ之ガ實施ニ付蠶絲業組合法第七十八條及本會會則第八條ニ依リ別記ノ通其  
ノ承認方ヲ申出デタリ、仍テ同施設ノ緊切ナルヲ認メ本總會決議ニ依リ之ヲ承認スルモノトス

附帶事項

本事項承認ニ付テハ其ノ統制施設ノ實效ヲ確保スル爲當該關係業者ニ對シ同施設ニ從フベキ旨官廳統命令發布方ヲ



農林大臣ニ稟請スルコト

記

一、生絲輸出數量調整ニ關スル統制施設

横濱生絲輸出業組合（昭和十三年七月二十七日臨時總會決議）

神戸生絲輸出業組合（同 年七月二十八日臨時總會決議）

1 決 議

2 生絲輸出同業會規約

（前掲に依る）

〔參照〕

(1) 蠶絲業組合法（抄）

第七十八條 日本中央蠶絲會ノ會員蠶絲業ノ統制ニ關スル施設ヲ行ハントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ日本中央蠶絲會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

(2) 日本中央蠶絲會會則（抄）

第八條 本會ノ會員左ニ掲クル蠶絲業ノ統制ニ關スル施設ヲ行ハントスルトキハ本會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

一、生産ノ調節ニ關スル施設

二、取引數量及取引價格ノ統制ニ關スル施設

2 横濱、神戸兩生絲輸出業組合統制施設承認ニ關する處置

第十一回臨時總會決議に依り横濱、神戸兩生絲輸出業組合統制施設（生絲輸出同業會に依る生絲輸出數量調整ニ關する施設）承認に付ては當該組合に對し之が通知を發すると同時に農林大臣宛之方實施に對し援助方稟請を爲したり、其他關係事項次の如し。

(1) 承認通告

横濱、神戸生絲輸出業組合宛（各通）（昭和十三年八月十七日中蠶十三收第四七九號會長名發信）

統制施設承認ニ關スル件

本月三日附貴組統計施設トシテ貴組合及横濱、神戸生絲輸出業組合所屬組合員一團トナリ生絲輸出同業會ヲ組織シ協力一致市場區域別會員（貴組合員）間ノ生絲輸出數量調整ニ關スル事項實施ノ趣ヲ以テ之方承認方申出ニ付本月十六日第十一回臨時總會ヲ開キ蠶絲業組合法第三十六條第一項規定要件ノ下ニ慎重審議全會一致ノ決議ヲ以テ別紙ノ通承認相成候間此段及御通知候也

(2) 組織團體統計施設援助方稟請（昭和十三年八月十七日中蠶十三收第四七九號會長名發信）

横濱、神戸兩生絲輸出業組合ニ於テ生絲ノ價格安定並輸出増進ニ資スル爲各其ノ統制施設トシテ兩組合所屬組合員一團トナリ生絲輸出同業會ヲ組織シ協力一致市場區域別會員（組合員）間ノ生絲輸出數量調整ニ關スル事項實施ノ趣ヲ以テ成規ニ依リ之方承認方申出ニ付本月十六日第十一回臨時總會ヲ開キ蠶絲業組合法第三十六條第一項及本會則第三十七條規定要件ヲ備ヘ慎重審議、別紙ノ通全會一致ノ決議ヲ以テ承認候間御了承ノ上當該關係業者ニ對シ同施設ニ從フベキ旨ノ貴省統制命令ヲ御發布右實效確保ノ爲御援助被成下度本會總會附帶決議第四ニ依リ此段及稟



請候也(承認事項—前掲—添付)

農林大臣宛

「頭末」

右に對し政府は左の統制命令を發布し之を援助せられたり。

告示

(昭和十三年八月二十七日官報第三四九號掲載)

農林省告示第三百一號

輸出生絲取引法施行規則第二十七條ノ二ノ規定ニ依り左ノ通定ム

昭和十三年八月二十七日

農林大臣 伯爵 有馬 頼寧

生絲ノ輸出ヲ爲ス者ハ昭和十三年九月十日ヨリ横濱生絲輸出業組合及神戸生絲輸出業組合ガ其ノ施設ニ係ル生絲輸出業同業會ニ依リ行フ生絲輸出ニ關スル統制施設ニ從フベシ

(三) 生絲輸出同業會の成立及經過

1 生絲輸出同業會ノ成立

(昭和十三年九月八日同一三發第三號生絲輸出同業會理事長報告)

拜啓陳者八月三十一日本會創立總會開催致候處規約第九條ノ規定ニ依り本會役員ヲ左ノ通り選任致候間左様御了承

被下度此段御通知迄得貴意候

敬具

(1) 生絲輸出同業會役員

|      |                 |      |
|------|-----------------|------|
| 理事長  | 三井物産株式會社横濱支店    | 伊藤武男 |
| 副理事長 | 旭シルク株式會社        | 小田萬藏 |
| 同    | 三菱商事株式會社生絲部     | 臼井經倫 |
| 理事   | チャールス・ルドルフ商會    |      |
| 同    | 原合名會社           |      |
| 同    | 那是シルク・コーポレーション  |      |
| 同    | 片倉製絲紡績株式會社横濱出張所 |      |
| 監事   | 日本棉花株式會社        |      |
| 同    | 神榮生絲株式會社        |      |

(2) 生絲輸出同業會會員(昭和十三年八月三十一日現在)

|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 旭シルク株式會社           | 合名會社西村商店横濱支店 |
| エー・ケールン商會          | 日本棉花株式會社     |
| 片倉製絲紡績株式會社横濱出張所    | 原合名會社        |
| 株式會社那是シルク・コーポレーション | 横濱シルク株式會社    |



- コーンズ商會
- 三井物産株式會社
- 神榮生絲株式會社
- 三菱商事株式會社生絲部
- ストラーラー商會
- 株式會社シイベル・ヘグナー商會
- チャールス・ルドルフ商會
- フリテチャー・リミテッド
- 株式會社兼松商店
- 日商株式會社神戸支店
- 東洋物産合資會社
- 加藤物産株式會社
- 大倉商事株式會社
- ピーチー・デザインアンドブラザース
- グレアム商會
- 株式會社西松商店
- ヴァスニア商會
- 株式會社小西商店
- アル・イ・ダアバー商會
- 東亞貿易商會
- 伊藤忠商事株式會社
- 大和シルク商會
- 日本合同貿易株式會社
- 稻畑香料店

(3) 實施手續

(昭和十三年九月八日同一三發第四號生絲輸出同業會理事長報告)

イ、生絲輸出同業會釀出金收入手續

第一條 生絲ヲ輸出セントスル者ハ生絲輸出同業會規約第五條第一項ノ釀出金及第六條第一項第二號及第三號ノ特

別釀出金ヲ本會ニ納入シ當該輸出港ニ於ケル生絲輸出業組合ノ輸出承認ヲ受クルコトヲ要ス

第二條 前條手續ニ付テハ日本中央蠶絲會生絲消費増進宣傳事業經費收入手續第二條乃至第六條ノ規定ヲ準用シ様

式第二號及第三號中ニ當該釀出金額欄ヲ設ケ之ヲ併用スルモノトス

釀出金拂込通知書ハ様式甲號ニ依リ宣傳費收入金拂込通知書ト共ニ提出スベシ

第三條 生絲輸出同業會規約第六條第一項第一號ノ特別釀出金ハ拂込通知ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ様式乙號ニ

依リ納入スルモノトス

(様式省略)

ロ、實施手續ニ對スル税關ノ援助

(昭和十三年九月三十日同一三發第一〇號生絲輸出同業會理事長報告)

拜啓愈々御多祥之段奉慶賀候

陳者本會生絲輸出統制ノ儀ニ關シテハ種々御配慮ヲ忝フシ奉深謝候本件ニ對スル釀出金通脱防止援助ニ關シテハ曩ニ農林省ヲ通ジ大藏省ニ稟請中ノ處以御蔭今回同省ヨリ税關ニ通牒有之候ニ付明十月一日ヨリ愈々徵收事務開始致スコトニ相成候間左様御了承被下度右御通知迄得貴意候

〔參考〕

敬具

輸出振興策割當制ト米國法規ニ關スル事項

(昭和十三年九月十五日三井物産株式會社横濱支店長報告)

拜啓 時下益々御清榮奉賀候 陳者昭和十三年八月廿六日附貴官宛横濱生糸輸出業組合出狀ニテ得貴意候輸出振興策割當關制ニ



スル生糸輸出同業會規約並ニ細則ニ對スル米國法律家ノ意見ニツキ當社紐育支店來電ノ文意ハ「米國國法違反」ト相成居候處右ハ電文ノ誤譯ニテ今般同店ヨリ書狀ヲ以テ委細申越候處ニヨレバ當社顧問辯護士ノ意見ノ骨子ハ

輸出同業會ノ割當制ハ日本ニ於テ日本政府ノ法規ニヨリ強制的ニ施行セララル建前トナリ居ルガ故ニ米國國法ニ違反セズトノ見解ニ有之御了承相成度候

尤モ最初當社紐育支店ハ同辯護士ニ對シ割當制ノ内容ヲ口頭ヲ以テ傳ヘ申候爲メ本制度内容ノ枝葉ノ點ニ就テハ同氏記憶違ヒト思ハル節モ多少ハ有之候得共其ノ骨子ニ就テハ同氏ノ了解ニ間違ハ無之モノト存候

尙茲許御參考迄ニ當社支店宛同辯護士ノ書狀並ニ八月廿四日附當社紐育支店來電寫シ(訂正ノ分)同封申上候間御披見被下度候

匆々

一九三八年八月廿四日 紐育發着電

辯護士スキッドモアノ意見ニ依レバ

輸出業者ノ協定ガ

日本ニ於テ爲サレ

日本政府法律ニヨリ勵行セララル、ナラバ

其協定ハ米國法律違反トハナラズ

貴方ニ於テハ右ガ

商業條約

違反トナラザルヤ研究セラレ度

一九三八年八月二十四日

三井物産株式會社

協 本 殿

拜 啓

日本ニ於ケル生糸輸出業者ガ輸出同業會ヲ結成シ、全員其ノ會員トナリ、會員間ノ協定ニヨツテ米國其他諸國ヘノ輸出生糸數量ノ各國宛持分ヲ定メ、尙各輸出業者間ノ輸出總數量ヲ過去一ケ年間ノ各國向輸出實績ニ基キ割當テ、斯クシテ輸出ノ制限ヲ爲サントノ計畫ナル旨承知仕候、各輸出商ハ輸出生糸一俵ニ付十圓ノ釀出金ヲ爲シ、年度末ニ於テ其ノ釀出割當率ニ應ジ拂戻ヲ受クルモノガ若シ持分ヲ超過輸出シタルトキハ釀出額ハ差引拂戻サル、モノニシテ、其ノ持分ニ滿タザルトキハ或程度ヲ限り釀出額ノ増額拂戻ヲ受ク、又、或程度以下ノ輸出ニ對シテハ最少限度數量ノ輸出ヲ爲シ能ハザリシ故ヲ以テ過意金ヲ徵セラレ特定比率以上ニ輸出ヲ爲セシモノハ追徵金ヲ課セララル、由ニ承知致候

又、各會員ハ別ニ供託金(信託金)ヲ納メ生糸輸出業組合ノ採用シタル前記規約ニ違反スル場合ニ於テハ、該會員ヲ處罰シ其ノ供託金中ヨリ違約金ヲ徵ス、若シ該會員ガ右規約違反ニ付權利主張ヲ爲ストキハ同會委員ノ裁決ヲ乞ヒ多數決ニヨリ違約金ヲ課スモノナリ。

同企圖ノ第一目的ハ米國並諸外國ニ於ケル生糸々價ノ安定ト米國市場ニ於ケル不當競争防止ヲ爲サントスルニ在リ、例ヘバ輸出商間ニハ常套手段トシテ荷渡延期ヲ爲シ、既得利益ノ放棄ヲ爲スモノアリ、之ハ間接ノ値引方法ト言フベク同業會ノ目的ハ各輸出商ヲシテ規約ノ要求スル所ニ應ジ平等ノ立場ヨリ顧客ニ對スル競争ヲ爲サシメントスルニアリ、同計畫ニ於テモ規約ニアリテモ米國其他ニ於テ販賣セラレベキ生糸々價ノ決定ヲ會員ガ爲サントスルモノニアラズ、乍併規約ノ赴ク所案ノ實施セララル、ニ及ビテハ糸價ノ騰貴ヲ見ルベキハ必然ナルベシ。

尙、同案ヲ日本政府ノ管轄官廳ニ提出シ日本ニ於テ法令ト爲シ、以テ之ガ承認、施行ヲ爲サントスル意嚮ナル由ニ承知致候  
問題ト相成ベキハ前記事實ニ基キ日本人團體ガ日本ヨリ米國ニ生糸ヲ輸出シ、之ヲ米國ニ輸入シ、米國ニ於テ販賣スルハ所謂  
アンチトラスト法ニ抵触スルヤ否ヤニ有之候  
ウイルソン關稅法(米國法令第十五類第八節)ニ依レバ左記ノ如ク規定致居候



「輸入業トラスト違法罰則第七章、之ニ依リ各結社、結黨、トラスト、協定、契約ハ國民ノ利益ニ反シ違法ナリトス、而シテ其ガ二人若クハソレ以上ノ各人間或ハ結社ニシテ、其ノ代理人タルト本人タルトニ不拘、他國ヨリ合衆國ニ物品ノ輸入ニ從事スルトキ、及、カ、ル結社、結黨、トラスト、協定、契約ガ合法的取引若クハ合法的取引ニ於ケル自由競争ヲ營マントシタルトキ、或ハ合衆國內ニ於テ輸入物品又ハ輸入目的ノ物品市價ヲ騰貴セシメント企テタルトキ、若クハカ、ル輸入物品又ハ輸入目的物品ヲ材料トセル製品ノ市價ヲ騰貴セシメント爲シタルトキハ、無効ナリ。自今、本法本節ニ違反シテ他國物品ノ輸入ニ從事シ若クハ從事セントスルモノ、又ハ結合或ハ共謀シテ本法ヲ犯サントスルモノハ非行罪（輕罪）トシテ處罰ス、合衆國內ノ法廷ニ於テ同罪判決アリタルモノハ百弗以上千弗以下ノ罰金ニ處シ、情狀ノ如何ニ依リ三ヶ月以上一ヶ年以下ノ禁錮ニ處ス。」

法律ノ性質上、合法ナリヤ違法ナリヤハ該法ノ定メラレタル國ノ法律ニヨリ決セラルベキハ申ス迄モナキ定期ニ御座候、日本ニ於ケル日本人輸出業者ガ決議ヲナシ、其ノ協定ニ加入シ又ハ實行スル事ニ付テハ合衆國ノ法律違反トシテ罰スベキモノニ非ズ、其ハ合衆國ニ於テ行ハレタルモノニ非ザレバ、我方司法權外ニアルモノニ候、乍然、當合衆國ニ於テ日本輸出業者ガカ、ル組合ヲ組織シ前記ノ如キ協定ニ加入シ當國ニ輸入スベキ生絲數量ヲ制限シ、業者間ノ輸入數量持分ヲ定ムルガ如キハ前記引用ノウイロンン關稅法違反ノミナラズ、同性質ノシャーマン法ニモ抵触スルモノナル事ハ明白ト被存候、協定施行ノ承認及規定ニ付キ日本ノ法律アルコトナクシテ當國ニ在ル日本輸出業者ガ該協定事項ヲ遂行スルニ於テハ、前記米國ニ法律ノ一若クハ兩者ニ違反スルモノト相成ベク候、然ル處、日本輸出業者ノ決議ガ日本ニ於テ制定セラレタル法令ニヨリ特ニ認可、承認セラレタル場合ニアリテハ、其ノ支店代理人其他ヲ通ジ、該協定、條件ニ從ヒ合衆國ニ於テ生絲ヲ販賣スルト雖其ハ米國法律規定ノ違反トハ相成マシク候

本件類似事件一九一〇年ニ獨國加里工業ニ關シ惹起致候、御承知ノ如ク全世界ノ加里供給ハ殆ンド獨國ニ依ルモノニシテ加里鹽ハ當國其他ノ肥料製造業者ニヨリ極メテ廣範圍ニ使用セラレタリ、獨逸政府ハ左記法律ヲ一九一〇年五月一日付實施致候

外國ヘノ加里販賣ハ加里鹽鑛山所有者ニノミ許可シ、本法規定ニ從ヒテ販賣スルモノトス、曆年度中右所有者ニ依リ販賣セラレベキ總數量ハ法ニ定ムル所ノ割當會議ニ於テ定ムルモノトス、同會議ハ販賣總數量ヲ國內向輸出向ニ分チ、尙、年々右數量ノ增加ヲ計ルベキモノトス。又同會議ヲシテ各鑛山所有者ノ販賣割當持分ヲ定メシム。即チ其ノ參與率ニ比例シテ國內向並外國向販賣ニ預ラシメ各人ノ外國向販賣ノ割合ハ國內向販賣ニ於テ同年間ニ於ケル其ノ參與獲得率以內タルモノニ對シテハ、同率迄引下ゲ得ルノ權ヲ與フ。國內買手ニ對スル販賣價格ハ一九一三年十二月三十一日迄同法ニ定ムル價格ヲ越エザラシム、依テ *Budget* ハ五年間ノ各年期末ニ於テ最高價值ヲ決定スベキコト、但シ、大量購入者ニ對シテハ割引ヲ認ム。外國市場ヘノ加里鹽販賣、荷渡價段ハ獨國內鹽類價值以下タラザルコト、但シ一九一〇年四月十七日以前約定ノモノニハ適用セズ。加里鹽鑛山所有者ニシテ其ノ加里鹽取扱量ヲ超過セルモノハ割當會議ニ依リ定メラレタル配分下ニ其ノ販賣ヲ爲スノ權ヲ得ルモ、超過販賣高ニ對シテハ法ノ定ムル率ニヨリ國庫ニ課稅ヲ拂込ムベシ。其ノ義務ヲ怠リタルモノハ課稅額ノ四倍ニ當ル罰金ニ處ス。本法ノ規定ニ從ハザルトキ、又ハ公布取締規定ノ勸行ヲ爲サザルトキハ一〇萬マーカー以下ノ罰金ニ處ス。

右法案ノ通過スルヤ、殆ンド之時ヲ同ジウシテ同鑛山所有者ハ協定ヲ取結ビ、次デ一名ヲ除ク外全員其ノメンバート相成候同協定ノ告グル所ニ依レバ「自今、加里鹽市場ニ於ケル不當競争ヲ防止スルノ目的ヲ以テ」爲サレタルモノニシテ各員ハ皆一致シテ自己ノミノ利益ノ爲メノ販賣、又ハ照會スラモ之ヲ抑制セルノミナラズ、此ノ企業組合ヲシテ專ラ其ノ製品ノ委託販賣ヲ爲サシメ、或ハ之ニ荷渡註文ノ照會、顧客ノ問合ニ對スル照會ヲ爲スニ同意セリ。同協定ニ違反シタルモノハ賣却價值又ハ定價ノ十倍ニ當ル罰金ヲ支拂ヒ、亦組合ハ組合員ノ全註文ノ割當ヲ爲シ、組合員ニ其ノ夫々ノ獲得權タル賣價分ヲ送金ス。組合員ニシテ他ノ者ニ其ノ權利、特權ヲ讓渡シ、其ノ讓受人ガ代ツテ協定契約ヲ履行スルノ責任ヲ負ヒタルトキ、組合員ニシテ其ノ買手ニ對シ協定規約ヲ履行シ得ザリシトキハ該組合員ハ三十萬マーカーノ罰金ヲ支拂フコト。組合員ハ其ノ事業ニ於テ鹽事業ノ產物タル粗鹽ハ如何ナル種類タリトモ協定ノ規約ニ從フコトナクシテ其ノ製法ニ掛クル事ヲ得ズ、又組合ト何等特約スルコトナクシテ粗鹽ヲ製品ト爲サンガ爲ニ第三者ニ其ノ事業ヲ讓渡スルコトヲ得ズ。組合員ニ割當テタル鹽販賣ノ參與率ハ加里鹽法規定ノ定メラ



レタル時ノ參與率タルコト。而シテ註文引受ニ於ケル各員ノ持分ハ可及的、四期間ニ於ケル組合員受持販賣參與率ニ應ジ定メラルベキコト、何人ト雖、協定規約違反ノ行爲ニ對シテハ一件毎ニ五百マーク以内ノ罰金ヲ組合ニ支拂フコト。又、組合員ニシテ個人的ニ、若クハ事業會社トシテ協定規約ニ反シタル行爲アリタルトキハ、其ノ製造、荷渡、購買セル加里一〇〇キログラム毎ニ二〇マークノ罰金ヲ課ス

前記獨逸法律及協定ガ施行セラル、ヤ、米國加里購買者ニ對スル賣價ハ十割方急騰致候。而シテ米國ニ於ケル製品販賣ノ爲、右企業組合ハ紐育法律ノ下ニ「獨逸加里工業」ナル連絡會社ヲ設立シ紐育市ニ事務所ヲ設置致候。茲ニ於テ、國務卿ハ前記事實ガシャーマン法及ウイルソン關稅法違反トナラザルヤ、時ノ檢事總長ウイツカーシヤム氏ニ意見ヲ求メタルガ、氏ハ檢事總長意見見集第三十一卷五五二頁―五四五頁ニ於テ左記ノ如ク述べ居リ候

「獨逸政府ニヨリ施行セラレタル法律ハ其レ自體ニ於テ本法ノ意義ト何等結合アルコトナキハ勿論ナリ。如何ナル條件ヲ以テ同法ガ通過シタルヤ、或ハ又、如何ナル事情アリテ其ノ實現シタルヤニ不拘、同法案ノ通過ニヨリテ其ハ獨逸政府ノ一法律ト爲リタルモノニシテ斷ジテ何等結合アリト考フルコトヲ得ズ。然リト雖、獨逸帝國ノ法令ハ合衆國司法權内ニ於テ爲サレタル法律違反ノ結果ヨリ彼國民ヲ保護スルヲ得ズ況ンヤ米國民ヲヤ。獨逸ニ於ケル加里業者ガ其ノ規約ノ獨法ト同一義ナル範圍内ニ於テ契約協定ヲ爲シタル限リハ、其自體當國法律規定内ニアリテ不法結合ヲ構成シタルモノニ非ズ。乍然、當國司法權内ニ於テ爲サレタル決議ハ總テ當國法律ニヨリ判決セラレザルベカラズ。例ヘバ同法ニ於テ割當會議ハ母國市場ニ於ケル加里最高價值ヲ定メ、而シテ右價值ハ外國市場ニアリテハ最高價值タルベシ(本規定ハ米國向契約ニハ一九一〇年四月十七日以前ナリシ故ヲ以テ適用セラレザリシモ)ト規定シ、更ニ鐵山所有者間ニ割當配分ヲ爲スベシト規定ス。然ルガ故ニ、鐵山所有者間ニ於ケル協定ガ更ニ要求スル所アルトモ、其ハ獨國內ニ於テハ有効ナルベキガ、如斯協定ニ從フ決議ガ合衆國內ニ於テ爲サレ、其ノ結果、米、獨間ノ取引、若クハ自由競争ガ束縛セラル、如キ場合ニアリテハ、當國法律ニ依リ之ヲ律セザルベカラズ。」以上ノ如クナルヲ以テ檢事總長ノ意見ハ當國ニ於ケル取引ニ束縛ヲ齎スベキ結社、結黨ガ獨法ニ從ツテ實施スル所アルト雖其

ノ決議ガ合衆國ニ於ケル該結社、結黨ノ目的遂行ノ爲メナリトセバ、其ハ當國アンチ・トラスト法ニ抵觸スルモノトハナラザルベシトナリ。

乍然、檢事總長ハ獨逸加里鐵山所有者間ノ協定ガ獨逸法律規定ノ範圍ヲ越エタルモノナルヲ指摘致候。彼ハ公明正大ニ鐵山所有者間ノ協定ニ其ノ意見ノ基礎ヲ置キタルガ、右協定ガ合衆國ニ於ケル取引束縛トナリ、而カモ、結局、獨法ニヨリ保護セラレザリシ旨申述候

此ノ檢事總長ノ意見ハ大審院判決同當ノ價值アルモノナラズ、又、他ノ合衆國內下級法廷ノ判決ニサヘ及バザルモノナルガ、檢事トシテノウイカーシヤム氏ノ立場ヨリ相當重視セラルベキモノニシテ、同様事件ノ惹起シタル場合ノ取扱方法ヲ指示シ居ルモノト可申候

檢事總長ノ意見ヲ考フルニ獨逸法律並獨逸鐵山所有者間ノ同時協定ハ直接米國市場ヲ目的トナセシモノナルコト、及、當初ニ米國側買手中ニハ過去ニ於ケル買入價值ヨリ遙ニ安價ニテ加里鐵山所有者ト個別契約ヲ爲シタル者アリシ事實ハ記憶スベキ事ニ候。米國政府ハ外交機關ヲ通ジ獨逸政府ノ右法案通過阻止ニ付努力致セシ事明白ニ御座候。故ニ檢事總長ノ意見中ニハ多少獨逸ニ於ケル實施ニ付キ書カレタルモノ有之ト覺エ申候

小生結論トシテハ日本ニ於ケル生絲輸出業者間ノ協定並輸出業者組合(同業會)ガ日本政府ノ法令ヲ以テ保護セラレ之ガ承認ト施行ノ規定ガ爲サル、ニ於テハ此ノ協定ト組合(同業會)ハ其ノ結果ガ米國ニ於ケル取引束縛ヲ齎スニ到ルトモ、法律制定國ニ依リ特權ヲ附與セラレタルモノナルヲ以テ、其ハ不法協定又ハ組合(同業會)ナリト言フヲ得ザルモノニ御座候協定若クハ結合團體ニシテ不當ナル取引ノ束縛ヲナストキ始メテ、アンチ・トラスト法違反トモ相成ベク候ヘ共、日本法律ニ從ヒテ、日本國民ノ爲セル決議ガ不當束縛ト相成ルベシト言ヒ得ルヤ存ジ申サズ候。乍然カ、ル合法的協定若クハ結合ガ米國ニ於テ合法的決議ヲ爲スト雖其ハ米國アンチトラスト法違反ヲ構成スルモノニハ非ズト信ジ申候

之ニ反シ概述セル如キ同案ニシテ、若シ之ガ單ニ當國ニ於テ採用セラル、トセバ、思フニ、其ノ結社、結黨、若クハ協定ハ取引



東縛ノ意味ニ於テ、アンチ・トラスト法違反ト可相成候 尙又、同案ガ日本政府ノ法令ニ依ル保護、認可ナクシテ日本ニ於テ採用セラレ、日本輸出業者ガ同案又ハ協定ニ從ヒ決議ヲ爲シ、以テ當國ニ於テ之ヲ實行セントスルモ、又、當國アンチ・トラスト法違反トナリ處罰セラレベク候

本書寫ニ通同封致候ニ付必要ノ場合ハ日本へ御送付相成度候

拜 具

### 二 組織團體統制施設變更に關する事項

#### 全國產業組合製絲組合聯合會統制施設實施方法變更

昭和十一年十二月第八回通常總會決議を以て承認に係る全國產業組合製絲組合聯合會統制施設（產業組合製絲整備助成施設）實施事項中左記の通改正の旨報告ありたり。

（昭和十三年十二月二十七日發第二四一號全國產業組合製絲組合聯合會長報告）

昭和十三年十二月五日開催第八回本會通常總會ニ於テ滿場一致ノ決議ニ依リ産業組合製絲組合製絲整備助成施設規程ヲ左記ノ通變更致候條此段御報告申上候也

記

#### 産業組合製絲組合助成施設規程變更ノ件

一、産業組合製絲整備助成施設規程中左ノ通改正ス

第二條第二項中「金壹百拾五萬圓」トアルヲ「金壹百貳拾五萬圓」ニ改ム

〔參 照〕

#### 産業組合製絲整備助成施設規程（抜萃）

第二條 前條ノ事業ニ對シテハ別ニ定ムル産業組合製系整備助成施設實施規程ニ依リ助成金ヲ交付スルモノトス

前項ノ助成金額ハ總額凡ソ金壹百貳拾五萬圓トス

### 三 建議、陳情、其他

一、蠶絲業作興に關する事項

(一) 蠶絲業作興方策ニ付建議

（昭和十四年一月第十二回通常總會決議）

非常時局竝蠶絲業ノ現状ニ鑑ミ、蠶絲業關係者ハ別紙蠶絲業作興ニ關シ決議シ生産ノ維持擴充ヲ圖リ斯業ノ進展ト戰時經濟ノ充實トニ寄與貢獻センコトヲ期ス仍テ政府ハ左記各項其他ヲ實施シ之カ目的達成ノ爲最善ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ望ム

右昭和十四年一月第十二回通常總會決議ヲ以テ建議ス

昭和十四年一月二十三日

會 長 名

内閣總理大臣外各省大臣及企畫院總裁宛（各通）

記



- 一、優良強健蠶品種ノ育成配付
- 二、蠶絲絹業ニ關スル研究機關ノ擴充
- 三、產繭ノ確保ト其ノ價格ノ維持
- 四、肥料ノ圓滑配給
- 五、特殊工業ト農產業トノ勞力分配ノ均整及資金比率ノ合理化

(添付)

蠶絲業作興ニ關スル決議

(昭和十四年一月第十二回通常總會決議)

我蠶絲業ノ重要性ハ近時大ニ加重セラレタルニモ拘ラス其生産ヲ減少シツ、アリ是レ素ヨリ不得已事情ノ存スルモノアリト雖モ亦業界ノ意氣消沈ノ傾向ナキヲ保シ難ク邦家ノ爲深憂ニ堪ヘサル處ナリ今ヤ長期戦下ニ於テ戰時經濟ノ充實ト銃後農蠶村ノ擁護トヲ緊要トスル秋ニ方リ我ガ蠶絲業者ハ不拔ノ覺悟ヲ以テ左ノ綱領ニ依リ以テ其精神ヲ作興シ、斯業ノ推進力ヲ涵養シ、輸出貿易ノ振興ヲ圖リ國際收支ノ調整ニ寄與貢獻シ、併セテ斯業ノ將來ヲ確保セシムコトヲ

右決議ス

蠶絲業作興ニ關スル綱領

- 一、蠶絲業關係者ハ時局ノ重大性ニ鑑ミ其ノ精神ヲ振作シ協力一致以テ斯業ノ進展ヲ期シ蠶絲報國ノ實ヲ舉グルコト

二、蠶絲業關係者ハ忠勇ナル皇軍將兵ノ困苦缺乏ニ想到シ協心戮力以テ生産ノ維持擴充ヲ圖リ銃後經濟力ノ充實ニ貢獻スルコト

三、蠶絲業關係者ハ其業態ニ鑑ミ常ニ不羈進取ノ精神ヲ以テ其ノ改良發達ニ努力シ斯業ノ將來ヲ確保スルコト

(二) 蠶絲業作興ニ關スル施設實施方陳情

(蠶絲業作興ニ關スル委員會小委員會決議ニヨリ中蠶十四發第九十二號提出)

時局並蠶絲業ノ現状ニ鑑ミ本年一月第十二回通常總會決議ニ依リ斯業作興ニ關スル事項ノ調査研究ノ必要ヲ認メ委員會ヲ設ケ鋭意研究ノ結果左記事項ノ急速實施ヲ緊要トスル旨一決シタルニ依リ客月二十四日評議員會ヲ開キ慎重審議致候處同様其ノ急務ヲ認メ之ガ政府ニ要望ノコトニ決議相成候ニ付事情御了承急速御實施相成候様御取計被成下度別紙評議員會決議相添此段及陳情候也

昭和十四年三月九日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松 平 頼 壽

- 內閣總理大臣
- 農 林 大 臣
- 大 藏 大 臣
- 企 畫 院 總 裁

以上宛(各通)



記

- 一、減産防止、生産確保ノ必要上、此際國ニ於テ繭價ノ補償ヲナサレタキコト
- 二、計畫的生產方針、繭ノ標準掛目其他蠶絲業上重要事項ヲ審議スル爲政府ニ於テ廣ク關係者ヲ以テ組織シタル蠶絲業審議會ヲ設置セラレタキコト

(三) 委員會ノ運用ニ關スル意見陳述

拜啓益々御清榮之段奉慶賀候 扱本會ニ於テ第十二回通常總會ノ決議ニ基キ蠶絲業作興委員會ヲ設置シ二月初メ以來屢々會合斯業ノ應急及恒久對策ニ付審議ヲ重ネ候處其間從來蠶絲業ニ關スル政府ノ諮問機關タル諸委員ハ限ラレタル時間ニ於テ開カレ殊ニ開會ノ日ニ於テ案ヲ提出セラルル爲メ之ヲ審議スル時間乏シク其答申ハ後日ニ至リ遺憾ノ結果ヲ招來スルコトモ有之斯クテハ折角ノ有用機關ノ機能ヲ充分發揮シ得ザル恨有之候ニ付今後ハ該當事項ニ付豫メ各委員ノ意見ヲ徵セラレ之ヲ參酌シテ原案御作成ノ上御諮問相成候様致度全會一致ノ要望ニ御座候間篤ト御諒承ノ上右御取計被成下度此段具申候

昭和十四年三月二十三日

敬具

會長 名

農林大臣 宛

二、支那蠶絲業對策に付建議

(昭和十三年四月一日評議員會決議)

今次ノ支那事變ハ實ニ肇國以來未曾有ノ事象ニ有之舉國一致堅忍持久以テ帝國ノ名譽ト權益トヲ確保シ東洋永遠ノ平和ヲ圖ラサルヘカラサルハ申迄モ無之候處忠勇無雙ナル皇軍ノ威力ニ依リ連戰連勝既ニ其要地ヲ占據シ北支及中支共ニ親日政權ノ樹立ヲ見ルニ至リタルハ誠ニ慶賀ニ堪ヘサル處ニシテ政府ノ多大ナル御努力ニ對シ感謝措ク能ハサル次第ニ有之候而シテ是等新政權ニ於テハ帝國政府指導ノ下ニ皇軍占據地ノ開發振興ニ邁進スヘク將ニ實行ニ着手セントシツツアルヤニ被存候ニ付

——中略——

本會ニ於テハ曩ニ總會ノ決議ヲ以テ政府ニ對支蠶絲國策樹立方ヲ建議スルト共ニ支那蠶絲業ノ將來ニ對シ特ニ委員會ヲ設置シ慎重ニ攻究シタル結果別紙ノ通り成案ヲ得候次第ニシテ本件ハ各種事情ニ依リ

——中略——

緊急ヲ要スル問題ナリト思料セラレ候ニ就テハ事情篤ト御賢察ノ上急速ニ對支蠶絲國策ヲ樹立セラレ事變ノ目的ヲ貫徹シテ有終ノ美ヲ收ムル様特ニ御高配相仰度評議員會ノ決議ヲ以テ此段及建議候也

昭和十三年三月二十四日

會長 名

內閣總理大臣  
外務大臣  
大藏大臣  
農林大臣  
工商大臣  
宛 各 通



陸軍大臣  
海軍大臣  
拓務大臣  
企業院總裁

支那蠶絲業對策案 (別項掲出)

三、原蠶種管理法實施に關する建議

(第十二回通常總會決議)

——中蠶十四發第一一號提出——

全國蠶種業組合聯合會、全國製絲業組合聯合會及全國養蠶業組合聯合會ヨリ各其ノ總會ノ決議ヲ以テ原蠶種管理法實施ニ關シ別紙ノ通本會ニ建又議ハ陳情アリタルニ付政府ニ於テハ各團體建議ノ趣旨ニ鑑ミ同法實施ニ當リ萬遺憾ナキヲ期セラレ度本會第十二回通常總會ノ決議ニヨリ此段及建議候也

昭和十四年一月二十三日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平賴壽

農林大臣 櫻内幸雄 殿

添付 (一) 全國蠶種業組合聯合會建議書

(二) 全國製絲業組合聯合會同

(三) 「參考」全國養蠶業組合聯合會總會決議

(一) 建議書

本年晚秋蠶ニ於テ國蠶系唯一ノ品種タル日一一號×支一〇七號ガ廣範圍ニ亘リ深刻ナル違作ヲ演ジタルコトハ原蠶種管理法ノ全面的實施ヲ目睫ノ間ニ控ヘ且ツ銃後ノ護リヲ愈々固クシ生産力ヲ維持擴充セザルベカラザル重要ノ秋ニ方リ洵ニ遺憾トスル所ニ御座候

若シ蠶絲業者ノ蒙ムリタル精神的經濟的打撃不安ヲ無視シ敢テ豫定計畫ニ基キ原蠶種管理ノ實施ヲ斷行センカ當業者ノ動搖收マラス去就ニ迷フノ結果斯業ノ伸展ヲ阻止スルノ事態ヲ惹起スル惧レ有之候仍而此ノ際政府ニ於テ原蠶種管理法運用ノ主力タル絲質優良蟲質強健ナル品種ヲ選定配付シ斯業ノ動搖不安ヲ防ギ得ル迄同法ノ全面的實施ヲ始ク延期スル様貴會總會ノ決議ヲ以テ善處相成度本會第八回總會ノ決議相添ヘ此段及建議候也

昭和十三年十二月二十一日

全國蠶種業組合聯合會會長 長野忠次

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平賴壽 殿

原蠶種管理法實施延期ニ關スル件

(全國蠶種業組合聯合會第八回總會決議)

最近國蠶系品種ノ深刻ナル違作並ニ品質ノ著シキ低下ノ實情ニ鑑ミ原蠶種管理法ノ全面的實施ヲ延期シテ之ガ運用ノ主力タル絲質優良蟲質強健ナル品種ヲ配付シテ蠶絲業ノ動搖ヲ防ギ更ニ同法ノ缺陷タル左記事項ヲ補正シ以テ



萬全ヲ期シタル上實施セラレタシ

記

- 一、原蠶種管理ニ要スル地方費負擔ヲ國庫支辨ニ改メ原種ハ之ヲ無償ニテ配付セラレタキコト
- 二、現在ノ指定蠶品種ハ業者ノ希望ニ依リ速カニ之ヲ配付セラレタキコト
- 三、原蠶種管理法第九條ノ許可資格ヲ徹底的ニ擴大簡易化セラレタキコト
- 四、蠶品種ノ急變遷ニ處シ原蠶種ノ製造配付ニ遺憾ナキヲ期セラレタキコト
- 五、新品種ノ配付ニ當リテハ民間方面ニ於テモ大量的ニ交雜試驗飼育ヲ爲サシメ其ノ實用的價值ヲ十分檢討セシメラレタキ事
- 六、學術的試驗研究ヲ爲シ得ルノ途ヲ擴大シ國以外ノ蠶品種改良事業ヲ積極的ニ獎勵助成セラレタキコト
- 七、夏秋蠶品種ノ深刻ナル不作ニ鑑ミ地方的特殊事情ニ適應セル品種ハ之ヲ可成多數國蠶系品種トシテ採用セラレタキコト
- 八、國ニ於テ優良品種ト認メラルルモノアリタル場合ニハ速カニ之ヲ配付スルト共ニ配付品種中春蠶種ニ關シテハ速カニ整理改廢ヲ斷行セラレタキコト

(二)

絲聯十三發第四六八號

昭和十四年一月十四日

全國製絲業組合聯合會會長 今 井 五 介

日本中央蠶絲會長 伯爵 松 平 頼 壽 殿

陳 情 書

原蠶種管理法實施延期ニ關スル件

最近國蠶系品種ノ違作頻出シ業界ノ不安定ニ深刻ナルモノ有之殊ニ支那事變勃發以來種々ノ事情ニ依リ著シク掃立減少ノ傾向アルニ際シ右ノ如キ蠶作ノ不安ハ養蠶業者ニ致命的打撃ヲ與ヘ我養蠶業者ヲ萎縮セシムル而已ナラズ我が製絲業者ニ於テモ原料繭ノ確保ニ非常ナル支障ヲ來シ國家トシテ最モ重要ナル製絲業ノ前途ヲ益々危殆ニ陥レルノ恐アルヲ以テ蟲質、繭質共ニ遺憾ナキ蠶品種ノ撰出セラルル迄原蠶種管理法ノ實施ヲ延期シ尙其間生絲品質ニ對スル要求ノ變化等ニ伴ヒ敏速ニ蠶品種ノ轉換ヲ行ヒ生絲ノ需要ニ即應シ得ル特別ノ方法ニ就キ考究セラルル様政府ニ要望方特別ノ御高配相煩度本會第八回總會ノ決議ニ依リ此段及陳情候也

(三) 原蠶種國家管理法實施並適良蠶品種配布促進ニ關スル決議

全國養蠶業組合聯合會

1 蠶品種選定ニ關スル件

(昭和十三年十一月十日第九回通常總會決議)

現今蠶絲業ノ情勢ニ鑑ミ左記事項ノ實現ヲ國ニ要望ス

一、一層優良強健ナル蠶品種ヲ速カニ選定發表セラレタキコト



- 二、原蠶種國家管理法ノ實施ヲ慎重ニ考慮セラレタキコト
- 三、既ニ國蠶品種ニ決定セラレタル原蠶種ハ希望ニ應ジ急速ニ配布セラレタキコト
- 四、地方的ニ普及シ居ル良品種ハ當分其儘採用セシムルコト
- 五、國蠶品種ノ違蠶ニ對シ補償ノ方策ヲ速カニ實施セラレタキコト

2 原蠶種國家管理法實施ニ關スル件

(昭和十三年十二月十四日第十回臨時總會決議)

政府ハ原蠶種國家管理法ニ對スル輿論ヲ檢討シテ一段ノ考慮ヲ拂ヒ之ガ實施ニ際シ遺憾ナキヲ期セラレル様本會總會ノ決議ヲ以テ建議セラレンコトヲ望ム

3 適良蠶品種配布促進ニ關スル件

(昭和十三年十二月十四日第十回臨時總會決議)

事變下蠶絲業ノ重要性ト現下蠶絲業界ノ情勢ニ鑑ミ養蠶業者ノ要望スル適良蠶品種ノ配布促進ハ蠶作安定ノ爲メニ最モ急務ナリトス、仍テ政府ハ速カニ適切ナル對策ヲ講ズル様本會總會ノ決議ヲ以テ建議セラレンコトヲ望ム

四、生絲取引改善ニ關する事項

(一) 生絲格付方法改正ニ關する建議及處置

1 生絲格付方法改正ニ關スル建議

(昭和十四年一月第十二回通常總會決議)

——中蠶十四發第九號提出——

本會ハ曩ニ評議員會決議ニ依リ生絲格付方法ノ改善ニ關シ調査研究ノ必要ヲ認メ之ヲ既設蠶絲研究會ニ附託シ同會ノ慎重ナル調査研究ヲ經タル結果内外生絲取引市場ノ推移ニ鑑ミ現行生絲格付法中再繰ニ關スル規定改正ニ付成案ヲ得タルニ依リ本事項處置ニ關シ第十一回臨時總會決議ヲ以テ一任セラレタル評議員會ニ於テ更ニ慎重審議ヲ遂ケ之ヲ採擇致シ候ニ付テハ當該改正案ノ通速カニ御實施相成候様御取計被成下度尙横濱、神戸兩取引所ニ於ケル生絲取引ハ同案ヲ基準トシテ實施相成候様特ニ御高配相煩度右評議員會ノ決議ヲ以テ別紙蠶絲研究會調査研究ノ經過並再繰検査格付改正案相添へ此段及建議候也

昭和十四年一月二十一日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 賴壽

農林大臣 櫻内 幸雄 殿

(生絲格付方法改善ニ關スル蠶絲研究會調査研究經過及「再繰検査格付改正案」添付) ——別項掲出——

2 生絲取引に關し實施方依頼

——中蠶十四發第九號發送——

昭和十四年一月二十日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 賴壽

横濱、神戸生絲取引所理事長宛 (各通)



拜啓益々御清祥ノ段奉慶賀候陳者當會ニ於テハ豫テヨリ現行生絲格付規定中再繰ニ關スル規定ニ就キ改正ノ必要ヲ認メ蠶絲研究會ニ附託シ慎重調査研究致居候處成案ヲ得評議員決議ニ依リ別紙ノ通再繰検査格付改正案ヲ決定シ農林大臣宛之ガ急速實施方建議致候間御了承ノ上貴取引所ニ於ケル生絲取引ハ同方法ヲ基準トシテ御實施相成候様可然御取計被下度御依頼旁得貴意候

敬具

(前同添付)

備考

右ニ對シ横濱取引所福田理事長ヨリ當該決定案ヲ基準トシテ取引所業務規定ヲ變更、商工省ノ認可ヲ申請シ、實施ニ關スル農林省ノ法令發布ヲ待チテ施行ノ旨回答アリタリ。

(二) 國用生絲の改善に關する建議

(昭和十三年四月一日評議員會決議)

近時内外機織業ノ變遷ト競争纖維工業ノ躍進トニ伴ヒ國用生絲ノ取引改善及規格統一ノ要求漸ク切ナルモノアルニ鑑ミ本會ニ於テハ常設ノ蠶絲研究會ニ於テ國用生絲取引方法改善ニ關シ昨年五月ヨリ本年三月ニ至ル長キ期間ニ亘リ慎重調査研究ノ結果別紙成案ヲ得候ニ付右趣旨ニ基キ國用生絲ノ取引改善並規格統一ニ關シ速カニ適切ナル御施設相成度尙地方ニ於ケル國用生絲検査機關ノ設備促進ニ對シ政府ヨリ相當補助金ヲ交付セラレ度又該検査方法ニ付御成案ヲ得ラレ候ハバ實施前本會ニ御諮問相成候様致度右本會評議員會ノ決議ヲ以テ此段及建議候也

昭和十三年四月二日

日本中央蠶絲會長

農林大臣宛

國用生絲取引方法改善ニ關スル件

一、取引ノ方法

イ、形態 直接取引、組合取引、仲介取引ヲ併行スルコト

ロ、建値ノ單位 十貫建トスルコト

ハ、荷造ノ單位 十六括又ハ二十括トスルコト

ニ、受渡ノ方法 正量ニ據ルコト

ホ、代金決済ノ方法 現在ノ現金又ハ荷爲替ニテ可ナリ

二、金融關係 保留

三、規格統一ノ方法

イ、検査機關 道府縣ノ検査トスルコトヲ原則トシ場合ニ依リ設備其他ノ條件ヲ具備セル組合ノ自治検査ヲ認メ設置場所ハ生産地トシ現ニ消費地ニアルモノハ其儘トスルコト

強制トスルコト

ロ、検査程度

ハ、検査ノ範圍 製絲業法適用ノ製絲業者ニ止ムルコト、但シ地方ニ依リ其ノ他ヲ加フルコトヲ得

ニ、検査ノ單位 十六括以上トスルコト



ホ、検査方法 正量、織度、類節ノ三項トスルコト

國用生絲検査案

一、正量検査

(一) 検査料絲ノ本數ハ荷口ニ依リ左ノ如ク採取ス

一荷口一梱ノ場合

四本

同 二梱以上四梱以下ノ場合

八本

同 五梱以上九梱以下ノ場合

十二本

同 十梱以上十八梱以下ノ場合

十六本

區毎ノ水分率ノ最多最小ノ差一定限度以上(其ノ限度ハ研究ノ上定ム)ノ場合ハ更ニ検査料絲四本ヲ採取

ス

(二) 正量ノ水分率ハ十一%トシ、検査ノ方法ハ輸出生絲検査方法ニ準ジテ行フ

二、品位検査

(一) 検査料絲ノ本數ハ荷口ニ依リ左ノ如ク採取ス

一荷口一梱以上四梱以下ノ場合

一梱ニ付 五本

同 五梱以上十八梱以下ノ場合

二十五本

(二) 検査項目竝ニ検査方法左ノ如シ

イ、織度検査(織度偏差及平均織度)

絲長四百五十米ノ織度絲ヲ各總ヨリ四本宛採取シ輸出生絲検査方法ニ準ジテ織度偏差及平均織度検査ヲ行フ

ロ、類節検査(大中類及小類)

各總ヨリ二パネル宛採取シ輸出生絲検査方法ニ準ジテ大中類及小類検査ヲ行フ

品位検査ニ就テハ以上ノ外更ニ肉眼検査及再繰検査ヲ左記程度ニ行フ必要ヲ認ム

ハ、肉眼検査

検査請求ノ生絲ガ一荷口ト認ムベキカ否カヲ判定スル程度ノ肉眼検査ヲ行フ

ニ、再繰検査

一定ノ割合ヲ以テ總ノ表、裏及内部ヨリ一分間百四十米ノ平均巻取速度ヲ以テ各總ヲ三十分繰返シ其ノ絲條切斷數ヲ検査シ合計切斷數ヲ以テ再繰成績トス

(三) 目的織度三十四「デニール」以上ノ生絲ニ付テハ品位検査ニ限り任意検査トス

三、附帶事項

(一) 検査請求者ノ希望ニ依リテハ右案ノ品位検査ニ代フルニ輸出生絲ノ品位検査ニ準ズル程度ノ検査ヲナシ得ル途ヲ開クコト

(二) 輸出生絲ノ検査ヲ受ケ其ノ封印付ナル荷口ニ對シテハ之ヲ國用生絲検査ヲ受ケタルモノト看做スコト  
(三) 再検査ヲ行ハザルモノトスルコト



(四) 封印ハ括毎ニ行フコト

外ニ「國用生絲取引改善ニ關スル蠶絲研究會經過概要」添付ノコト  
五、絲價の動向並蠶絲統制に關する事項

(一) 絲價ノ動向再檢討に關し稟請

(蠶絲業作興ニ關スル委員會決議ニ依リ中蠶十四發第一(一)號提出)

拜啓益々御清祥ノ段奉慶賀候 陳者政府ニ於カレテハ常ニ絲價安定施設ニ御配慮被下昭和十四生絲年度ノ賣渡及買上價格ハ去ル一月既ニ決定セラレ居候處御承知ノ通り其ノ後ニ於ケル蠶絲業ノ狀勢ハ相當變化ヲ見ツツ有之本會蠶絲業作興委員會ニ於テ慎重協議ノ結果此際絲價ノ動向ニ付再檢討ノ要可有之候ニ付至急絲價安定委員會御開催ノ上現下並將來ノ蠶絲業ノ爲善處方御高配相仰度全會一致要望致居候條事情御賢察ノ上可然御取計相願度此段及稟請候

敬具

昭和十四年三月二十日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 賴壽

農林大臣 櫻内 幸雄 殿

(二) 生絲消費制限並絹織物價格に關し陳情及具申

1 生絲消費制限ニ關スル陳情

——中蠶十四發第五六號提出——

拜啓益御清康國務御盡瘁被遊候段奉慶賀候 扱戰時下物資調整ノ必要ヨリ近時國產生絲ノ内地消費ヲ制限セラルルヤノ噂有之關係者間ニ於テ脅威ヲ感ジ居候處右ハ全然無根ノ風説ト被存候得共輸出振興ノ急務ヨリ内需ニ對シ或ル程度ノ制限ヲ加フルノ要アリトノ説ヲ爲スモノモ有之一應尤ラシキ理論ノ様ニ相聞エ候得共本會ニ於テ時局對策ニ關シ委員會ヲ設ケ屢會合業者ノ意見ヲ徵シ居り候處生絲輸出ノ狀勢ヨリ察スルニ内需ヲ制限シテ絲價ノ昂騰ヲ抑制セントシテモ輸出量ノ増加ハ期シ難ク却テ安價提供ノ形トナリテ輸出振興ノ目的ニ反シ寧ロ此際ハ多少ノ數量ヲ減ズルモ高價ヲ以テ輸出スル方受取勘定ニ於テ有利ナルノミナラズ内需ノ活躍ヲ呈シタルハ他纖維凋渴ノ結果必然的ニ起レル現象ニシテ而モ生絲ノ價格ハ他纖維及一般物價ニ比シテ高カラザル現狀ニ有之若シ之ヲ抑制スルガ如キコトアラバ繭ノ生産減少ヲ憂慮シ之ガ生産確保ニサナキダニ全力ヲ傾注シツツアル今日繭ノ減産ニ拍車ヲカケ國策ニ反スル結果ヲ招來スルノミナラズ蠶絲業者及織物業者ニ盡大ナル影響ヲ及シ延テ社會問題ヲ惹起スルノ恐アリトノ意見ニ一致生絲消費ニ對スル制限又ハ統制等ニ就テハ絶對反對ノ意志強固ニ候間這般ノ事情篤ト御諒察ノ上是等御施設無之様御配慮被成下度御願申上候

敬具

二 伸繭ノ減産防止、生産確保ニ就テハ農林省トモ打合セツツ最善ノ努力ヲ拂ヒ二、三實行方法ヲモ決定致候間御含ミ被下度申添候

昭和十四年二月十七日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 賴壽

商工大臣 八田 嘉明 殿



2 絹織物價格制限に關する具申

(其ノ一)

——中蠶十四發第一一二號提出——

拜啓益御清榮ノ段奉慶賀候 扱時局下ノ物價政策ニ就テハ常ニ深甚ノ御配慮ヲ蒙リ誠ニ感謝ニ堪ヘザル次第ニ御座候只純國產タル蠶絲及其製品ニ就テハ輸出振興ノ見地ヨリ最モ慎重ヲ要スルノミナラズ蠶絲ノ増産ニ付官民一致全カヲ擧ゲテ邁進致居候折柄ニモ有之ガ價格統制ニシテ其宜シキヲ得ザレバ生産ノ確保サヘ望ミ難ク從テ獲得シ得ベキ外貨ノ減少ヲ招來シ一面纖維汎用ノ勢ヲ助長シ其蒙ル影響甚大ナルモノ有之憂慮ニ不堪次第ニ御座候仍テ絹織物ノ公定價格御決定其他統制上ノ御處置ニ就テハ篤ト事情御賢察ノ上農林省ト緊密ナル連絡ヲ採ラルルト共ニ蠶絲業者ノ意見ヲ徴シ萬遺漏ナカラシムル様御高配相仰度此段及具申候也

昭和十四年三月二十三日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松 平 頼 壽

内閣總理大臣  
商 工 大 臣  
企 畫 院 總 裁

以上宛(各通)

(其ノ二)

——中蠶十四發第一一二號提出——

拜啓益御清榮ノ段奉慶賀候 扱絹織物價格決定ニ就テ内閣總理大臣、商工大臣、企畫院總裁ニ別紙ノ通り意見書提出致置候間御舍ノ上宜敷御高配相願度得貴意申候

昭和十四年三月二十三日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松 平 頼 壽

農 林 大 臣 宛

(前文寫添付)

備考

前二件ニ付テハ岡本副會長 長岡主事ニ於テ屢々商工省へ出頭シ蠶絲事情ヲ縷述シ又ハ日本絹織物工業組合聯合會其他ト連絡ヲ圖リ極力陳情、具申ノ趣旨貫徹ニ努メタリ。

(三) 絹紡原料價格に關する具申

臨時物資調整局より照會の趣を以て昭和十四年二月七日附農林省蠶絲局長より標記事項回示方照會ありたるに依り本會に於ては組織團體の意見を徴し且蠶絲業作興に關する委員會に諮り左記の通生絲内外需要に絶對惡影響を生ぜざる様配意方具申したり。

(中蠶十四收第七一號提出)

昭和十四年二月十四日



農林省蠶絲局長 吉田清二殿

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平賴壽

二月七日付一四蠶局第一六三號ヲ以テ御照會相成候絹紡原料價格ノ儀慎重ニ調査致候處現物ノ性質上明確ニ之ヲ知リ難ク候得共現在ノ市價ヨリ低價ニ定メラルルコトハ製絲業經營上ハ勿論延テ養蠶業ニ影響可致候ニ付右事情御諒察ノ上市價ヲ下ラザル程度ニ考慮セララルル様御配慮被下度

尙生絲ノ公定價格設定又ハ消費制限等ハ輸出向、内地向ヲ問ハズ斯業ニ甚大ナル惡影響ヲ及ス次第ニ付絶對ニ之等施設之ナキ様充分御考慮ノ上宜敷御取計被下度此段回答旁々御依頼申上候  
敬具

追テ絹紡原料價格調査資料同封致置候

副蠶絲ノ價格ニ就テ

生皮苧(鬘斗絲)皮巢ハソノ種類又ハ整理撰別ノ如何ニヨリ品位頗ル區々ナルヲ以テ銘柄別ニソノ價格ヲ表示スルコトハ極メテ困難ナリ強テ價格ヲ表示スルトセバ絹紡綿代ヲ基準トシテ歩留ノ多寡ニ從ヒ算定スベシ

二月現在ニ於ケル副蠶絲取引値段ヨリ推定セル絹紡綿代左ノ如シ

生皮苧綿代 四八〇圓(對十貫匁)  
皮巢同 三八〇圓(同)

現在ノ取引値段以下ニ標準ヲ設定スルコトハ製絲經營ニ重大ナル影響ヲ及スモノナリ

マタ揚繭、絲屑、出殼繭、屑繭ハ現在真綿類、羊毛代用品、皮革代用品等ノ新規用途ニ消費セララルルモノ多量ナル

ガ爲絹紡原料トシテノ價格ヲ決定スルコト困難ナリ

參考

前記生皮苧綿代ヨリ生皮苧値段ヲ計算スル時ハ

歩留五五%ノモノハ二六四圓(對十貫匁)

歩留五〇%ノモノハ二四〇圓(對十貫匁)トナル

マタ皮巢値段ヲ前記皮巢綿代ヨリ計算スル時ハ

歩留三五%ノモノハ一三三圓(對十貫匁)トナル

(四) 亞弗利加近東市場向輸出統制に關する稟申

(中蠶十三收第四六三號提出)

昭和十三年八月十日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平賴壽

農林省蠶絲局長 吉田清二殿

拜啓益々御清祥奉賀候 扱日本雜貨亞弗利加近東輸出組合聯合會ニ於ケル同地市場向輸出統制ニ關シ關係當事者ト聯絡ヲ採リ種々協議致度趣ヲ以テ横濱生絲輸出業組合ヨリ別紙寫ノ通翰旋方申出候ニ付御多用中トハ存候得共右ハ豫テ御配意中ノ事項ニモ有之候得共願意相違候様御盡力相煩度此段及御依頼候也

「添付書類」

横輸一三發第九〇號



昭和十三年七月三十日

橫濱生絲輸出業組合組合長 伊藤武男

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽殿

拜啓陳者日本雜貨亞弗利加近東輸出組合聯合會ノ亞弗利加近東市場向輸出統制ヨリ生絲ヲ除外ノ件ニ付テハ去ル三月十八日附幣信ヲ以テ得貴意候通リニ御座候然ルニ商工省當局ニ於テハ亞弗利加市場ノ特殊性ニ鑑ミ同地向全商品ヲ一丸トシタル輸出統制ノ必要上農林省ノ諒解ヲ得テ生絲ヲモ統制ノ目中ニ含ムト云フ諒解ノ下ニ愈々來ル八月十五日ヨリ亞弗利加市場ニ對スル輸出統制命令ノ發動ヲ見ルコトニ決定致シタル旨一昨日商工省當局ヨリ申渡有之候從ツテ生絲輸出業者ハ前記統制組合ヘ加入セザレバ法規上ハアウトサイダートシテ五倍ノ統制料ヲ徵收セララル懸念有之候處本件ニ關シテハ農林商工御兩省間ニ充分御了解有之生絲ニ關スル統制事項ハ結局便宜上橫濱及神戸生絲輸出業組合ニ委託シテ之ヲ行ハシムル様承知居候間前記橫濱及神戸生絲輸出業組合所屬組合員ハ各地所在ノ阿弗利加近東輸出組合ヘ加入セズ共同組合員同様ノ取扱ヲ受ケ且生絲ノ輸出振興並統制等ノ重要事項ニ關シテハ事前ニ充分協議連絡ヲ保チ得ル機會ヲ與ヘラルル様貴役ヲ通ジ農林省ノ御了解ヲ御取計被下度御願申上候

猶今回發布ノ統制命令ハ阿弗利加市場ニ就テノミニ御座候得共近ク近東市場ニ對シテモ同様ノ統制開始セララル事ト推察致居候ニ付其ノ場合モ今回同様ノ趣旨ニ基キ當組合員ノ不利不便ヲ來サザル様豫メ御高配ノ程御願申上候而シテ統制料ハ初メ〇ハ價格ノ百分ノ一ナリシヲ一率ニ千分ノ一ニ引下ケ其使途ニ付テハ一商品ニ偏セズ同市場ニ對スル共同ノ利益ノ爲メニ使用スルトノ事ニ御座候尙生絲業者ヲ代表スル理事ヲ選出スルコトニ關シテハ當局ハ現

在生絲業者中ニ理事タル者有リト云フ理由ヲ以テ其必要ナカルベシトノ意見ニテ有之候

就而本件實施ノ曉ハ二重統制トナリ不利不便尠カラズト存申候モ既ニ農林省當局ノ御諒解ヲ得テ商工省ニ於テ決定シタル次第ニテ當組合トシテハ之ニ從フ外途ナキ様存申候處何分ノ御指示賜リ度此段御報告旁々得貴意候 尙農林省及商工省ニ對シテハ別紙寫ノ通り申送り候間御了承被下度候

敬 具

六、特殊繭ノ大量増産計畫に關する陳情

(第十一回臨時總會決議ニ依リ陳情)

(一) 特殊繭ノ大量増産計畫ニ關スル陳情

中蠶十三發第二五五號

貴廳ニ於テ羊毛代用纖維原料トシテ特殊繭ノ大量増産計畫ヲ進メラレツツ有之ヤノ趣ニ候處右ハ我蠶絲業現時ノ狀勢ニ鑑ミ國內ニ於テ斯ル大規模増産獎勵ハ斯業ノ基礎ヲ危クスル虞アリトノ見解ニ依リ去ル八月十六日第十一回臨時總會ニ於テ議員提案ニ依リ別紙採擇決議相成候間同決議ノ趣旨御了承ノ上客年十二月第十回通常總會決議ニ依リ生絲及絹纖維ノ利用擴大ト廉價生産方法ノ研究並其ノ成果ニ基キ普及化ヲ圖ラレ度旨建議致置候通同計畫ニ付テハ長期戦下ニ於ケル輸出貿易ノ影響其他各種關聯事情ニ付充分ナル調査研究ヲ緊要ト被存候間篤ト慎重考慮ノ上適當御處置相成候様御配意相煩度總會決議ニ依リ此段及陳情候也

昭和十三年八月二十九日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 頼 壽



農林大臣 伯爵 有馬 頼寧 殿

(添付書類)

建議

(第十一回臨時總會提案、採擇決議)

最近政府ニ於テハ羊毛ニ代用スル特殊繭ノ大增産計畫ヲ進メラレツツアル由ナルガ我ガ蠶絲業界現時ノ情勢ニ鑑ミ  
國內ニ於テスル大規模増産獎勵ハ斯業ノ基礎ヲ危クスルノ虞アリ依ツテ之ガ獎勵方針ニ就キ慎重考慮セララルル様政  
府ニ要望センコトヲ茲ニ建議ス

提出者 小口善重  
賛成者 今井五介

平野吉左衛門  
若林乙吉  
杉山寅雄  
奥村鹿太郎

理由書

最近政府ニ於テハ羊毛ニ代用スベキ特殊繭ノ増産ヲ圖ル爲メ種々ノ獎勵方法ニヨリ極メテ大規模ノ計畫ヲ進メラレ  
ツツアル由、而モ右特殊繭ノ飼育ハ極メテ簡易ニシテ且ツ其ノ成繭ハ製絲用正繭ノ市價ト殆ンド同様ノ値段ヲ以テ

買上ゲラルル計畫ナリト言フ、若シ果シテ然リトセバ一般養蠶者ハ逸早ク斯ノ如キ飼育簡易ニシテ收入ニ於テ大ナ  
ル差違ナキ特殊繭ノ生産ニ轉向シ正繭ノ生産ニ執着スルモノナキニ至ル可ク又假ニ斯カル特殊繭ノ増産ハ正繭ノ生  
産ニ影響ナキ範圍ニ於テ之ヲ行ハシムルトシテモ現在既ニ正繭ガ勞力不足ノ爲メニ著シキ減産ヲ來シツツアル際斯  
カル特殊繭ノ増産ヲ獎勵スルニ於テハ一層ノ勞力不足ヲ來シ之ガ爲メニ正繭ノ品質低下ヲ來ス而已ナラズ其ノ生産  
數量モ亦甚シク制限セララルルニ至ル可キハ洵ニ想像ニ難カラザル所ナリ

今ヤ國家ハ極メテ重大ナル時局ニ當面シ國際收支ニ於テ特ニ生絲ノ輸出ニ俟ツ可キモノ愈々益々大ナルモノアル秋  
却ツテ其ノ輸出ヲ阻碍スルノ惧アル特殊繭増産ノ獎勵ノ如キ極メテ慎重ノ考慮ヲ要スベク固ヨリ羊毛ノ代用品トシ  
テ繭絲ノ新規用途ヲ開拓セントスル趣旨ニ於テハ寧ロ進ンデ賛意ヲ表スルモノナレ共然レバトテ此際特殊繭ノ大規  
模増産ヲ國內ニ於テ計畫スルハ即チ末ヲ伸バサントシテ其ノ本ヲ枯スモノナルガ故ニ國內ニ於テハ暫ク其ノ獎勵ガ  
本邦蠶絲業ノ根底ヲ危クスルコトナキ様試験研究ヲ行フ程度ニ止メ之ガ増産ノ計畫ハ差シ當リ本邦以外ノ適地ニ於  
テセラレンコトヲ切望スルモノナリ

(二) 特殊繭ノ大量増産計畫ニ關スル建議

中蠶十三發第三五五號

全國養蠶業組合聯合會會長ヨリ繭絲類新規用途施設實現方ニ付貴廳宛陳情ノ趣ヲ以テ別紙寫ノ通申出候處右ハ去ル  
八月二十九日附中蠶十三發第二五五號ノ提出ニ係ル首標陳情ト同様可然御取計被成下度此段及稟申候也

昭和十三年九月二十九日



農林大臣宛

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 賴壽

全養蠶發第九九號

昭和十三年九月十日

全國養蠶業組合聯合會會長 男爵 稻田 昌植

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 賴壽 殿

繭絲類新規用途對策ニ關スル件

拜啓本會ニ於テハ現下ノ時局ニ鑑ミ繭絲類ノ新規用途對策ニ關シ本月九日評議員會ヲ開催シテ慎重審議ノ結果別紙陳情書ヲ政府ニ提出シ右施設ノ實現方ヲ要請スルコトニ決議致シ候ニ付テハ貴會ニ於カレテモ實現方何分ノ御高配相煩度評議員會ノ決議ニ依リ此段及陳情候也  
全養蠶發第九六號

繭絲類新規用途施設ノ實現方ニ付陳情

繭絲類ノ輸出振興ト相俟ツテ纖維國策遂行上羊毛等ニ混用スル特殊繭ノ大增産計畫ヲ樹立シテ新規用途ニ充當シ以テ養蠶業ノ更生發展ニ資セシムルコトハ現下ノ時局ニ鑑ミ最モ緊切トスル所ニシテ本會ハ年來其ノ實現ヲ翹望シ來リタル次第ニ候條政府ニ於カレテハ之ガ施設ヲ明年度ヨリ是非實現セラルル様特ニ御高配相仰度本會評議員會ノ決議ニ依リ此段及陳情候也

昭和十三年九月九日

全國養蠶業組合聯合會會長 男爵 稻田 昌植

內閣總理大臣

大藏大臣

農林大臣

商工大臣 宛 各通

陸軍大臣

海軍大臣

企畫院總裁

七、農業保險法施行に關し稟請

中蠶十三發第一六二號

全國養蠶業組合聯合會ハ蠶絲業ノ現狀ニ鑑ミ評議員會決議ニ依リ農業保險法施行ニ關シ政府へ左記事項別途建議ノ趣ヲ以テ實現配意方申出有之候處右ハ斯業上極メテ緊要ノ事項ト被認候間同建議ノ趣御了承可然御取計被成下度此段及稟請候也

昭和十三年六月二日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 賴壽



農林大臣 伯爵 有馬頼寧 殿

記

全國養蠶業組合聯合會建議事項

(昭和十三年五月七日評議員會決議)

一、農業保險法施行ニ關スル件

(一) 政府ハ農業保險法ノ實施ニ當リ蠶桑ニ關スル保險及共濟事業ハ養蠶實行組合ヲシテ行ハシムル様行政方針ヲ採ラレタキコト

(二) 市町村農會ガ養蠶業ニ關スル保險及共濟事業ヲ行フ場合ハ地區内養蠶實行組合ノ同意書ヲ要スル様施行規則ニ規定セラレタキコト

(三) 農業保險組合ニ對シ可及的多額ノ國庫助成金ヲ交付シ保險料ノ低減並支拂保險金ノ増額ヲ圖ラレタキコト

八、災害對策ニ關する事項

(一) 凍霜其他被害救援方ニ付稟請

——中蠶十三發第一五六號提出——

今春長野縣下ニ於ケル凍霜並降雹ノ被害甚大ニシテ之ニ加フルニ昨冬來ノ雪害、鼠害等夥シク之等慘禍ノ爲銑後ニ於ケル養蠶農家ハ異常ナル苦境ニ陥リ憂慮ニ堪ヘザルモノ有之趣ヲ以テ長野縣養蠶業組合聯合會長ヨリ別紙寫ノ通之ガ救濟配意方ニ付陳情有之候間事情御諒察ノ上窮境打開方策實現相成候様可然御高配被成下度此段及稟請候也

昭和十三年五月三十日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽

農林大臣 宛 (各通)

大藏大臣

陳情書

五月十日ノ凍霜並ニ五月十二日ノ降雹ニヨル本縣桑園ノ被害甚大ニシテ其ノ被害面積壹萬百貳拾貳町桑葉減收額貳百萬貳千七百貳拾六貫之レガ見積價格參拾萬五百五拾九圓之レニヨル產繭減收額拾參萬參千五百拾四貫此ノ見積價格六拾六萬七千五百七拾圓更ニ前年初冬ヨリノ積雪期間ニ於ケル雪害鼠害ヲ加フルトキハ收繭減ニヨル見積金額實ニ參百四拾萬圓餘ノ巨額ニ達ス斯ク相續ク慘禍ハ養蠶ヲ主トスル本縣農家ヲシテ極度ノ疲弊困憊ニ陥ラシメ一面物價騰貴ニヨリ益々其ノ生活苦ニ重壓ヲ加フ然モ戰時體制下ニ置カレ勞力畜力ノ不足ニヨル生産減ヲ思フトキ事態頗ル憂慮ニ堪ヘザルモノアリ

今ヤ國民精神總動員ノ時ニ當リ自力更生ニヨリ時難克服ニ苦闘シツアルモ窮迫セル現状ハ之レヲ許サス故ニ本會ハ役員會ノ決議ニヨリ此處ニ最モ急ヲ要スル桑園ノ改植夏秋蠶種桑園肥料桑柎枯豫防藥野鼠驅除藥品等ノ共同購入ニ對シ國ノ助成ト相待ツテ之ヲ實行セシメ難局打開ニカメントス希クバ慘禍ノ苦境ヲ御賢察被下特別ノ御配慮ヲ仰度此段陳情候也

昭和十三年五月二十三日



長野縣養蠶業組合聯合會長 福島喜男

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽殿

(二) 出水其他ニ因ル被害桑園復舊施設助成ニ關シ稟申

——中蠶十三發第二三七號發遣——

今夏豪雨ニ際シ長野縣地方桑園ハ激甚ナル水害ヲ被リ、加フルニ其後淺間山爆發ニ依ル降灰ノ爲甚大ノ被害ヲ受ケ深刻ナル打撃ニ依リ疲弊困憊セル當業者ハ自力ノミヲ以テシテハ到底其ノ復舊ヲ圖ルコト困難ノ實狀ニ有之趣ヲ以テ銑後産業ノ擁護竝窮狀打開ノ爲同縣養蠶業組合聯合會長ヨリ別紙寫ノ通善後策助成配意方陳情相成候ニ付テハ事情御諒察ノ上申出ノ趣旨實現相成候様可然御取計相煩度此段及稟申候也

昭和十三年八月十日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽

農林大臣 宛 (各通)

大藏大臣

〔添付書類〕 1

陳情書

七月四、五日ノ兩日ヲ中心トスル縣下桑園ノ水害ハ別表ノ通りニ有之而カモ連年農蠶村ノ苦境ニ加フルニ災害ニ次クニ災害ヲ以テシ更ニ今次事變ニ依ル勞力ノ缺乏ニ今又此重壓ニ遭遇セルノ實情ニ鑑ミ本會ハ之ガ善後策ヲ講ズル

ノ緊急ナルヲ認メ本月十三日役員會ヲ開催シ慎重協議ヲ遂ゲタル結果被害桑園ニ對シテハ應急ノ更生策ヲ講ゼシメ時艱克服ニ苦闘致シ居リ候モ前述ノ如ク疲弊困憊其極ニ達セル被害養蠶農家ノ窮狀ニアリテハ到底自力ノミニ依リ之ガ更生ヲ全カラシムルコトハ極メテ困難ノコトト被認候就テハ速カニ左記施設ニ對シ相當ノ御助成ヲ仰キ銳意經濟ノ回復ト民心ノ安定ヲ得セシメ以テ現下非常時局ニ對處セシメ度候間實情御賢察ノ上至急之ガ實現ニ關シ特別ノ御配慮相仰度前記役員會ノ決議ニ依リ此段及陳情候也

昭和十三年七月二十日

長野縣養蠶業組合聯合會長 福島喜男

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽殿

記

- 一、被害桑園改植費助成
- 一、夏秋蠶種購入費助成
- 一、桑樹胴枯病消毒藥購入費助成
- 一、秋蒔用綠肥種子購入費助成
- 一、被害郡養蠶業組合活動資金助成

〔添付書類〕 2

陳情書



七月上旬ヲ中心トスル縣下桑園ノ水害ニ關シテハ七月二十日付役員會ノ決議ヲ以テ救濟方陳情致シ置候處其後調査ノ結果桑園被害面積一、八三九町六反之ガ損害見積額九十三萬八百二十三圓又蠶室ノ流失倒壞蠶具ノ流失損害五萬二千四百四十五圓ヲ合スルトキハ九十八萬三千二百六十七圓ニ達シ尙此ノ外桑園畑地トシテノ損害見積額壹百十二萬三千四百二十七圓計二百十萬六千六百九十四圓ノ巨額ニ對シ其被害意外ニ甚大ナルノミナラズ七月中下旬ニ亘ル淺間山爆發ニ依ル降灰ノ桑園ニ與ヘタル被害ハ共ニ深刻ナルモノアルニ鑑ミ本會ハ七月三十日更ニ郡市養蠶業組合長會ヲ開催シ之ガ對策ニ關シ慎重協議ヲ遂ゲ候處被害激甚地ニ對シテハ速カニ左記施設ヲ起サシメ以テ複舊ヲ圖ルコトニ協議一決致シ候モ何分疲弊困憊其極ニ達セル被害養蠶農家ノ窮狀ヲ以テシテハ到底自力ノミニ依リ之ガ事業ヲ遂行スルコトハ頗ル困難ナル實情ニ有之候就テハ速カニ相當ノ御助成ヲ仰ギ銳意經濟ノ復舊ト民心ノ安定トヲ得セシメ以テ現下非常時局ニ對處セシメ度候間實情御賢察被下至急特別ノ御配慮相賜度度此段及陳情候也

昭和十三年八月三日

長野縣養蠶業組合聯合會長 福島喜男

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽殿

(別紙省略)

(三) 養蠶地方ニ於ケル葉煙草栽培區制限ニ關スル稟請

——中蠶十三發第一六〇號發信——

東海地方ニ於テ葉煙草増産御獎勵ノ結果其栽培面積ハ著シク擴大ノ趨勢ヲ示シ養蠶主要地トシテノ同地方業者ハ其

ノ隣接桑園ノ被害多大ナルヲ憂慮シ兩栽培者間ニ紛擾ヲ惹起シ時局下ニ於ケル農村民ノ相剋摩擦ヲ招致スルガ如キ處有之趣ヲ以テ愛知縣養蠶業組合聯合會及東海蠶種業組合聯盟會ニ於テ各大會ヲ開キ左記ノ通煙草栽培ハ養蠶上支障無之區劃ニ限定御許可相成度旨決議ノ上夫々配意方陳情有之候ニ付右事情御諒察可然御取計被成下度此段及稟請候也

昭和十三年五月三十一日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽

農林大臣

大藏大臣 宛 (各別)

專賣局長官

記

(1) 愛知縣養蠶業組合聯合會會長陳情要旨

養蠶地帯ノ煙草栽培ハ絕對ニ之ヲ避ケ養蠶ニ支障ナキ地帯ニ限り之ガ栽培ヲ許可セラレ度

決議

(愛知縣郡市養蠶業組合長會決議)

葉煙草栽培ガ養蠶業ニ極メテ大ナル惡影響アルハ周知ノ事實ニシテ今更論ヲ俟タズ、最近本縣ニ於テ新ニ煙草ノ栽培ヲ見ントスルハ本縣主要産業タル蠶絲業ヲ危殆ニ導ク虞アリ、依テ本會ハ左記ニ依リ善處セントス



- 一、養蠶者ハ新ニ煙草ノ栽培ヲ爲サザルコト
- 二、煙草ノ栽培ヲ爲サントスル場合、其ノ栽培地ハ桑園ヨリ五十間以上ヲ隔ツルコト
- 三、煙草ノ乾燥及調製ノ作業ハ蠶室及桑園ヨリ相當ノ距離ヲ有シ被害ナキ場所ニアラザレバ之ヲ爲サザルコト

(2) 東海六縣蠶種業組合聯盟會代表(愛知縣蠶種業組合長)陳情要旨

養蠶主要地方ニ於ケル葉煙草ノ栽培ハ一般養蠶及蠶絲業ノ根幹ヲ爲ス蠶種製造用原蠶飼育ニ重大ナル影響ヲ及ボスニ依リ葉煙草ノ栽培ハ養蠶ニ支障ナキ地方ノミトシ農村ニ於ケル相剋摩擦ナカラシムル様御配慮相煩度(東海六縣蠶種業組合聯盟會決議)

備考

以上ノ外昭和十三年六月六日長野縣蠶絲業各組會長連名ヲ以テ同様陳情アリタリ

〔顯末〕

右稟請ニ對シ專賣局長官ヨリ左記ノ通申越アリタルニ依リ同趣旨ヲ當該陳情者及其他關係者ニ移牒シ其善處方ヲ指示シタリ

乙第一、〇九〇號

昭和十三年六月七日

專賣局長官 荒井 誠一郎

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 頼壽 殿

養蠶地方ニ於ケル煙草ノ耕作ニ關スル件

東海地方ニ於ケル煙草耕作地擴張ニ方リ桑園ノ被害防止方ニ付御申入ノ趣了承本件ニ關シテハ從來當局ニ於テモ充分注意ヲ拂ヒツツアル所ニシテ今後煙草耕作地ノ擴張ニ際シテモ勿論此ノ點ニ留意シ煙草耕作地ト桑園トノ間ニハ適當ノ距離ヲ存セシムル等機宜ノ措置ヲ講ゼシムベク候間御了知相成度尙養蠶業者ニ於テモ亦克ク煙草耕作者ト協調シ相互ニ被害防止ニ注意スルコト肝要ナリト思考候ニ就テハ此際格別ノ御高配賜度右及回答候

九、生繭輸送用ガソリン配給方に付稟請

——中蠶十三發第一五五號發信——

本月下旬ヨリ各地ニ於テ生繭ノ出廻ヲ見ルニ至リ之ガ急速所置ノ爲同生産繭ハ「トラツク」其他ニ依リ乾繭所又ハ製絲所其他へ運搬ヲ要シ候處現下ガソリン配給ノ制限ニ依リ乾繭輸送ニ支障ヲ生スルガ如キコト相生ジ候テハ輸出品タル生絲ノ品質ヲ劣化シ海外貿易ニ影響スル所不尠モノ可有之ニ付同輸送用ガソリンニ限り特別配給方ニ關シ關係者ヨリ別途夫々陳情相成居候次第ニ有之候ニ就テハ事情御諒察ノ上右圓滑輸送相叶候様格別ノ御配意相煩度此段及稟請候也

昭和十三年五月二十三日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平 頼壽

商工大臣

大藏大臣 宛(各通)

農林大臣



#### 四 養蠶對策に關する施設

##### 一、時局下に於ける養蠶對策に關する事項

昭和十三年七月二十五日時局對策委員會に於て時局下に於ける養蠶對策に付審議の結果繭減産阻止に關し業者に對し周知徹底せしむるの必要を認め次の印刷物(ポスター及ビラ各五萬二千枚)を作製し各郡市養蠶業組合へ直接又は府縣養蠶業組合聯合會を通じて送付の上所屬養蠶實行組合へ配付を煩し其他關係方面へ直接頒布したり。

- (一) ポスター(菊半裁石版二色刷) 五二、〇〇〇枚

|               |             |
|---------------|-------------|
| 長期戦下の養蠶報國     |             |
| 一葉の桑も         |             |
| 残さず繭に!        |             |
| 日本中央蠶絲會       | 全國製絲業組合聯合會  |
| 全國養蠶業組合聯合會    | 横濱神戸生糸問屋業組合 |
| 全國蠶種業組合聯合會    | 横濱神戸生糸輸出業組合 |
| 全國産業組合製絲組合聯合會 |             |

(二) ビラ(美濃判二色刷) 五二、〇〇〇枚

##### 長期戦下に於ける養蠶家の覺悟

(昭和十三年七月二十五日時局對策委員會決議)

支那事變一週年に際し長くも 勅語を賜ひ國民の嚮ふところを示させ給ふ、誠に恐懼感激に堪へぬ次第である。吾々國民は拳々服膺全力を擧げて聖戰の目的を貫徹し、以て奉公の誠を盡さねばなりませぬ。

蠶絲は純國産であるから、これが輸出は國際收支上悉く受取勘定になるのであつて、實質的には本邦輸出品の首位である。又輸入纖維の制限に備へ得る唯一の國産纖維たるのみならず、軍需品として又各種の代用品として多方面の用途に利用されて居り、時局下の國産として實に重要な役割を荷つて居るのであるから、蠶絲業者の責務は一層加重されて來た譯である。仍て當業者及關係者は協心戮力生産の確保に努め、一俵でも多く海外に輸出すると共に、對内利用増進を圖つて輸入品の防遏に處せねばならぬ。

然るに我蠶絲業の現状を見るに、不幸にして春蠶繭は一割五分七厘の減産を見、秋蠶繭亦減額を豫想せらるる状態にある。素より勞力の不足其他事變下の影響に餘儀なくされた止むを得ざる事情もあるが、國家重要資源の原料たる繭の減産は直に銃後農村の經濟に將又國際收支の關係に甚大なる悪影響を及ぼし戰爭目的の遂行に障害を來するのであるから、邦家のため深憂に堪へない。

我養蠶業者は多年の試練を経て居る。尊き身命を君國に捧げつつ戰場に働らく同胞に思を致し、協力の力に依つて



最高能率の發揚に努むるに於ては、減産の阻止敢て難事にあらずと信ずる。庶幾くば肇國以來未曾有の國難に際會し特に蠶絲業の重要性に鑑み

一葉の桑も残さず繭となし

以て蠶絲報國の實を擧げられんことを切望して止まぬのであります。

昭和十三年七月

- 日本中央蠶絲會
- 全國養蠶業組合聯合會
- 全國蠶種業組合聯合會
- 全國產業組合製絲組合聯合會
- 全國製絲業組合聯合會
- 横濱、神戸生絲問屋業組合
- 横濱、神戸生絲輸出業組合

拜啓益々御清榮奉賀候扱支那事變ノ長期戰爭ヲ覺悟セサルヘカラサル現下ノ重大時局ニ於テ聖戰ノ目的遂行上純國産タル蠶繭ノ生産ヲ確保スルハ絶對ニ必要ノコトニ有之事變勃發以來官民協力シテ極力斯業ノ減縮ヲ嚴戒致居候處不幸ニモ本年ハ春蠶繭ノ著減ヲ見秋蠶繭亦減産ヲ豫想セラルルハ爲邦家深憂ニ堪ヘサル次第ニ付過日本會時局對策委員會ヲ開催篤ト協議ノ結果長期戰下ニ於ケル養蠶家ノ覺悟ヲ文書及ボスターニ依リ宣傳致候事ニ決定別途御送附

致候ニ就テハ何卒右趣旨ノ周知徹底方御盡力相煩度御依頼申上候

敬具

追テ甚御手数ニ候ヘ共貴組合所屬養蠶實行組合ヘ洩レナク配付方御盡力被下度御依頼申上候

昭和十三年七月三十一日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽

各郡養蠶業組合長宛 (各通)

二、産繭確保獎勵施設實施方委囑其他

蠶絲業作興に關する委員會決議に依り時局應急對策の一助として經費十萬圓(内金五萬圓本會提供、五萬圓帝國蠶絲組合へ醸出要請)を以て本年繭の生産確保獎勵實施を大日本蠶絲會へ一任のことに決定に付左記の通大日本蠶絲會に對し右實施方を委囑し帝國蠶絲組合へ經費醸出方を要請したり

(一)

中蠶十四發第五〇號

昭和十四年二月十六日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松平頼壽

大日本蠶絲會會頭 伯爵 松平頼壽 殿

拜啓益々御清祥ノ段奉賀候陳者現下ノ時局並蠶絲業ノ狀勢ニ鑑ミ繭ノ生産ヲ確保スルノ要極メテ急ナルモノ有之本會ニ於テハ蠶絲業作興ニ關スル委員會ヲ設置シ應急並根本對策ニ付攻究致居候處本年ノ蠶繭生産確保ニ對シ別紙ノ



通表彰方法ヲ講ズルコトニ相成該施設ノ執行方ヲ大日本蠶絲會ニ一任スルコトニ意見ノ一致ヲ見其ノ經費ハ金拾萬圓トシ本會及帝國蠶絲組合ヨリ提供ノ豫定ニ候間御含ミノ上右施設執行方御取計被下度此段御依頼申上候 敬 具  
追テ右實施ニ付テハ別紙產繭確保獎勵施設要綱ニ基キ事業計畫、經費豫算及實施方法ヲ樹テ本會及帝國蠶絲組合宛經費御要求相成候様致度申添候

(二)

中蠶十四發第五〇號

昭和十四年二月十六日

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松 平 頼 壽

帝國蠶絲組合理事長 今 井 五 介 殿

拜啓益々御清康奉賀候陳者現下ノ時局竝蠶絲業ノ狀勢ニ鑑ミ繭ノ生産ヲ確保スルノ要極メテ急ナルモノ有之本會ニ於テハ蠶絲業作興ニ關スル委員會ヲ設置シ應急竝根本對策ニ付攻究居候處本年ノ蠶繭生産ノ確保ニ對シ別紙ノ通表彰ノ方法ヲ講スルコトニ相成該施設ノ施行方ヲ大日本蠶絲會ニ一任スルコトニ意見一致ヲ見候處經費ハ金拾萬圓程度ヲ要シ候モ同會ニハ資金ノ準備無之ニ付本會ヨリ金五萬圓程度ヲ醸出ノ豫定ニ候間貴組合ニ於テモ事情御諒承ノ上金五萬圓御醸出右實現候様御配意被成下度此段御依頼旁々得貴意候

敬 具

〔經過〕

產繭增加獎勵施設實施方委囑に對シ大日本蠶絲會は所定手續を経て當該經費豫算及實施要綱を決定し、之が受諾の

旨左記の通回答ありたり。

產繭增加獎勵施設實施受諾ニ關スル件

——本庶第十二號——

二月十六日附中蠶十四發第五〇號ヲ以テ御依頼相成り候昭和十四年度產繭增加獎勵施設執行ノ件了承別紙ニ依リ實施ノコトニ決定致候間御了知ノ上左記經費交付相成度經費豫算竝產繭增加獎勵實施要綱相添此段經費ノ請求ヲ併セテ及受諾候也

昭和十四年三月十八日

大日本蠶絲會會頭 伯爵 松 平 頼 壽

日本中央蠶絲會會長宛

記

一金拾萬圓也

昭和十四年度產繭增加獎勵施設經費

〔註〕 金拾萬圓ノ内金五萬圓ハ別途帝國蠶絲組合へ醸出方本會及大日本蠶絲會ヨリ要請シタリ。

(1) 昭和十四年度產繭增加獎勵施設經費豫算

大日本蠶絲會

收 入



| 費目    | (十四年度迄)    | 十五年(自一月)至三月(自一月) | 十五年    | 計          | 備考         |
|-------|------------|------------------|--------|------------|------------|
| 一、寄附金 | 100,000.00 | —                | —      | 100,000.00 | 日本中央蠶絲會寄附金 |
| 二、雜收入 | 200.00     | —                | 200.00 | 350.00     | 預金利子其他     |
| 計     | 100,100.00 | —                | 200.00 | 100,300.00 |            |

支出

| 費目        | (十四年度迄) | 十五年(自一月)至三月(自一月) | 十五年 | 計        | 備考       |
|-----------|---------|------------------|-----|----------|----------|
| 一、事務費     | 500.00  | —                | —   | 500.00   |          |
| (一) 給與費   | 100.00  | —                | —   | 100.00   |          |
| 1 報酬手當及雜給 | 100.00  | —                | —   | 100.00   |          |
| 2 旅費      | —       | 100.00           | —   | 100.00   |          |
| (二) 需要費   | 100.00  | —                | —   | 100.00   |          |
| 1 消耗品費    | 100.00  | —                | —   | 100.00   | 筆、墨、紙、其他 |
| 計         | 500.00  | 100.00           | —   | 1,000.00 |          |

| 費目        | (十四年度迄)  | 十五年(自一月)至三月(自一月) | 十五年    | 計        | 備考                      |
|-----------|----------|------------------|--------|----------|-------------------------|
| 2 通信運搬費   | 100.00   | —                | —      | 100.00   | 郵便、電報、電話及荷造、運搬料         |
| 3 印刷費     | 500.00   | —                | 100.00 | 400.00   | 表彰規程及表彰者名簿其他            |
| 4 雜費      | 500.00   | —                | —      | 500.00   |                         |
| 二、會議費     | 3,000.00 | —                | —      | 3,000.00 |                         |
| (一) 評議員會費 | 3,000.00 | —                | —      | 3,000.00 | 評議員會二回分                 |
| 1 旅費      | 3,000.00 | —                | —      | 3,000.00 |                         |
| 2 雜費      | —        | —                | —      | —        |                         |
| 三、事業費     | 1,000.00 | —                | —      | 1,000.00 |                         |
| (一) 表彰費   | 1,000.00 | —                | —      | 1,000.00 | 表彰三百七十組合分一組合平均三百四十圓     |
| 1 調查費     | 1,000.00 | —                | —      | 1,000.00 | 表彰三千筒一ケ一圓               |
| 2 賞金      | —        | —                | —      | —        | 賞品三千筒一ケ一圓               |
| 3 賞品      | —        | —                | —      | —        | 賞品三千三百枚一枚平均三十錢、(九九〇圓)案內 |
| 4 印刷費     | —        | —                | —      | —        | 狀其他三百拾圓                 |
| 計         | 1,100.00 | —                | —      | 1,100.00 |                         |



|           |       |       |                         |
|-----------|-------|-------|-------------------------|
| 計         | 四、豫備金 | 6 雜費  | 5 式場費                   |
| 100,10000 | 11000 | 10000 | 10000                   |
| 5,60000   | 11000 | 10000 | 10000                   |
| 2,50000   | 25000 | 10000 | 10000                   |
| 100,30000 | 40000 | 10000 | 20000                   |
|           |       |       | 會場設備費 百圓<br>接待費五百圓 其他百圓 |

說明

本施設ハ時局下竝蠶絲業ノ現状ニ鑑ミ昭和十四年次ニ於テ昭和十二年次産繭標準數量ヲ確保セント期シ之ガ獎勵ヲ爲シ、一面減産ノ防止ニ資シ進ンデ敍上産繭ヲ確保シ、生絲輸出ノ振興ト併セテ内地需要ニ對應セントスルモノニシテ日本中央蠶絲會及帝國蠶絲組合ノ寄附金ヲ財源トシテ之ヲ實施セントスルモノナリ

(2) 産繭増加獎勵施設實施要綱

大日本蠶絲會

- 一、昭和十四年度ニ於テ産繭ノ増加ヲ獎勵スルタメ養蠶業組合区域内ニ於テ一定産繭標準數量ヲ確保増進シタルトキハ其組合ヲ表彰シ豫算ノ範圍内(十萬圓限度)ニ於テ賞金ヲ授與スルモノトス
- 二、表彰シタル養蠶業組合ノ職員ニシテ特ニ産繭ノ増加ニ功勞アリト認めタルモノハ之ヲ表彰シ賞狀及賞牌ヲ授與ス

三、第一項ノ産繭數量ハ昭和十二年度ヲ標準トシ増産シタル者ニ對シ左ノ標準ニ依リ賞金ヲ授與スルモノトス

標準トスベキ産繭數量ハ農林統計ニ據ルモノトス

- 甲、産繭數量 百萬貫以上ノ組合 一組合 金千圓以内
- 乙、同 五十萬貫以上ノ組合 同 金七百圓以内
- 丙、同 十萬貫以上ノ組合 同 金五百圓以内
- 丁、同 一萬貫以上ノ組合 同 金參百圓以内
- 戊、同 一萬貫未滿千貫以上ノ組合 同 金壹百圓以内

四、表彰スベキ養蠶業組合ハ會頭之ヲ裁定シ總裁ノ裁可ヲ仰クモノトス養蠶業組合職員ノ表彰ハ會頭之ヲ裁定スルモノトス

五、養蠶業組合ノ表彰ハ總裁名ヲ以テシ養蠶業組合職員ノ表彰ハ會頭名ヲ以テス

六、支會長ハ其区域内被表彰者ノ選定ニ付管下養蠶業組合聯合會ト聯絡協力シ左記様式ニヨリ昭和十五年一月二十日迄ニ會頭ニ申告スルモノトス但シ沖繩縣ニアリテハ知事ヨリ其手續ヲ爲スモノトス

七、表彰シタル養蠶業組合ノ名稱、所在又ハ職員ノ氏名、勤務場所ハ本會備付ノ簿冊ニ登録シ且之ヲ公表ス

八、表彰ハ昭和十五年春季ニ於テ之ヲ行フモノトス

産繭増加成績調書様式(省略)



## 五 支那蠶絲業對策に關する事項

### 一、中支蠶絲組合の設立並事業支援に關する事項

支那蠶絲業の將來は本邦の斯業に重大なる影響を及ぼすに依り時局對策委員會及評議員會に於て慎重審議を重ね皇軍占據地區内に於ける新政權の各種政策實施以前に於て對支國策を樹立の上兩國蠶絲業の調整を圖り本邦斯業の將來に支障なからしむる様配意方に付「支那蠶絲業對策案」を共し内閣總理、外務、大藏、農林、商工、陸海軍、拓務各大臣及企畫院總裁宛各建議（前掲出）を爲し次で昭和十三年四月一日及同四日の二回に亘り本會及組織團體代表者並農林省當局の官民合同懇談會を開き慎重討議を重ね同事項に對しては本邦全蠶絲關係業者一丸となり、之に當ることとし差當り應急策として製絲問屋輸出各業中の有志者を以て適當機關を組織すること等の申合せを爲し、其後屢々當該關係業者會合の上審議を重ね農林省當局及現地機關と打合せ、又は其承認を求め規約及關係規定を決議し役員の選任を行ひ、茲に中支蠶絲組合の成立を見たり、而して中支蠶絲組合の運営に付ては現地機關に對し其設立の趣旨及組織内容並本邦蠶絲業の實狀と全蠶絲業者の意嚮等を具に説明し、其諒解を求むると共に今後の監督及援護要請の爲岡本本會副會長は（農林省より同地蠶絲業狀況調査の囑託を受け）該組合組員（代表者）と同行同年四月二十八日出發中支及北支に出張し現地に於ける諸機關と折衝緊密なる連絡を圖り如上の任務を果し且各地の製絲工場等を視察し五月末日歸京したり。爾來同組合は現地機關及農林省當局の援助の下に著々豫定業務の遂行に邁進しつつあり、本會亦常に緊密なる連絡を採り其の目的達成に關する各種事項に對し最善の支援を爲したり、經過次の如し。

### (一) 中支蠶絲組合設立の經過

支那蠶絲業の將來は本邦の斯業に重大なる影響を及ぼすを以て本會は昨年十二月通常總會の決議を以て設置したる時局對策委員會に之が攻究方を附託したり、而して同委員會は先づ現地の實狀を視察調査せられたる農林技師田中直義氏の視察談を聴取し質問應答を重ねたる後二回會合長時間に亘り慎重審議を遂げたる結果恒久策の成案を得たるを以て四月一日之を評議員會に諮り全會一致委員會案を承認し其決議に依り内閣總理大臣を始め外務、陸海軍、農林商工、拓務各大臣及企畫院總裁に對し對支蠶絲國策の樹立に關し建議を爲し一面機會ある毎に本會幹部より政府當路に陳情を爲したり。

而して對支蠶絲業根本對策の實現に付ては相當の時日を要し急速實行の運に至ることの困難なる事情あり然るに中支那には現に相當數量の殘繭あり、又殘存製絲工場も相當數あると共に一面には間もなく新繭の生産を見るべく是等産繭の處理に對し急速に適應の處置を講ずることは宣撫工作上必要なるのみならず、第三國資本の誘致を防止する上に於ても極めて緊要のことに屬するを以て恒久策の實現し得るに至る迄暫定的に特殊機關を設けて、中支に於ける蠶絲業の調整を圖ることは焦眉の急務にして差置難き事態に直面したるを痛感しつゝある際、政府に於ても現地機關と連絡の上之が措置に對し急速實施方を要望せらるゝ處ありたり。

仍て本會は四月一日及同四日の二回組織團體正副會長の參集を求め、農林當局と共に官民の懇談會を催し充分意見の交換を重ね審議研究したる結果次の趣旨に付申合せを爲したり。

### 1 日支蠶絲業ノ協調ニ對シテハ本邦全蠶絲關係業者ガ一丸トナリテ之ニ當ルコト



- 2 現地ノ状態ニ依リ急速ニ會社ヲ組織スルコト困難ナルヲ以テ差當リ組合ヲ組織シテ之ニ當ラシムルコト
- 3 出資其他ノ關係上、組合ハ差當リ製絲業者、問屋業者、輸出業者中ノ有志者ヲ以テ組織シ他ノ業者ハ恒久對策實施ノ際適宜其組織ニ加ハスルコト

- 4 日本中央蠶絲會ハ農林當局ト打合ノ上組合規約其他必要事項ニ付具體案ヲ作製スルコト

右申合に基き四月七日關係業者會合の上蠶絲局と打合の上立案に係る對支蠶絲組合と規約案に付協議を重ね成案を得て該組合は極めて圓滿裡に成立したり、但し其規約及事業運営等に就ては總て現地機關の承認を経るにあらざれば確定し得ざる事情にあるを以て四月八日渡支の田中農林技師に右決定案の携行を乞ひ現地機關に説明の上承認を求むることとせり。

斯くて田中技師より現地機關の意嚮を傳達せられたるを以て四月二十一日組合員全部會同協議の上之を是認し役員の選任を行ひ、茲に中支蠶絲組合の設立確定を見るに至れり。茲に於て現地機關に對し同組合の性質組織内容の状態及本邦蠶絲業の實狀と全關係業者の意向を具さに説明すると共に、今後の監督と援助とを乞ふ爲め岡本會副會長は農林省の囑託を受け、組合員の代表者と同行四月二十八日出發中支及北支に出張し、現地に於ける諸機關と緊密なる交渉連絡を遂げ、且各地の製絲工場を視察し五月末日歸朝せり。

而して同組合の事業は規約に基き片倉、郡是、鐘紡の三社に委任して經營することとなりたるが、三社は事業實施の圓滑を期する爲一團となり、同組合の代行機關として一切の業務を施行し其成績見るべきものありしが、素より同組合の使命は日支蠶絲業調整目的遂行上の暫定機關にして組合設立の當初より可及的速に之を恒久的機關たらしむべ

く意圖し、中支振興會社の子會社としての蠶絲會社設立の希望を有し其時期方法等に付常に考慮中なりしが、現地の状態特に第三國資本の侵入關係其他の事情は現状の儘推移するを許さざる實狀なるを以て此際急速に日支合辦に依り維新政府の普通法人として會社を設立するの必要に迫られ、中支振興會社との關係は他日に譲らざるべからざる状態を呈し、現地機關の慎重なる考慮と切實なる態度とに基き八月十日上海に於て華中蠶絲株式會社の創立總會を開催し、たき趣現地の申出ありたるに依り事情不得已ものと認め、八月二日同組合員及養蠶、蠶種、組合製絲三團體の代表者を會同し現地より歸還せる八木農林技師より現地の状況に付詳細の説明を聴取し一同慎重に審議したる結果同會社資本金八百萬圓の内本邦側引受六百萬圓半額拂込、支那側二百萬圓現物出資(全額拂込)のことを承認し本邦側の拂込は急迫せる事態なりしを以て不取敢中支蠶絲組合に於て引受け、今後蠶絲業者一般に株式引受を勧誘して肩替をなし來年三月迄に同組合を解散することに協議一決し諸般の準備を整へ既定の如く八月十日同會社は無事成立を見たり。

中支蠶絲組合設立後の経過は左記今井理事長より本會々長宛報告により承知せられたし。

尙同組合設立に至る経過並設立後の状況に就ては同組合の事績如何が、本邦蠶絲業の將來に頗る重大なる影響を及すものなるが故に蠶絲業者をして充分の關心を有せしむる爲、之が周知を圖るの必要を認むと雖も前述の如く發表の結果が却て測るべからざる不利を招來する虞あると現地よりも屢々嚴秘主義堅持の要求ありたる爲、不本意ながら秘密を守り來りたるが、今後に於ても暫くは此態度を持續することを餘義なくせらるべし此點諒承を乞ふ。

更に同組合員は前述の如く僅少なる製絲、問屋、輸出三業者の有志者に過ぎざるを以て或は其間誤解を受くることなきを保せざるも緊急の場合資金關係等より右少數者の奮起を煩すより外に良策なく他の各業代表も亦之を諒承せら



れたる結果にして同組合の全蠶絲業者の總意を代表せるものと云ふべく、而して同組合は素より本會に於て決定したる恒久對策根本方針を遵守するものたることは勿論設立に關する協議會席上に現はるる設立者の意嚮は本邦蠶絲業者の維持安定を主眼とするにありたることは同組合規約の明文に依り明なる事實なり、仍て茲に附言して益々全蠶絲業者の一致團結を希望す。

1 中支蠶絲組合に關し報告

當組合設立及設立後の事業經過に付大要左記の通り此段及報告候也

昭和十三年八月十二日

中支蠶絲組合理事長 今 井 五 介

日本中央蠶絲會會長 伯爵 松 平 頼 壽 殿

記

當組合は政府並に貴會の懇導指導と各業代表の意圖に基き設立せられたるものなるが、其任務の極めて重大なるに鑑み組合員一同銳意微力を盡し以て貴會が曩に定められたる對支蠶絲業の根本恒久の方策に則り其目的達成に努力しつゝあり。幸に政府及貴會殊に現地機關より深甚なる配慮と懇切なる指導とを蒙り、且實務者に適任を得支障なく事業を運営することを得たるは聊か欣懐とする處なり。

組合設立經過

一、四月四日貴會の招集に依り參集したる組織團體正副會長の懇談會に於て爲したる申合に基き同月七日有志會合、

農林當局及貴會の共同立案に係る暫定機關の規約及組織員並出資額等に付審議を重ね大體の成案を得たり、但し規約及事業運営に關する事項に就ては現地機關の承認を経る必要あるを以て、同月八日渡支の田中農林技師に託し現地機關に説明し其承認を求めたり。

二、田中技師より現地機關の意嚮傳達ありたるを以て四月二十一日組織員全部會合協議を遂げ規約の設定（出資額は規約中に明記）役員を選任を了し茲に組合成立したり。

規約、組織員、役員左の如し。

(1) 中支蠶絲組合規約

第一條 本組合ハ中支蠶絲組合ト稱シ事務所ヲ上海ニ置キ支所ヲ東京市麴町區有樂町一丁目七番地蠶絲會館内ニ置ク

必要アルトキハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第二條 本組合ハ日支蠶絲業ノ協調ヲ圖ル爲中支那ニ於ケル蠶絲業ニ關スル恒久的經營組織ノ確立スルニ至ルマデ之ヲ經營ヲ行フコトヲ目的トス

第三條 本組合ノ組合員並其ノ出資額左ノ如シ

| 出 資 額      | 出 資 者      |
|------------|------------|
| 一、〇五〇、〇〇〇圓 | 片倉製絲紡績株式會社 |
| 六〇〇、〇〇〇    | 郡是製絲株式會社   |



|             |            |
|-------------|------------|
| 五〇〇,〇〇〇     | 鐘ヶ淵紡績株式會社  |
| 七五,〇〇〇      | 昭榮製絲株式會社   |
| 一〇〇,〇〇〇     | 日華蠶絲株式會社   |
| 七五,〇〇〇      | 三井物産株式會社   |
| 七五,〇〇〇      | 三菱商事株式會社   |
| 三七,五〇〇      | 旭シルク株式會社   |
| 三七,五〇〇      | 原合名會社      |
| 一三七,五〇〇     | 神榮生絲株式會社   |
| 一五〇,〇〇〇     | 上甲信弘       |
| 七五,〇〇〇      | 神戸生絲株式會社   |
| 五〇,〇〇〇      | 若林製絲紡績株式會社 |
| 三七,五〇〇      | 日本綿花株式會社   |
| 計 三,〇〇〇,〇〇〇 |            |

第四條 出資第一回ノ拂込ハ十分ノ一トシ本組合成立後一週間以内ニ拂込ヲ爲スモノトス  
 第二回以後ノ出資ノ拂込ハ總會ノ決議ニ依リ必要ニ應シ之ヲ爲スモノトス  
 所定ノ期日迄ニ出資ノ拂込ヲ爲サザル場合ニ於テハ百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ延滞利息ヲ徵スルモノトス

第五條 本組合ニ於テ行フ事業左ノ如シ  
 一 産繭其ノ他蠶絲類ノ賣買處理  
 二 製絲工場ノ經營  
 三 蠶種ノ製造及配給  
 四 蠶絲類ノ新規利用ニ關スル事業  
 五 其ノ他本組合ノ目的達成上必要ナル事業  
 第六條 本組合ノ事業方針及事業計畫ノ重要事項ハ現地機關ノ監督ヲ受ケ之ヲ決定スルモノトス  
 前項ノ事業方針及事業計畫ニ關シテハ日本中央蠶絲會ト密ニ聯繫スルモノトス  
 第七條 本組合ノ事業ハ別ニ定ムル所ニ依リ組合員ニ委任シテ之ヲ行フコトヲ原則トス  
 第八條 本組合ノ事業運營ハ主トシテ養蠶業者ノ利益ヲ考慮スルモノトス  
 第九條 組合員ハ理事トナリ理事長一名及常務理事六名ヲ互選ス  
 前項ノ外組合員外ヨリ常務理事二名ヲ選任スルコトヲ得  
 第十條 理事長ハ本組合ヲ代表シ業務ヲ總理ス  
 理事長事故アルトキハ理事長ノ指名シタル常務理事本組合ヲ代表ス  
 第十一條 本組合事務所ニ事務總長及事務次長ヲ置キ常務理事ヲ以テ之ニ充テ理事長ノ指揮ヲ受ケ現地ニ於ケル業務ヲ掌理ス



第十二條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ルモノトス

- 一 事業方針及事業計畫ニ關スル主要事項
- 二 事業報告書、財産目録、貸借對照表及損益處分案

三 理事ノ報酬

四 出資ノ拂込ニ關スル事項

五 規約ノ變更

第十三條 決算期ハ毎年三月三十一日トス

第十四條 利益金ノ配分ハ別ニ定ムル所ニ依ル

損失金ノ分擔ハ組合員ノ出資額ヲ限度トシ出資額ノ割合ニ依ル 但シ損失金ガ出資額ヲ超過スル場合ニ於テハ其超過部分ニ付委任ヲ受ケタル組合員ニ於テ其出資額ノ割合ニ依リ之ヲ負擔ス

第十五條 組合員ハ總會ノ承認ヲ經ルニ非ザレバ脱退シ又ハ其ノ持分ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得ザルモノトス

第十六條 本組合ハ中支那ニ於ケル蠶絲業ニ關スル恒久的經營組織ノ確立スルニ至リタルトキハ事業ヲ之ニ引繼ギ解散スルモノトス

此ノ場合ニ於テ清算事務ハ理事長及常務理事ニ於テ之ヲ行フモノトス

理事長

片倉製絲紡績株式會社

代表 今井 五介

常務理事

郡是製絲株式會社

同

鐘ヶ淵紡績株式會社

同

神榮生絲株式會社

同

三井物産株式會社

同

三菱商事株式會社

同

上 甲 信 弘

同

鈴木 格 三 郎

同

田 中 直 義

日華蠶絲株式會社事務取締役鈴木格三郎氏を事務總長に任命し農林技師田中直義氏を同次長に囑託したり  
組合事務所は最初上海崇明路新上海ホテル内に置き七月三十一日九江路三井銀行ビル三階に移り支所を東京市蠶絲會館内に置く

(2) 事業經營狀況

1 組合成立し事業着手を要するに至りたるを以て現地實況調査の爲、組合員たる片倉、郡是、鐘紡、三井各社より役員を現地に派遣し、主として製絲工場に付實地調査を行ひ、其結果樹立したる事業計畫案に付、五月二日現地に於て陸、海、外三省連絡會議を開き本年度の事業計畫を決定したり。

岡本日本中央蠶絲會副會長は農林省の囑託を受け右派遣員と同時に渡支せられ實地調査及事業計畫に付常に周到の



指導を與へられたり。

- 2 出資金は其一割強を現金、九割弱を約手にて五月十三日拂込を了したり。
- 3 本組合の事業經營は規約第七條に依り片倉、郡是、鐘紡の三社に委任したる處、三社は規約第十四條第二項但書の事項を承認して之を引受けたり。(今後他の製絲家たる組合員が之に参加することを歓迎す)而して三社は事業實施の圓滑を期する爲、一團となり本組合の代行機關として一切の業務を施行しつゝあり。
- 4 右事業施行機關は刻下の現地狀勢上、日華蠶絲公司と稱することゝせり。
- 5 内地に於て賣買處理する副蠶絲は問屋業者たる組合員に生絲の輸出に就ては輸出業者たる組合員に之を委託することの申合を爲したり。
- 6 製絲工場經營は日支合辦(大體日本側六分、支那側四分)にして一々契約を締結し運営に當る職員も亦雙方より出働す。

現在運轉中の工場及釜數は左の如し。

中支蠶絲組合絲廠釜數並開業月日一覽

| 公 司 名           | 絲 廠 名 | 釜 數 | 開 業 月 日 |
|-----------------|-------|-----|---------|
| 同 惠 民 蠶 絲 (無 錫) | 福 鼎 盛 | 三二〇 | 六月二十日   |
|                 | 福 綸   | 二四八 | 十五日     |

- 7 資金は拂込約手を擔保とし横濱正金銀行より融通を受けつゝあり。今日迄購備資金として融通を受けたる金額約二百萬圓なり。
- 8 當組合創立當初より恒久機關たる會社は中支振興會社の子會社たることを希望し政府に於ても盡力せらるゝ處ありしが、現在の狀勢は之を他日に譲らざるべからざる實情にある趣なるを以て會社成立後に於て實現を圖るより外

|     |     |     |       |       |       |       |        |     |     |          |     |
|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|--------|-----|-----|----------|-----|
| 同   | 同   | 同   | 同     | 同     | 同     | 同     | 同      | 同   | 同   | 同        | 同   |
| 振   | 大   | 大   | 宏     | 宏     | 振     | 振     | 振      | 小   | 小   | 日華蠶絲(杭州) | 合 小 |
| 藝   | 生   | 康   | 有     | 餘     | 元     | 成     | 州      | 計   | 計   | 杭        | 計   |
|     |     |     |       |       |       |       |        |     |     |          |     |
| 二五六 | 二〇八 | 二〇八 | 一、二四〇 | 二二〇   | 二二〇   | 二二〇   | 九八八    | 二四〇 | 二四〇 | 二、六八八    |     |
| 十二日 | 十二日 | 九日  | 六月十五日 | 七月廿一日 | 七月廿一日 | 七月末豫定 | 八月一日豫定 |     |     |          |     |



なきに至れり。

二、華中蠶絲株式會社の設立及株式引受轉旋

(一) 華中蠶絲株式會社の成立

現地に於ける各種情勢の推移に伴ひ昭和十三年七月現地機關の慎重なる考慮と切實なる懇懇とに依り急速に恒久機關として會社設立の必要に迫られたる旨申出あり、八月二日本會の招集に依り組合員(中支蠶絲組合)參集慎重協議の結果資本金八百萬圓の内本邦側六百萬圓半額拂込、支那側二百萬圓現物出資(全額拂込)のことに同意し本邦側の拂込は急迫せる事態に鑑み不取敢當組合に於て引受け、今後蠶絲業者一般に株式引受を勸誘して肩替をなし、翌十四年三月迄に同組合を解散することに協議決定し、當地に於ける諸般の準備を整へ八月十日上海に於て華中蠶絲株式會社の創立總會を開催せらるに至り之が無事成立を見たり。同社定款其他次の如し。

(二) 華中蠶絲株式會社定款及事業目論見書

1 華中蠶絲株式會社定款

第一章 總 則

第一條 本會社ハ華中蠶絲株式會社ト稱ス

(華名ハ華中蠶絲股份有限公司ト稱ス)

第二條 本會社ハ中支那ニ於テ左ノ業務ヲ爲スヲ以テ目的トス

一 機械製絲事業ノ經營

二 蠶絲ノ製造及配給

三 產繭ノ新規利用ニ關スル加工業

四 必要ナル土絲ノ賣買

五 右各項ニ附帶スル業務

第三條 本會ハ本社ヲ上海ニ置キ必要ナル地點ニ支店ヲ置ク事ヲ得

第四條 本會社ノ資本總額ハ八百萬圓トス

第五條 本會社ノ公告ハ政府公報及新聞紙ニ掲載シテ之ヲ行フ

第二章 株式及株主

第六條 本會社ノ株式ノ總數ヲ拾六萬株トシ壹株ノ金額ヲ五十圓トス

第七條 本會社ノ株券ハ記名式トシ壹株券、五株券、拾株券、百株券及千株券ノ五種トス

第八條 本會社ハ別ニ掲クル設備ヲ合計貳百萬圓ニ評定シ之ニ對シ夫々全額拂込ノ株式四萬株ヲ與フルモノトス

第九條 前條以外ノ株金拂込ハ壹株ニ付第一回ヲ貳拾五圓トシ第二回以後ノ拂込ノ金額、期日及方法ハ役員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 株主拂込ノ期日ニ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ其ノ拂込ムヘキ金額ニ對シ百圓ニ付一日四錢ノ割合ヲ以テ

遲滯利息ヲ支拂フヘシ

第十一條 株式ノ讓渡、相續、遺贈其ノ他ノ事由ニ因ル名義書換又ハ株券損傷、分割若ハ合併ニ因ル引換ニ付テハ



本會社所定ノ請求書ニ株券竝ニ手数料ヲ添ヘテ差出スヘシ

株式ノ名義書換手数料ハ株券壹枚ニ付キ拾錢株券引換手数料ハ新株券壹枚ニ付五拾錢トス

第十二條 紛失其ノ他ノ事由ニ因リ株券ノ再交付ヲ請求セントスルトキハ本會社ノ適當ト認ムル保證人二名連署シ其ノ事由ヲ具シテ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ請求者ノ費用ヲ以テ引續キ三月以上公告シ其ノ最後ノ日ヨリ二箇月ヲ經ルモ株券ヲ發見セス且ツ他ヨリ故障ヲ申出ル者ナキトキハ新株券ヲ交付ス新株券ノ手数料ハ株券壹枚ニ付五拾錢トス

第十三條 株主又ハ其ノ法定代理人ハ其ノ氏名、住所及印鑑ヲ本會社ニ届出ツヘシ其ノ變更アリタル場合亦同シ

第十四條 本會社ハ豫メ公告ノ上定時株主總會前三十日ヲ超エサル期間株式ノ讓渡ニ依ル名義書換ヲ停止ス

前項以外ノ時期ト雖モ公告ノ上一定ノ期間名義書換ヲ停止スルコトアルヘシ

### 第三章 株主總會

第十五條 本會社ノ定時株主總會ハ毎年四月、臨時株主總會ハ必要アル毎ニ社長之ヲ招集ス

第十六條 株主總會ノ議長ハ社長之ニ任ス社長缺員ノ時若ハ事故アルトキハ副社長之ニ當リ社長副社長共ニ缺員ノ時若ハ事故アルトキハ取締役中ノ一人之ニ當ル

第十七條 本會社ノ株主ハ一株ニ付一箇ノ議決權ヲ有ス

第十八條 株主總會ノ議事ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十九條 株主總會ノ議事ノ要領ハ之ヲ議事録ニ記載シ議長及出席株主二人以上之ニ署名スヘシ

第二十條 株主カ代理人ヲ以テ議決權ヲ行使セントスルトキハ代理人ハ本會社ノ株主タルコトヲ要ス

代理人ハ其ノ代理權ヲ證明スヘキ委任狀ヲ本會社ニ差出スヘシ

### 第四章 役員及役員會

第二十一條 本會社ニ取締役五人以上及監査役二人以内ヲ置ク

第二十二條 取締役及監査役ハ拾株以上ヲ有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定ス

第二十三條 取締役ノ任期ハ三年監査役ノ任期ハ一年トス

但シ任期滿了シタル後ト雖モ後任者ノ就任アル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十四條 株主總會ノ決議ヲ以テ取締役中ヨリ社長一人副社長一人竝ニ常務取締役三人ヲ選任ス

第二十五條 社長ハ本會ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス社長事故アルトキハ副社長其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ

副社長其ノ職務ヲ行フ

社長及副社長共ニ事故アルトキハ常務取締役中ノ一人之ニ代リ缺員ノ時ハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及取締役ハ社長ヲ輔佐シ本會社ノ業務ヲ分掌ス

監査役ハ本會社ノ業務ヲ監査ス

第二十六條 役員會ハ社長、副社長及取締役ヲ以テ之ヲ組織シ本會社ノ重要ナル業務ヲ附議ス

役員會ハ社長之ヲ招集シ其ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十七條 役員ノ報酬及手當ハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ決ス



第五章 計 算

第二十八條 本會社ノ營業年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十九條 本會社ノ利益金ハ每營業年度ニ於ケル總收入金額中ヨリ營業諸經費、諸損失及諸償却金ヲ控除シタル  
殘額トス

第三十條 本會社ノ利益金ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ處分スルモノトス

- 一、法定積立金 利益金ノ百分ノ十以上
- 二、從業員退職給與積立金 利益金ノ百分ノ一以上
- 三、役員賞與金 利益金ノ百分ノ五以内
- 四、利益金ニ前期繰越金ヲ加ヘタル金額ヨリ前三號ノ金額ヲ引去タル殘額ハ之ヲ株主ニ配當シ又ハ特別積立金トシ若ハ後期繰越金トス

第三十一條 株主配當金ハ毎年三月三十一日現在ノ株主名簿ニ依リ株主ニ之ヲ支拂フモノトス

配當金ノ拂渡期日及場所ハ社長之ヲ定メ株主ニ通知スヘシ

附 則

第三十二條 本會社ノ設立費用ハ壹萬圓ヲ限度トス

第三十三條 第一回ノ取締役ノ任期ハ第三回ノ定時株主總會、第一回ノ監査役ノ任期ハ第一回ノ定時株主總會ノ終結ノトキヲ以テ滿了トス

| 工場名 | 線 絲 簽 數 | 評 價     | 株 數   |
|-----|---------|---------|-------|
| 振 藝 | 五四〇     | 一九〇、一五〇 | 三、八〇三 |
| 森 明 | 四三二     | 七〇、三五〇  | 一、四〇七 |
| 泰 孚 | 三八四     | 七七、一五〇  | 一、五四三 |
| 鼎 盛 | 三二〇     | 一〇八、四五〇 | 二、一六九 |
| 乾 二 | 二七二     | 七二、一〇〇  | 一、四四二 |
| 永 裕 | 四八〇     | 一二五、〇五〇 | 二、五〇一 |
| 福 綸 | 二四八     | 七四、八〇〇  | 一、四九六 |
| 廣 餘 | 三一六     | 九八、五五〇  | 一、九七一 |
| 廣 緒 | 二七二     | 六六、二五〇  | 一、三二五 |
| 禾 豐 | 三六〇     | 一一九、三〇〇 | 二、三八六 |
| 潤 康 | 二〇八     | 六四、六五〇  | 一、二九三 |
| 嘉 康 | 三〇四     | 八六、六〇〇  | 一、七三二 |

定款第八條ノ別掲表 (工場現物評價表)

第三十四條 本會社ノ發起人ノ住所、氏名及其ノ引受株數左ノ如シ

現金出資 十二萬株 (六百萬圓) 日本側發起人 一二〇、〇〇〇株

現物出資 四萬株 (二百萬圓) 内 日本側發起人 三、一一七株  
支那側發起人 三六、八八三株



|        |        |         |            |        |        |        |         |        |        |   |   |   |
|--------|--------|---------|------------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|---|---|---|
| 大      | 振      | 鼎       | 江蘇農民銀行第二倉庫 | 振      | 大      | 慶      | 慶       | 瑞      | 大      | 鼎 | 振 | 慶 |
| 生      | 元      | 昌       | 棧          | 裕      | 倉      | 庫      | 有       | 豐      | 成      | 成 | 蠶 | 機 |
| 二〇八    | 三五二    | 五一二     |            |        |        |        |         |        |        |   |   |   |
| 六六、八〇〇 | 八七、三〇〇 | 一七六、〇〇〇 | 一五〇、七五〇    | 二七、一五〇 | 二〇、一〇〇 | 五九、九〇〇 | 一五五、八五〇 | 八八、七〇〇 | 一四、〇五〇 |   |   |   |
| 一、三三六  | 一、七四六  | 三、五二〇   | 三、〇一五      | 五四三    | 四〇二    | 一、一九八  | 三、一一七   | 一、七七四  | 二八一    |   |   |   |

2 華中蠶絲株式會社事業目論見書

一、會社ノ名稱

本會社ハ華中蠶絲株式會社華名華中蠶絲股份有限公司ト稱ス

二、本社所在地

上海ニ本店ヲ置ク

三、會社ノ目的

一 機械製絲事業ノ經營

二 蠶種ノ製造及配給

三 產繭ノ新規利用ニ關スル加工業

四 必要ナル土絲ノ賣買

五 右各項ニ附帶スル業務

四、國籍

中華民國維新政府下ノ普通法人

五、資本金

八百萬圓(拾六萬株、壹株ノ金額五拾圓)

內譯

現物出資 貳百萬圓(四萬株)

現金出資 六百萬圓(拾貳萬株)

但シ現物出資ニ對シテハ全額拂込済株式ヲ交付シ現金出資ハ第一回拂込ヲ貳拾五圓トシ第二回以後ノ拂込ハ當分要求セサル方針トス

「註」一、創立年度内ニ於テ貳百萬圓ヲ増資ス其ノ内譯左ノ如シ

|      |             |
|------|-------------|
| 現物出資 | 百 萬 圓 (貳萬株) |
| 現金出資 | 百 萬 圓 (貳萬株) |



六、事業計畫

- 二、現物出資ハ製絲工場ニシテ利用シ得ルモノ、現有價值ニ依リ出資スルモノトス
- 從テ其ノ出資額ハ之カ評價ノ結果ニ依リ若干ノ増減アルヘシ
- 三、現金出資ハ日本内地蠶絲關係者ノ出資ニ依ルモノトス
- 四、増資ノ際ノ現金出資ハ日支間公募ニ依ル豫定トス

本會社ハ三ヶ年計畫ヲ以テ製絲工場一萬釜ヲ復舊セシメ爾後此釜數ヲ保持スルモノトシ蠶絲ノ製造、配給、産繭生絲及其ノ他蠶絲類ノ賣買處理等製絲業ノ經營上必要ナル計畫ヲ樹テ其完成ヲ期ス

尙日支蠶絲業及纖維事業界ノ狀勢ニ鑑ミ必要アル場合ハ事業ヲ擴張シテ産繭ノ新規利用ニ關スル加工業ヲモ實施スル豫定ナリ事業計畫左ノ如シ

一、事業年度總括表

| 第一年度(昭和十三年八月十一日起業) | 運轉釜數   | 生絲生産豫定數量 | 原料繭所要數量 |
|--------------------|--------|----------|---------|
| 第一年度               | 三、三〇〇  | 六、六〇〇擔   | 八二、〇〇〇擔 |
| 第二年度               | 六、〇〇〇  | 一九、四〇〇   | 二四二、〇〇〇 |
| 第三年度               | 一〇、〇〇〇 | 三二、四〇〇   | 四〇三、〇〇〇 |
| 第四年度               | 一〇、〇〇〇 | 三二、四〇〇   | 四〇三、〇〇〇 |
| 第五年度               | 一〇、〇〇〇 | 三二、四〇〇   | 四〇三、〇〇〇 |

備考

- 一、第一年度ハ八月十一日起業トシ繰業日數ヲ二百日トス
- 二、八月十一日起業ノ釜數ハ二千七百四拾釜ナルモ九月迄ニ更ニ六百釜開業ノ豫定ナルヲ以テ平均參千參百釜トセリ

二、事業費年度割 (單位圓)

| 種別   | 第一一年      | 第二二年      | 第三三年      | 第四四年      | 第五五年      |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 製絲資金 | 四,四七,〇〇〇  | 三,三〇〇,〇〇〇 | 二,二〇七,〇〇〇 | 三,七〇八,〇〇〇 | 二,七〇八,〇〇〇 |
| 蠶種資金 | —         | 一,一八,六〇〇  | 一,九七,八〇〇  | 一,九七,八〇〇  | 一,九七,八〇〇  |
| 小計   | 四,四七,〇〇〇  | 四,一七,六〇〇  | 三,六四,八〇〇  | 三,六四,八〇〇  | 三,六四,八〇〇  |
| 固定資金 | 二,〇〇〇,〇〇〇 | 二,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | —         | —         |
| 計    | 六,四七,〇〇〇  | 六,一七,六〇〇  | 三,六四,八〇〇  | 三,六四,八〇〇  | 三,六四,八〇〇  |

三、創立費 壹萬圓トス

四、資金運用計畫 (單位千圓)

(一) 所要資金



(二) 支出内訳 (單位圓)

| 種別   | 第一一年     | 第二二年      | 第三三年     | 第四四年     | 第五五年     |
|------|----------|-----------|----------|----------|----------|
| 製絲收入 | 四、五二、〇〇〇 | 一四、三九、〇〇〇 | 三、八四、〇〇〇 | 三、八四、〇〇〇 | 三、八四、〇〇〇 |
| 蠶種收入 | —        | 一、三六、五〇〇  | 二、〇九、七〇〇 | 二、〇九、七〇〇 | 二、〇九、七〇〇 |
| 計    | 四、五二、〇〇〇 | 一五、七五、五〇〇 | 五、九三、七〇〇 | 五、九三、七〇〇 | 五、九三、七〇〇 |

(一) 收入明細表 (單位圓)

| 種別       | 第一一年      | 第二二年      | 第三三年      | 第四四年     | 第五五年 |
|----------|-----------|-----------|-----------|----------|------|
| 拂込資本金    | 五、〇〇〇、〇〇〇 | 四、八五、〇〇〇  | 四、六二、〇〇〇  | 三、四、〇〇〇  | 四、五  |
| 收入       | 六、五〇〇、〇〇〇 | 一五、五五、五〇〇 | 一四、六二、〇〇〇 | 八三、九〇〇   | 三二七  |
| 支出       | 六、五〇〇、〇〇〇 | 一五、九三、七〇〇 | 一四、四四、八〇〇 | 一、四六、九〇〇 | 三三六  |
| 差引損益     | —         | 三、九三、七〇〇  | 二、四四、八〇〇  | 一、四六、九〇〇 | 三三六  |
| 對拂込資本金比率 | —         | 三三六       | 三三六       | 三三六      | 三三六  |

五、收支計算書 (單位圓)

| 種別     | 第一一年  | 第二二年   | 第三三年   | 第四四年   | 第五五年   |
|--------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 拂込資本金  | 五、〇〇〇 | 六、五〇〇  | 六、五〇〇  | 六、五〇〇  | 六、五〇〇  |
| 社内保留資金 | —     | 三三     | 一、〇六五  | 二、三〇〇  | 三、八〇六  |
| 借入金    | 三〇〇   | 四、三三三  | 五、四三三  | 四、一九〇  | 二、六九四  |
| 計      | 五、三〇〇 | 一一、〇〇〇 | 一一、〇〇〇 | 一一、〇〇〇 | 一一、〇〇〇 |

(二) 資金計畫

| 種別   | 第一一年  | 第二二年   | 第三三年   | 第四四年   | 第五五年   |
|------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 固定資金 | 二、〇〇〇 | 四、〇〇〇  | 五、〇〇〇  | 五、〇〇〇  | 五、〇〇〇  |
| 流動資金 | 三、三〇〇 | 七、〇〇〇  | 八、〇〇〇  | 八、〇〇〇  | 八、〇〇〇  |
| 計    | 五、三〇〇 | 一一、〇〇〇 | 一三、〇〇〇 | 一三、〇〇〇 | 一三、〇〇〇 |



| 種別    | 第一一年      | 第二二年       | 第三三年       | 第四四年       | 第五五年       |
|-------|-----------|------------|------------|------------|------------|
| 製絲原料費 | 二,五〇一,〇〇〇 | 七,四九一,〇〇〇  | 三,四七〇,〇〇〇  | 三,四四四,八〇〇  | 三,四四四,八〇〇  |
| 製絲加工費 | 一,七二一,〇〇〇 | 五,三三二,〇〇〇  | 八,七二八,〇〇〇  | 八,七二八,〇〇〇  | 八,七二八,〇〇〇  |
| 蠶種製造費 | -         | 一,二八六,〇〇〇  | 一,七六六,八〇〇  | 一,九七六,八〇〇  | 一,九七六,八〇〇  |
| 人件費   | 三三〇,〇〇〇   | 九七,〇〇〇     | 一,六一〇,〇〇〇  | 一,六一〇,〇〇〇  | 一,六一〇,〇〇〇  |
| 修繕費   | 六六,〇〇〇    | 一四,〇〇〇     | 三三,〇〇〇     | 三三,〇〇〇     | 三三,〇〇〇     |
| 創立消却費 | 五,〇〇〇     | 五,〇〇〇      | -          | -          | -          |
| 減價償却費 | 一〇〇,〇〇〇   | 五〇,〇〇〇     | 七五,〇〇〇     | 七五,〇〇〇     | 七五,〇〇〇     |
| 計     | 四,六七二,〇〇〇 | 一四,六一九,〇〇〇 | 二四,三四八,〇〇〇 | 二四,三四八,〇〇〇 | 二四,三四八,〇〇〇 |

六、利益金處分 (單位圓)  
利益金利益分配

| 第一一年   | 本年利益   | 前年繰越 | 計      | 積立金    | 積立金別 | 退職給與積立金 | 役員給與   | 配當金    | 後年度繰越  |
|--------|--------|------|--------|--------|------|---------|--------|--------|--------|
| 三三,四〇〇 | 三三,四〇〇 | -    | 三三,四〇〇 | 三三,四〇〇 | -    | 二,一四〇   | 一一,一〇〇 | 一三,五〇〇 | 三三,一四〇 |

(三) 華中蠶絲株式會社株式引受斡旋  
日支蠶絲業協調の爲軍部及農林省當局の斡旋に依り昭和十三年八月十日急遽華中蠶絲株式會社の設立を見たるに依り本邦蠶絲業者の總意的協力参加を求むる爲同社株式の本邦引受三萬株(第一回半額拂込)を内地に於て適當配分の必要に依り組織團體長と協議打合せの上左記の通之が斡旋に付所置を講ぜり。

1 組織團體長會議開催

昭和十三年十月二十日組織團體長會議を開き當該株式引受(配分)方法其他に付懇談打合せを遂げ地方蠶絲業主任官の會合を求め熟議のことに決定し、事後同年十一月八日更に組織團體長會議を開催地方主任官協議會意嚮に基き大體の分株標準を定め、地方長官及各業團體に對し關係業者又は團體の任意引受けの取纏め方を依頼のことに決定せり。

2 地方蠶絲業主任官會議開催

昭和十三年十月三十一日蠶絲會館に於て地方蠶絲業主任官會議を開催し同會社の成立經過及設立趣旨定款内容並事

| 第一一年      | 第二二年      | 第三三年      | 第四四年      | 第五五年     |
|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 八三三,九〇〇   | 一三,二六〇    | 八七七,三三三   | 八三三,九三三   | 一三,二六〇   |
| 一,四八八,九六〇 | 三,五〇,三五五  | 一,七一九,三三三 | 一,四八八,九六六 | 三,五〇,三七三 |
| 四七,〇三二    | 一,九〇五,九一二 | 一,四,六八九   | 一,四,六八九   | 一,四,六八九  |
| 一,四八八,九六〇 | 一,四八八,九六六 | 三,九三,七三三  | 三,九三,七三三  | 一,四,六八九  |
| 一,四八八,九六〇 | 一,四八八,九六六 | 一,四,六八九   | 一,四,六八九   | 一,四,六八九  |
| 七三,四八八    | 七三,四八八    | 七三,四八八    | 七三,四八八    | 七三,四八八   |
| 七,〇〇〇     | 六五〇,〇〇〇   | 六五〇,〇〇〇   | 七,〇〇〇     | 六五〇,〇〇〇  |
| 八七,三〇一    | 四三,七〇五    | 四三,七〇五    | 八七,三〇一    | 四三,七〇五   |



業目論見等の徹底を圖り當該株式引受(配分)方法等に付熟議の上適當配意斡旋方を依頼したり。

日支蠶絲業協調ト華中蠶絲株式會社支援ノ趣旨

(地方蠶絲業主任官會議に於ける日本中央蠶絲會會長挨拶要旨)

—上略—

「支那蠶絲業の弾力性」ト言フコトハ多年朝野ノ間ニ叫バレタ聲デアリマシタ、殊ニ世界大戰後昭和ノ初頭ニ至ル  
アメリカ經濟界ノ好調時代ニ於キマシテハ必然的ニ支那蠶絲業ヲモ刺戟致シタ結果、同國ニ於テモ屢々種々ノ畫策  
ガ行ハレタ様子デアリ、爲ニ我方ハ特ニ關心ヲ持チ官民ノ視察調査トナリ對策ノ研究トナリ、相當喧シキ問題トシ  
テ取扱ハレマシタコトハ未ダ記憶ニ新ナル處デアリマス、然ルニ其後支那ハ内亂ニ次グニ内亂ガ起リ、國內ノ不統  
一ト民心ノ不安トニ終始シタルガ故ニ、サスガニ好條件ニ恵マレマシタ養蠶業モ發展ヲ見ルニ至ラズ、加フルニ本  
邦ニ於ケル官民ノ絶大ノ努力ニ依リマシテ顯著ナル躍進ヲ續ケ終ニ世界蠶絲業ヲ制壓スルニ至リマシタ、昭和四年  
蠶絲恐慌時代ニ入りマシタ頃ハ支那ノ國情漸ク安定致シマシタモノノ、本邦ノ良品廉價供給ノ爲擡頭スル機會ナカ  
リシモノノ如ク、從テ本邦ノ關心漸ク薄ラギタルノ傾向ヲ呈シタルヤニ感ジラレタノデアリマス。

然ルニ此度支那事變勃發、勢ノ赴ク處中支那ニ擴大シ神速果敢ナル皇軍ニ依テ北支及蠶絲業ノ主要地タル江蘇、浙  
江地方ガ我ガ軍ノ占領地トナルヤ、勃然トシテ支那蠶絲業對策ノ確立方焦眉ノ急ナリトシテ叫バルルニ至ツタコト  
ハ一般周知ノ事實デアリマス、蓋シ帝國不動ノ根本方針トシテ支那民衆ヲ宣撫シ、占領地ノ治安ガ維持セラルルニ  
至ラバ、幾多ノ好條件ヲ具備シ飛躍的ニ發展シ得ベキ素地ヲ有スル彼地ノ養蠶業ニ對シテハ、必ズ資本閣特ニ第

三國系財閥ノ躍動トナリ、其結果本邦ノ蠶絲業ヲ根蒂ヨリ動搖セシムルニ至ルベキヲ虞レラレタカラデアリマス  
斯クノ如ク今後ニ於ケル支那蠶絲業ノ動向ハ本邦ノ斯業ニ甚大ナル影響ヲ及スコトハ明々白々ノ事實デアリマスカ  
ラ、本會ニ於キマシテハ客廳開催ノ通常總會ノ決議ヲ以チマシテ、速ニ彼地ノ實態ヲ調査シ百年ノ大計ヲ樹テラル  
ル様政府ニ建議致スト共ニ、一面時局對策委員會ヲ設置シテ對策ノ研究ヲ續ケテ參ツタノデアリマス、政府ニ於カ  
レマシテモ深甚ノ考慮ヲ拂ハレ既ニ本年一月上旬田中技師其他ヲ派遣サレ具サニ現地ノ實情ヲ調査サレマシタ處、  
其結果ハ意外ニモ彼地ニ於ケル蠶絲業ノ設備ガ整ツテ居リ、各般ノ施設ガ着々トシテ實施セラレツツアツタ歴然タ  
ル跡ヲ探知シタノデアリマシテ、若シ今次事變ガナカツタナラバ期年ナラズシテ彼ノ蠶絲業ハ躍進的發達ヲ爲セシ  
コト疑フ容セザル處デ、顧ミテ慄然タラザルヲ得ナイ次第デアリマス、今次事變ノ戰果ノ宏遠ナルコトハ申スマデ  
モアリマセンガ、今更ナガラ宏大ナル御稜威ト皇軍ノ赫々タル武動トニ感激セザルヲ得ナイノデアリマス。  
本會ノ委員會ニ於キマシテハ右申述べマシタ如キ現地ノ實態ニ鑑ミ將來ノ影響ヲ洞察致シマシテ慎重審議ヲ重ネ、  
農林當局トモ常ニ緊密ナル連絡ヲ採リマシテ根本對策ノ成案ヲ得、四月初頭評議員會ノ議ヲ經テ内閣總理大臣始メ  
關係各大臣及企畫院總裁ニ建議ヲ致シタノデアリマス。

右根本對策ハ今日我蠶絲業者ノ探ルベキ不動的ノ定規デアルト信ズルノデアリマシテ、政府ノ方針モ亦茲ニアリト  
存ゼラルルノデアリマスガ、當時ニ於ケル現地ノ狀勢ハ前年ノ殘存繭及本春產繭產繭ヲ本邦側ニ於テ處理スルノ方  
途ヲ講ゼザレバ彼地宣撫工作上遺憾ノ點アルノミナラズ第三國資本ノ乘ズル處トナリマシテ、根本目的ノ達成ヲ期  
シ難キ事情ニ迫ラレタノデアリマス、仍テ本會ハ四月一日組織團體長ヲ會同シ之ガ應急對策ニ付協議致シタ處、全



蠶絲業者が打テ一丸トナリマシテ之ニ當ルベキモノナリト云フ結論ヲ得マシタケレド、何分ニモ先ヅ第一ニ必要ナ  
 モノハ資金デアリマシテ、之ヲ全蠶絲業者ヨリ募集スルノ餘裕ガナイノデ誠ニ困却致シマシタガ、事急速ヲ要スル  
 關係上結局急速ニ出資ヲ爲シ得ベキ製絲、問屋、輸出三業者ノ有志者ヲ以テシンヂケート(中支蠶絲組合)ヲ組織  
 シ三百萬圓ノ出資ヲ爲シ、政府並現地機關監督ノ下ニ殘存繭及本年生産繭ヲ處理スルコトト相成ツタノデアリマス  
 而シテコノシンヂケートノ結成ニ就テハ之ヲ秘密扱ト致シ公開ヲ避ケマシタ爲ニ往々誤解セル向モアツタ様ニ聞キ  
 マスルガ、根本對策ヨリ發生シタ此事業ノ内容ヲ公開スルコトハ、徒ニ支那ノ民衆ヲ刺戟シ蔣政府ニ辭柄ヲ與ヘ且  
 又第三國ノ乘ズル機會ヲ作ルコトトナリマシテ、本邦ノ爲ニハ百害アツテ一利ナキ結果ヲ招來スル處ガ多分ニアリ  
 マシタ關係カラ、右様ノ扱ヲ致シマシタモノデアリマシテ、當事者トシテ已ムニ已マレヌ措置デアツタノデアリマ  
 ス、而モ組合員ノ全部ガ本邦養蠶業擁護ノ爲ニ出資セラレタノデアリマシテ其麗ハシキ犠牲的精神ハ規約第八條ニ  
 『本組合ノ事業運營ハ主トシテ養蠶業者ノ利益ヲ考慮スルモノトス』ノ明文ヲ設ケタルニ依ツテ明ナル如ク私ハ本  
 邦蠶絲業ノ爲ニ衷心敬意ト感謝トヲ表スルモノデアリマス、而モ現地ニ於テ事業運營ニ當ラレタ片倉、郡是、鎮紡  
 三社ノ人々ハ動モスレバ疑惑ヲ逞フスル彼地當業者トノ折衝ニハ非常ナル困難ヲ嘗メラレ辛フシテ所期ノ事業ヲ施  
 行シ得、一面爲督管理ノ關係上資金ノ轉用等ニ就テモ相當困難ナル事情ガ有リマシタガ、現地機關ヤ農林當局ノ絶  
 大ナル援助ト關係者ノ非常ナル努力トニ依リマシテ、組合事業ハ著々其ノ成績ヲ擧ゲツツアツタノデアリマシタ處  
 更ニ彼地ニ於ケル四圍ノ狀勢ハ維新政府下ノ支那人トシテ日支合辦ノ會社ヲ組織スルノ必要ニ迫ラレタノデアリ  
 マス、而モ僅々十日内外ノ間ニ會社組織ヲ完了セナケレバナラヌコトニ相成リマシテ、彼地ニ於キマシテハ支那側

ノ現物出資ヲ、東京ニ於キマシテハ本邦側ノ現金出資ヲ擔當致シ、アラユル困難支障ヲ排シテ八月十日日本邦側現金  
 六百萬圓(半額拂込)支那側二百萬圓ノ現物出資ヲ取纏メ、差當リ資本金八百萬圓ノ華中蠶絲株式會社ガ設立サレ  
 タノデアリマス、而シテ同會社ノ出資モ亦根本方針ニ從ヒマシテ全蠶絲業者ヨリ之ガ出資ヲ求メタイノデアリマシ  
 タガ、前述ノ如ク何分ニモ時間的ニ其餘裕ナク、不取敢中支蠶絲組合ニ於テ之ヲ引受ケ漸ク會社ガ成立致シマシタ  
 次第デアリマシテ、ツマリ一時的便法ヲ採ラザルヲ得ナカツタノデアリマス。併シナガラ同會社ハ國策的大使命ヲ  
 有スルモノデアリマスコトハ前申シタ通りデアリ、今ヤ廣東ガ攻略セラレ漢口モ引續キ陥落ヲ見ルニ至リマシタカ  
 ラ、廣東、湖南、湖北地方モ亦一元的ニ之ヲ調整スルノ必要ガアルヤニ認メラルルノデ、從ツテ同會社ノ使命ハ更  
 ニ倍加セラレタノデアリマス、就キマシテハ本邦蠶絲業者ハ總力ヲ擧ゲテ之ヲ支持シ其分ニ應シ之ガ株式ヲ負擔ス  
 ルコトハ當然ノ義務デアルト信ジマス、乃チ現在一部少數者ノ負擔致シ居ル出資(株式)ヲ各業者ニ適當ニ分配セ  
 ラルベキモノデアルト思フノデアリマス、各業團體ニ於キマシテモ夫々配慮セラレツツアリマスガ、廣キ地域ニ涉  
 ツテ居ル多數ノ各業者ニ右國策會社ノ趣旨ノ周知徹底ヲ圖リマスニハ、殊ニ公開ヲ避ケネバナラヌ事項等ヲ説明シ  
 テ能ク諒解セシムルニハ、常ニ營業者ニ接觸セラレ指導監督ノ任ニ當ラルル各位ノ御盡力ニ俟ツコトガ最モ適當デ  
 アリ且ツ有效デアルト存ジマシテ、主務省及組織團體トモ御打合ノ上、本日茲ニ御會同ヲ煩シタ次第デアリマス、  
 何卒篤ト御懇談ノ上、本邦蠶絲業將來ノ爲格段ナル御盡力ヲ御願致ス次第デアリマス。

### 3 株式ノ引受方法及地方當局ヘノ斡旋依頼

(1)



府縣知事宛

(昭和十三年十一月二十一日中蠶發第三五四號會長名發信)

拜啓益々御清榮ノ段奉慶賀候扱過日華中蠶絲株式會社ノ出資(株式引受)ニ付懇談會開催ニ際シテハ御用繁中ニモ拘ラズ貴廳蠶絲業主任官御派遣被下地方事情等ニ付委曲拜聽スルト共ニ會社當局ヨリ現地ノ事情ヲ詳述スルノ機會ヲ得タルコトハ日支蠶絲業調整ノ目的達成上多大ノ利便ヲ得欣懷ニ不堪次第ニ存ジ厚ク御禮申上候

同會社ノ株式ハ會社ノ使命上蠶絲業者全般ニ於テ應分引受クベキモノト被存候ニ付豫テ組織團體トモ協議致居候處過日開催ノ地方蠶絲業主任官懇談會ニ於ケル意嚮ヲ參酌シ去ル八日組織團體長ヲ會同シ協議ノ結果左記ニ依リ應募者ヲ勸誘スルコトニ相成府縣蠶絲業組合及同聯合會ニ對シ夫々盡力方申進置候得共廣キ地域ニ亙ル多數ノ各業者ヨリ募集スルニハ常ニ當業者ニ接觸セラレ指導監督ノ任ニ當ラルル地方廳ノ御盡力ニ俟タサレバ頗ル困難ト被存候間御繁用ノ折柄御迷惑ト存候得共同會社使命ノ重大性ヲ諒承セラレ貴管下蠶絲業團體御督勵ノ上標準額ニ達スル様精々御盡力相煩度此段御依頼申上候

敬具

記

- 1 各業者ニ募集ヲ希望スル標準左ノ如シ
  - (イ) 養蠶業者 一養蠶實行組合ニ付一株
  - (ロ) 蠶種製造業者 蠶種製造者一人ニ付平均二株(全國ニ製造者三千人ト見做シ計六千株ノ引受ヲ得タキ希望ナリ)

- (ハ) 組合製絲業者 一組合平均十株(全國百五十組合ト見做シ千五百株ノ引受ヲ得タキ希望ナリ)
  - (ニ) 製絲業者 一人平均十五株(全國九百人ト見做シ一萬三千五百株ノ引受ヲ得タキ希望ナリ)
  - (ホ) 乾繭倉庫業者 一組合平均五株(全國百組合ト見做シ五百株ノ引受ヲ得タキ希望ナリ)
- 2 府縣各業團體ハ各別ニ所屬組合員又ハ其ノ組織員ヲ以テ民法上ノ出資組合(別紙規約例參照)等ヲ設ケ株式ノ引受ヲ爲スコト
    - 現ニ基本金、積立金等(今後ノ義務ヲ負擔シ得ル程度ノ)ヲ有スルモノハ公法人ト雖モ株主タルコトヲ得
    - 組合製絲側ニテハ各府縣ノ出資者決定ノ曉ハ全國聯合會ニ於テ一本ニ株主タラントスル意嚮ヲ有ス
  - 3 應募數ハ昭和十四年一月末日限り各業別ニ必ず本會ニ申込マルコト(豫定數ニ達セザル時ハ直ニ他ノ方面ニ出資方ヲ求メサルベカラザルニ依リ期限ニ遅レザル様御配慮相煩度)
  - 4 拂込(一株ニ付二十五圓)ハ昭和十四年二月十五日限り各府縣取纏メ本會宛送付セラルルコト
  - 5 標準額ヲ超過シタル時ハ按分ニ依リ標準額ニ打切ルコトアルベシ

(2)

華中蠶絲株式會社出資組合規約例

○○縣何々業組合(○○縣何々業組合聯合會)

華中蠶絲株式會社出資組合規約

第一條 本組合ハ華中蠶絲株式會社ニ出資協力スルヲ以テ目的トス



第二條 本組合ハ〇〇縣何々業組合（〇〇縣何々業組合聯合會以下特ニ必要アル場合ノ外省略）華中蠶絲株式會社出資組合ト稱ス

第三條 本組合ノ事務所ハ之ヲ〇〇縣何々業組合事務所内ニ置ク

第四條 本組合ハ〇〇縣何々業組合並其ノ組合員（〇〇縣何々業組合聯合會並其ノ組織員）ニシテ華中蠶絲株式會社ニ共同シテ出資協力セントスル者ヲ以テ組織ス

第五條 本組合ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 組合員ノ出資ニ依リ華中蠶絲株式會社株式ノ引受並其ノ管理
- 二 華中蠶絲株式會社株主權限ノ行使
- 三 華中蠶絲株式會社ヨリノ配當金ノ受領並ニ其ノ組合員ヘノ配分
- 四 其他必要ナル事項

第六條 出資一口ノ金額ハ金五拾圓トス

出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金貳拾五圓トス

第二回以後ノ拂込ハ華中蠶絲株式會社ノ株式ニ付拂込ノ徵收アルトキ之ト同時ニ同額ノ金額ヲ拂込ムモノトス

第七條 組合員ハ一口以上ノ出資ヲ爲スモノトス

組合員第一回拂込金額ヲ拂込タルトキハ理事長名ヲ以テ出資證ヲ交付ス

出資金ノ拂込ニ付テハ民法第六百六十九條ノ規定ニ從フ

第八條 本組合ハ組合員ノ出資金ヲ以テ組合員ノ出資口數ニ相當スル華中蠶絲株式會社株式員數ヲ引受購入ス

第九條 組合員カ本組合ノ華中蠶絲株式會社ノ株式其ノ他ノ財産ニ對シ有スル持分ハ其ノ出資額ニ應スルモノトス

第十條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

理事長 一名

理事 〇名

監事 〇名

第十一條 理事ハ〇〇縣何々業組合組合長、副組合長及評議員タル組合員ヲ以テ之ニ充ツ其組合長タル理事ヲ以テ

理事長トス但組合長タル理事ナキトキハ理事長ハ理事之ヲ互選ス

監事ハ總代會於ニテ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

第十二條 理事長ハ本組合ヲ代表統理シ其ノ業務ヲ執行ス

理事ハ組合ノ業務執行ニ關スル事項ニ付合議ス理事長事故アルトキハ理事互選ニ依リ之ヲ代理スヘキモノヲ定ム

監事ハ組合ノ業務執行並資産管理ノ狀況ヲ監査ス

役員ノ職務ニ付テハ民法第六百七十條第二項及第三項並第六百七十一條、第六百七十二條ノ規定ニ依ル

第十三條 役員ノ任期ハ〇〇縣何々業組合役員ノ任期ニ從フ

役員ハ其ノ任期滿了シタルトキト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第十四條 本組合ノ役員ハ無報酬トス



第十五條 本組合ニ總代會ヲ置ク

總代會ハ理事及總代〇名ヲ以テ組織シ理事長議長トナル總代ハ〇〇縣何々業組合議員タル組合員ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 總代會ハ左ノ事項ヲ決議ス

一 毎年度收支豫算及其ノ決算ノ承認ニ關スル事項

二 利益金處分並缺損負擔ニ關スル事項

三 組合員ノ出資方法ニ關スル事項

四 規約ノ變更

五 組合員ノ除名ニ關スル事項

六 其他本組合ノ目的遂行ニ關スル重要ナル事項

總代會ノ決議ハ出席シタル總代ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第十七條 本規約ニ定ムルモノノ外總代會ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 本組合ノ收入ハ華中蠶絲株式會社ヨリノ配當金其ノ他ニ依ル

本組合ノ收入ハ經費ニ充ツルモノノ外ハ組合員ニ對シ其ノ持分ニ應シテ配當スルモノトス

第十九條 組合員ハ其持分ヲ本組合組合員若ハ本組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者以外ニ之ヲ讓渡又ハ贈與スルコ

トヲ得ス

第二十條 組合員其持分ヲ讓渡又ハ贈與セントスルトキハ理事長ノ承認ヲ經ルヲ要ス但シ相續ニ依ル繼承ハ此ノ限

リニ在ラス

第二十一條 組合員ハ前條ノ規定ニ從ヒ其ノ持分ヲ移轉スル場合ノ外脱退ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 組合員出資ノ第二回以後ノ拂込ニ付拂込期限經過後相當ノ期間ヲ置イテ督促ヲ受クルモ尙拂込ヲ爲サ

サルトキハ其ノ持分ニ關スル權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ理事長ハ其ノ持分ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ持分ヲ處分シテ得タル金額ノ範圍内ニ於テ之ヲ返還スルコトアルヘシ

第二十三條 前條ノ規定ハ組合員ノ破産又ハ除名ノ場合ニ準用ス

第二十四條 本組合ノ財産ハ〇〇縣何々業組合ニ其ノ管理ヲ委託ス

第二十五條 業務執行ニ關スル細則ハ理事會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第二十六條 本規約規定以外ノ事項ハ民法第六百七十三條乃至第六百八十八條ノ規定ニ依ル

附則

本組合設立當時ノ理事ヲ定ムルコト左ノ如シ

監事ハ第一回通常總代會ニ於テ之ヲ選舉ス

|     |     |
|-----|-----|
| 理 事 | 理 事 |
| 何 何 | 何 何 |
| 某 某 | 某 某 |

參 考

組合員ノ資格喪失ニ依リ脱退シタル場合ニ於テ其ノ持分ノ拂戻シニ付規定ヲ要スルトキハ左記ニ依リ適當處置セラレベキコト



| 北 陸 區     |           |     |     | 關 東 區             |                 |                 |                 |                 | 東 北 區           |                 |     |     |     |     |     |
|-----------|-----------|-----|-----|-------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 新 潟       | 富 山       | 石 川 | 福 井 | 神 奈 川             | 東 京             | 千 葉             | 埼 玉             | 群 馬             | 栃 木             | 茨 城             | 福 島 | 山 形 | 秋 田 | 宮 城 | 岩 手 |
|           |           |     |     | 七九                | 三八〇             |                 | 一、四七            | 一、三三            |                 | 九〇〇             | 二九  | 八七  |     | 三〇  | 一   |
|           |           |     |     | 二〇〇               | 三               |                 | 一五              | 三〇〇             | 八               | 五               | 六   | 五   | 一〇  |     | 一   |
|           |           |     |     | 一〇〇               | 一〇〇             |                 | 八三              | 四三              |                 |                 |     |     | 一〇〇 |     |     |
|           |           |     |     | 三三                | 六六              |                 |                 | 二四              |                 |                 |     |     |     |     |     |
| 縣 出 資 組 合 | 縣 出 資 組 合 |     |     | 系 全 糸 養 絲 聯 (組 聯) | 全 糸 養 絲 聯 (組 聯) | 全 糸 養 絲 聯 (組 聯) | 全 糸 養 絲 聯 (組 聯) | 全 糸 養 絲 聯 (組 聯) | 全 糸 養 絲 聯 (組 聯) | 全 糸 養 絲 聯 (組 聯) |     |     |     |     |     |
|           |           |     |     | 一、四九              | 七六              | 三〇〇             | 二、六〇            | 一、九四            | 三六              | 九五              | 三九  | 九七  | 一〇  | 一〇〇 | 二   |
|           |           |     |     | 四                 | 五               | 一               | 四               | 三               | 二               | 二               | 二   | 二   | 一   | 二   | 二   |

第十六條第一項第五號「組合員ノ除名」ノ下ニ「組合員ノ持分拂戻承認」ヲ加フ  
 第二十三條ノ次ニ左ノ一箇條ヲ加フ(第二十四條以下順次一條ツツ繰下ク)  
 第二十四條 組合員其ノ資格ヲ喪失シ脱退シタル場合ニ於テ已ムヲ得サル事由アルト認ムルトキハ總代会ノ決議ニ依リ其ノ持分ニ相當スル額面ノ華中蠶絲株式會社株券ヲ交付スルコトヲ得  
 前項ノ場合ハ民法第六百八十二條第一項及第三項ノ規定ニ依ル  
 第二十七條左ノ通り改ム  
 本規約規定以外ノ事項ハ民法第六百七十三條乃至第六百八十條、第六百八十一條第二項及第六百八十二條乃至第六百八十八條ノ規定ニ依ル

(四) 華中蠶絲株式會社株式の分配

華中蠶絲株式會社株式の本邦關係業者引受(設立の際不取敢中支蠶絲組合に於て引受事後關係業者へ分配)に付ては前記地方蠶絲主任官會議を開催し實施方法を懇談打合の上地方長官を煩し引受者取纏たる處左記の通申込ありたるに依り去二月廿八日之を締切り同會社當局へ引渡しの上引受株の第一回拂込を了せしめたり。

華中蠶絲株式會社株式申込一覽表

| 道府縣名 | 養蠶業組合聯合會 | 蠶種業組合 | 製絲業組合 | 其他 | 同上摘要 | 計 | 株主數 |
|------|----------|-------|-------|----|------|---|-----|
| 北海道  |          |       |       |    |      |   |     |
| 青森   | 三        |       |       |    |      | 三 | 一   |



| 計     | 沖<br>繩 | 九 州 區            |        |        |        |                 | 四 國 區            |        |        | 區      |        |        |                    |
|-------|--------|------------------|--------|--------|--------|-----------------|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
|       |        | 鹿<br>兒<br>島      | 宮<br>崎 | 大<br>分 | 熊<br>本 | 長<br>崎          | 佐<br>賀           | 福<br>岡 | 高<br>知 | 愛<br>媛 | 香<br>川 | 德<br>島 | 山<br>口             |
| 一六、四九 | 一八五    | 七〇               | 二二〇    | 三〇八    | 二二〇    | 一〇              | 一〇               | 一〇     | 一〇     | 一〇     | 一〇     | 一〇     | 三六                 |
| 三、五〇〇 | 九〇     | 一七〇              | 二〇〇    | 二〇〇    | 一〇〇    | 一〇              | 一〇               | 一〇     | 一〇     | 一〇     | 一〇     | 一〇     | 五五                 |
| 八、八四三 |        | 七〇               | 二〇〇    | 八〇     | 五〇〇    |                 |                  |        | 一〇〇    | 四八     |        | 二〇     | 八五                 |
| 五、八三  |        | 七                |        |        |        | 二〇〇             | 三〇               |        |        |        |        |        | 三四                 |
|       |        | 乾<br>滿<br>組<br>合 |        |        |        | 福岡縣<br>華中<br>出資 | 縣<br>是<br>製<br>絲 |        |        |        |        |        | 山口縣<br>蠶<br>糸<br>業 |
| 三四、六四 | 三七五    | 一七〇              | 四〇〇    | 四八     | 七〇     | 二〇〇             | 二九〇              | 二五     | 五八     | 一〇     | 一〇     | 三四     | 一、四六               |
| 二一〇   | 二      | 四                | 三      | 三      | 三      | 一               | 一                | 二      | 二      | 一      | 一      | 一      | 三                  |

| 國 中                             | 區 畿 近                                | 區 海 東                                                                | 區 山 東                                                                             |
|---------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 岡 島 鳥<br>山 根 取                  | 和 奈 兵 大 京 滋<br>歌<br>山 良 庫 阪 都 賀      | 三 愛 靜<br>重 知 岡                                                       | 岐 長 山<br>阜 野 梨                                                                    |
| 一<br>五<br>〇<br>〇                | 四<br>九<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇 | 五<br>五<br>〇<br>一<br>、<br>三<br>九<br>〇<br>〇                            | 一<br>、<br>〇<br>〇<br>〇<br>二<br>、<br>五<br>二<br>〇<br>一<br>、<br>九<br>〇                |
| 一<br>一<br>五                     | 七<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇      | 二<br>〇〇<br>二<br>〇<br>五<br>〇                                          | 六<br>〇<br>一<br>、<br>三<br>〇<br>〇<br>一<br>〇〇                                        |
| 一<br>一<br>五                     | 一<br>四<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇      | 二<br>〇〇<br>一<br>、<br>四<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇                           | 一<br>〇〇<br>二<br>、<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇<br>七<br>〇                                   |
| 一<br>七<br>〇                     |                                      | 三<br>〇〇<br>三<br>〇<br>〇<br>一<br>〇<br>〇<br>二<br>〇〇<br>五<br>七<br>〇<br>〇 | 一<br>〇〇<br>二<br>〇〇<br>三<br>〇〇<br>三<br>〇〇<br>一<br>〇〇                               |
| 岡 山 縣 華 中 出 資                   |                                      | 龜 三 重 山 製 糸 盟<br>山 乾 滿 聯 糸<br>合 遠 參 製 王 滿 絲 絲 同                      | 組 組 青 下<br>合 合 木 平<br>製 製 勝 晒<br>絲 糸 雄 四                                          |
| 一<br>七<br>〇<br>五<br>五<br>〇<br>〇 | 七<br>一<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇<br>〇 | 一<br>、<br>三<br>九<br>〇<br>〇<br>三<br>、<br>八<br>一<br>二<br>〇<br>〇        | 一<br>、<br>三<br>九<br>〇<br>六<br>、<br>六<br>二<br>二<br>〇<br>〇<br>二<br>、<br>一<br>七<br>〇 |
| 一<br>一<br>三                     | 三<br>一<br>一<br>二<br>一<br>二<br>三      | 五<br>六<br>二                                                          | 四<br>六<br>三                                                                       |